

児玉町文化財調査報告書 第29集

金 佐 奈 遺 跡

— A 2 地点の調査 —

町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書24

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

児玉町文化財調査報告書 第29集

かな さ な い せき
金 佐 奈 遺 跡

— A 2 地点の調査 —

町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書24

1 9 9 8

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

序

児玉の発展、将来を見越して行われた本事業に伴い発掘されたこの遺跡は、将来と過去を結ぶ一つの線といえるでしょう。過去においても児玉町が人々によって、開墾、生活の場として手が加えられ、安住の地として営みが続けられてきました。また、このことは現在が過去となったとき、今の児玉町が私たちの生活の基盤であり、それはまた絶えることのない過去が礎になっていることが証明されることに他なりません。

将来がやがて過去になったとき、私たちが現在、児玉町の将来を考え、計画した事業もまた新たな歴史として加えられることでしょう。そしてその歴史がさらに古い歴史に基づいて続いていることをつまびらかにしたこの報告書が大切な将来への遺産の一つであることはいままでもありません。

このささやかな報告書が刊行されることにより、今後、歴史を解明するための一資料として御活用くだされば幸甚でございます。最後になりましたが、本報告書がこの度、無事に刊行できましたことは、町民の皆様をはじめ、本庄土地改良事務所ならびに関係諸機関の暖かいご理解とご協力の賜であり、深く感謝するものであります。

平成10年3月3日

児玉町教育委員会
教育長 富丘 文雄

例 言

- 1、本書は、埼玉県児玉郡児玉町大字上真下字金佐奈ほかに所在する金佐奈遺跡A 2 地点の発掘調査報告書である。
- 2、発掘調査は、県営かん排事業（九郷地区）に先立つ町内遺跡保存事業として、平成3年度に児玉町教育委員会が実施したものである。
- 3、調査の担当は、徳山寿樹があたった。
- 4、発掘調査及び整理・報告書に要した経費は、町費・国庫補助金・県費補助金（埼玉県教育委員会）および委託金（埼玉県）である。
- 5、本書の編集は、整理参加者の協力を得て徳山寿樹が行い、執筆分担については各文末に記した。また、遺物についての編集は大熊季広が行った。
- 6、発掘調査及び本書作成にあたって下記の方々や機関から御助言・御協力を賜った。（順不同、敬称略）
赤熊浩一、池田敏宏、岩瀬 譲、岩本克昌、梅沢太久夫、江原 英、大倉 潤、太田博之、大屋道則、岡本幸夫、徳山美砂、金子彰男、駒宮史朗、小宮山克己、坂本和俊、笹森健一、篠崎 潔、外尾常人、高橋一夫、瀧瀬芳之、田村 誠、千装 智、利根川章彦、鳥羽政之、中沢良一、長滝歳康、中村倉司、長谷川勇、坂野和信、平田重之、増田逸朗、増田一裕、丸山 修、丸山陽一、水村孝行、宮本直樹、矢内 勲、山川守男、山口逸弘、弓 明義、佐藤博之、井口泰基、埼玉県生涯学習部文化財保護課、本庄土地改良事務所、児玉北部土地改良区、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、児玉郡市文化財担当者会、東海大学考古学研究会
- 7、本書作成の主な作業分担は、次のとおりである。
土器接合・復元（新井千都子、黒沢律子、白石敏子、野沢公代、峯 祐子）
土器復元ほか（田口照代、林 和代、熊谷由美子、倉林美紀、中原慶子）
土器観察・実測（大熊季広、桜井和哉、永井智教、逸見百合子、藤田正美）
遺構原図操作（徳山寿樹、松澤浩一、新井嘉人）
ト レ ー ス（倉林八重子、中原好子、根岸富士江）
遺 物 写 真（尾内俊彦、赤堀俊子、新井栄子）
本文レイアウト（徳山寿樹）

発掘調査の組織

平成3年度（発掘調査）

調査主体	児玉町教育委員会	教育長	富丘	文雄
事務局	児玉町教育委員会社会教育課			
	社会教育課	課長	吉川	豊
		課長補佐	前川	由雄
	社会教育係	主任	金子	幸弘
		主事	渋谷	路子
		主事	恋河内	昭彦
担当者	社会教育係	主任	鈴木	徳雄
		主事	徳山	寿樹
調査員補			千装	智
			尾内	俊彦

平成9年度（整理・報告）

調査主体	児玉町教育委員会	教育長	富丘	文雄
事務局	児玉町教育委員会社会教育課			
	社会教育課	課長	関根	安男
	社会教育係	係長	根岸	敬明
		主任	倉林	美恵子
	文化財係	係長	鈴木	徳雄
		主任	杉山	茂俊
		主任	恋河内	昭彦
担当者	文化財係	主事	徳山	寿樹
		主事	大熊	季広
調査員補			尾内	俊彦
			松澤	浩一

目 次

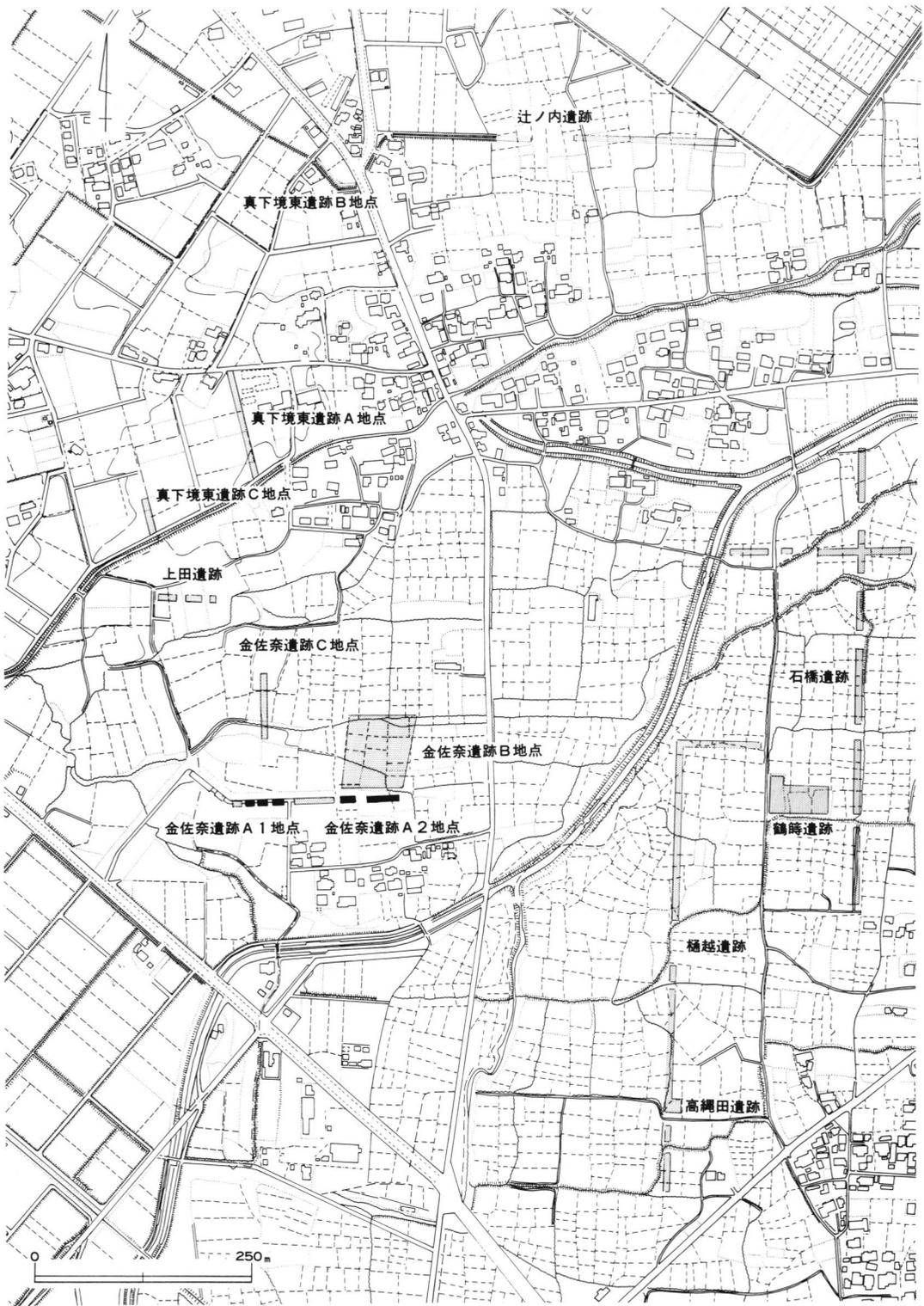
序

例 言

目 次

第Ⅰ章	発掘調査の経緯	1
第Ⅱ章	遺跡の地理的・歴史的環境	3
	1. 地理的環境	3
	2. 歴史的環境	3
第Ⅲ章	金佐奈遺跡 A 2 地点の調査	7
	1. 遺跡の概要	7
	2. 基本土層	8
	3. 遺構の概要	9
第Ⅳ章	まとめ	107

写 真 図 版

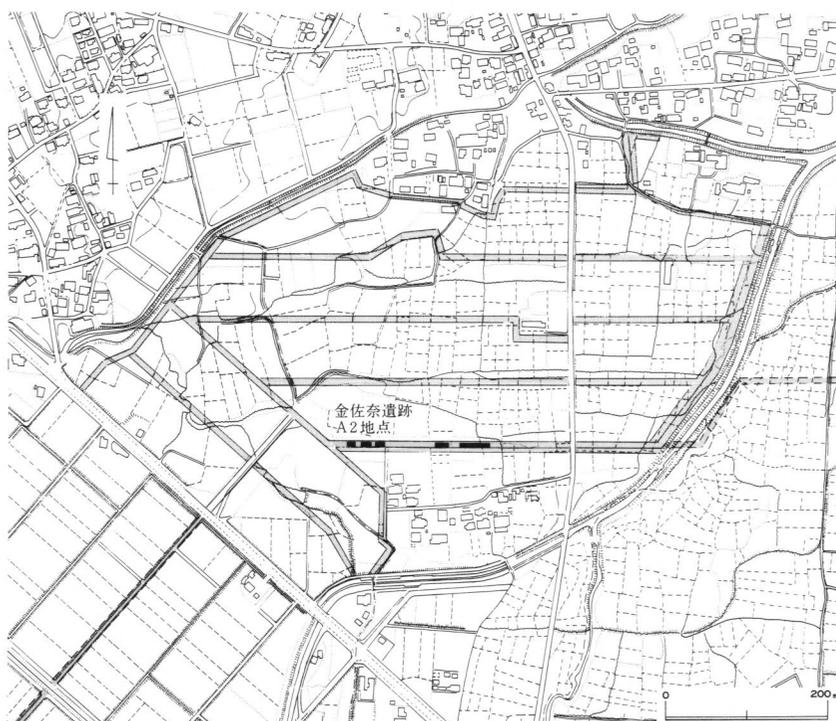


第1図 金佐奈遺跡A2地点調査位置図

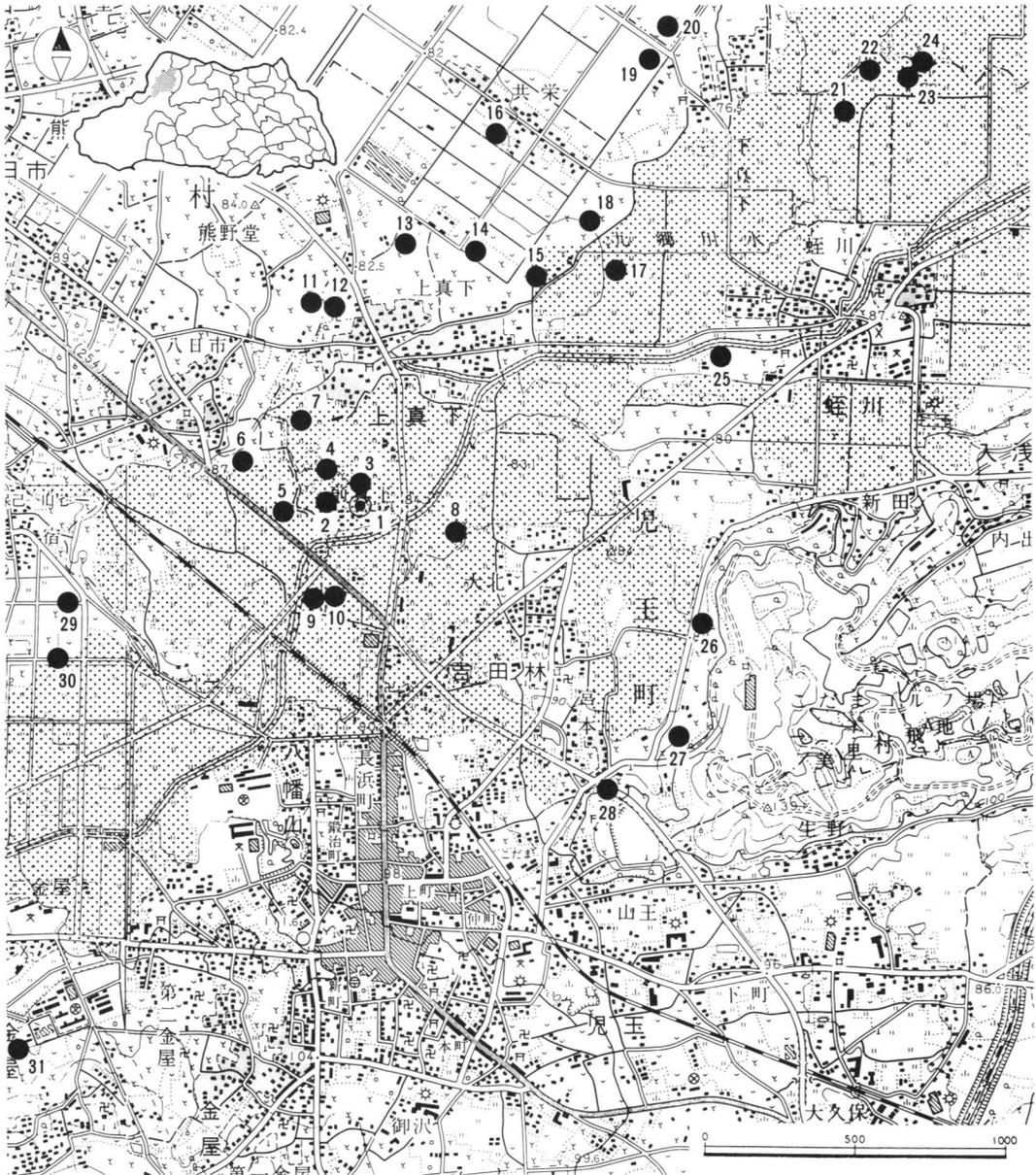
第Ⅰ章 発掘調査の経緯

本報告にかかわる発掘調査は、平成3年度の県営かんがい排水事業（九郷地区）に先立つ埋蔵文化財保存事業として実施したものである。平成3年度事業については、上記の事前協議に基づき埼玉県教育局文化財保護課、県耕地課、埼玉県本庄土地改良事務所及び町教育委員会が平成2年12月に打ち合せ会議を行った。この結果平成3年度工区のうち、今回報告の金佐奈遺跡（No54-298）の現状変更される区域について発掘調査による記録保存の措置をとることになった。平成3年5月8日付土地第210号で県営かんがい排水事業九郷地区の埋蔵文化財の取扱いについて町教育委員会を經由して県教育委員会へ協議が行われ、発掘調査を実施することが決定した。児玉町教育委員会より平成3年6月5日付児教社第82号で発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。文化庁からは平成4年4月8日付3委保記第5-5065号をもって発掘調査通知書の受理について通知があった。一方、平成3年6月4日付本地第365号で埼玉県本庄土地改良事務所長より埋蔵文化財発掘の通知が提出され、平成3年10月5日付教文第3-228号で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知があった。

（事務局）



第2図 遺跡周辺工事概要図



第3図 奈良・平安時代の主要遺跡

No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名
1	金佐奈遺跡A 2地点 (本報告)	12	真下境東遺跡 (鈴木他1989)	23	藤塚遺跡B 1地点 (徳山他1996)
2	金佐奈遺跡A 1地点 (徳山他1997)	13	辻ノ内遺跡 (鈴木他1991)	24	前田甲遺跡 (増田1992・1995)
3	金佐奈遺跡B 地点 (1992年調査)	14	新宮遺跡 (恋河内1995)	25	蛭川坊田遺跡 (1990年調査)
4	金佐奈遺跡C 地点 (徳山他1997)	15	坊田遺跡 (1987年調査)	26	割山遺跡 (1991年調査)
5	反り町遺跡 (金子他1995)	16	南共和遺跡 (恋河内1995)	27	阿知越遺跡 (鈴木他1983・1984)
6	八荒神南遺跡 (金子他1995)	17	中下田遺跡 (鈴木他1991)	28	御林下遺跡 (駒宮他1977・1987年調査)
7	上田遺跡 (徳山他1997)	18	塚島遺跡 (鈴木他1991)	29	東鹿沼遺跡 (徳山他1996)
8	樋越遺跡 (恋河内1995)	19	古井戸遺跡 (井上他1986・赤熊他1988)	30	円良岡遺跡 (鈴木他1981)
9	反り町南遺跡 (1995年調査)	20	将監塚遺跡 (井上他1986・赤熊他1988)	31	倉林後遺跡 (利根川1981・1994年調査)
10	八幡山北田遺跡 (1995年調査)	21	藤塚遺跡A 地点 (徳山他1995)		
11	真下境西遺跡 (田村他1995)	22	藤塚遺跡B 2地点 (徳山他1996)		

第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

遺跡の所在する児玉町は、埼玉県の北西部に位置し、東は美里町、西は神川町、南西は神泉村、南は長瀬町と皆野町、北は本庄市と上里町に境を接している。町は南西から北東にかけて細長い形を呈しており、町の面積は52.93hで総面積の約26%が山林、約32%が耕作地である。

地形

町の地形及び地質は、南東・北西方向に伸びる八王子―高崎構造線の断層線によって南西の山地部と北東の平野部に明瞭に分けられる。南西の山地は、上武山地に属し、陣見山・不動山を主体とする。地質的には関東地方から九州北東部まで伸びる「三波川変成帯」と呼ばれる結晶片岩で構成される地域に含まれる。北東の平野部は、丘陵と台地と低地の三地形に区分される。丘陵は上武山地の縁辺部に続き、児玉丘陵と呼ばれている。台地については、神流川により形成された扇状地である本庄台地^が、町域内における平地の大部分を占めており、小山川・女堀川により開析された部分が沖積低地を形成している。沖積低地内には所々に微高地がみられるが、この中には河川による開析時に主要部から切り放された台地の一部が残丘状に残ったものもある。現在、この台地と低地は明確な比高差をもたず、明瞭に区分することは困難であるが、畑地帯と水田地帯という土地利用の違いを目安に、区分することは可能である。

河川

平野部に水を供給するものとして、町内を女堀川・小山川の二本の河川が流れるが、神流川扇状地上に位置することから表流水量が少なく大半が伏流してしまう。そのためこの辺りでは古くから用水を巡らし水を確保している。

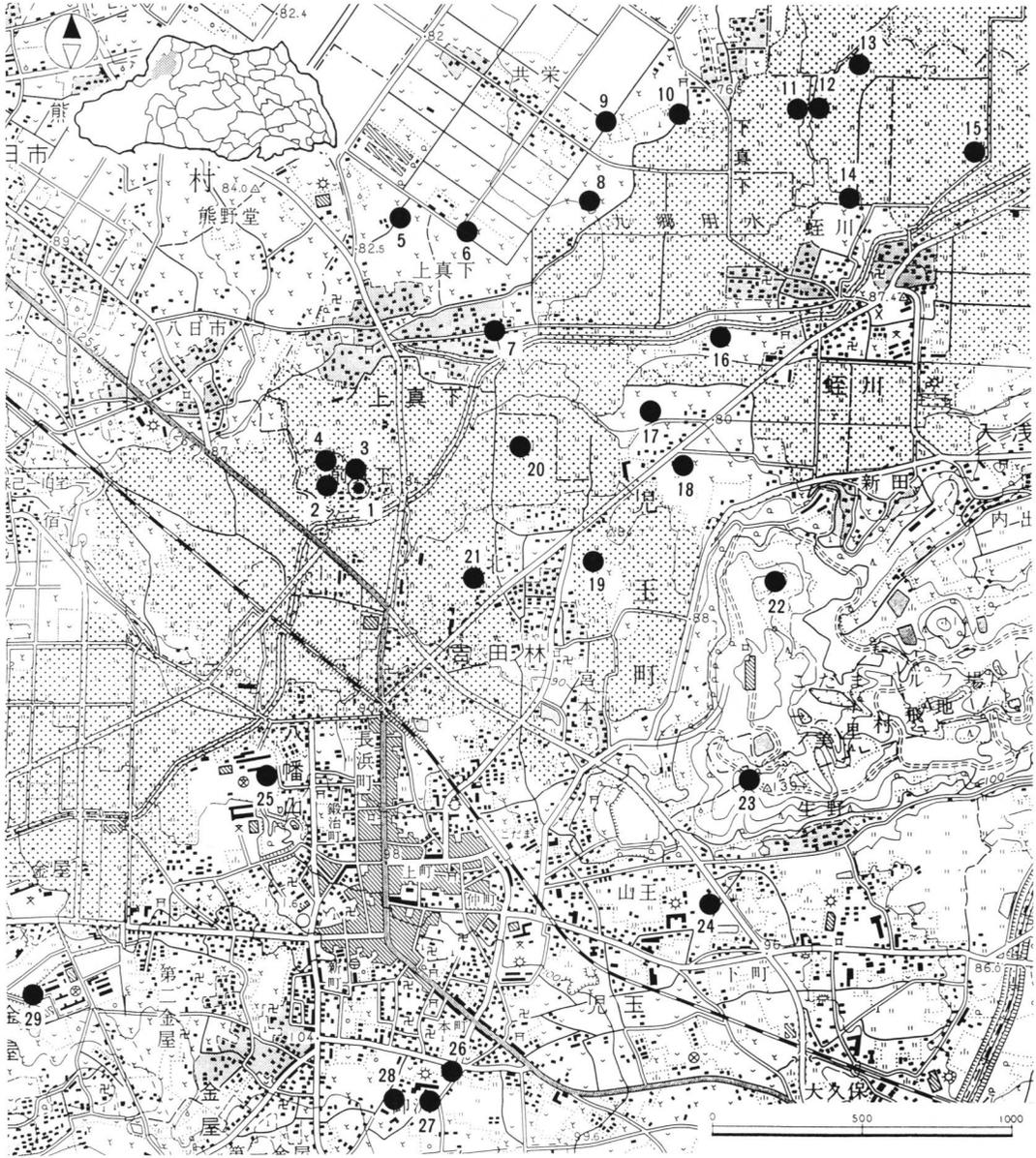
遺跡は児玉町大字上真下字金佐奈ほかに所在し、町の北部、女堀川中流域左岸の神川町との境界付近の微高地から低地にかけて位置している。

2. 歴史的環境

児玉町の平野部に分布する遺跡は、平野部の開発に伴い、居住域を様々に変化させている。とりわけ灌漑系統の変化が大きく作用し、これは様々な政治的、社会的関係により多様に変化するものと思われる。このことから居住域の変化にはこの地域の統治体制の変化が内包されていることが推測される。ここでは前段階の古墳時代中期（和泉期）から、本報告の遺跡に該当する古墳時代後期（鬼高期）から平安時代（国分期）にかけての周辺遺跡の分布をみることにより、当時の遺跡環境を概観してみようと思う。

和泉期の集落分布

和泉期は、女堀川により形成された沖積地内の自然堤防や微高地に占地しており、後張遺跡のような周りの集落の中心的存在とも言える大規模集落や古井戸遺跡、高縄田遺跡、平塚遺跡、根田遺跡などの和泉期単一の集落がみられる。



第4図 古墳時代の主要遺跡

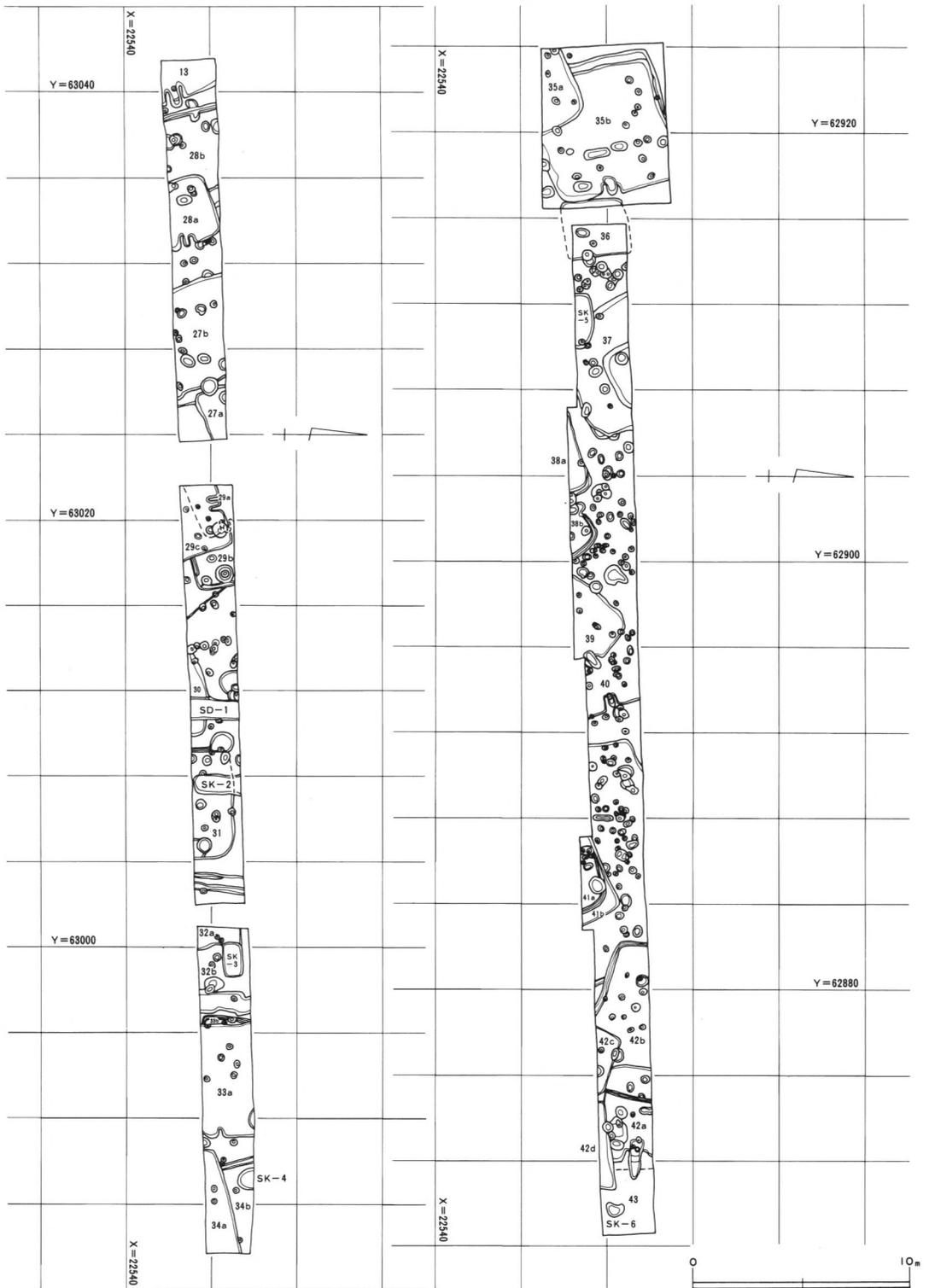
No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名
1	金佐奈遺跡A 2地点 (本報告)	11	堀向遺跡 (徳山他1995)	21	高縄田遺跡 (恋河内1995)
2	金佐奈遺跡A 1地点 (徳山他1997)	12	藤塚遺跡A地点 (徳山他1995)	22	生野山銚子塚古墳 (菅谷1973)
3	金佐奈遺跡B地点 (1992年調査)	13	藤塚遺跡B 2地点 (徳山他1996)	23	物見塚古墳 (菅谷1984)
4	金佐奈遺跡C地点 (徳山他1997)	14	左口遺跡 (徳山他1994)	24	児玉清水遺跡 (1995年調査)
5	辻ノ内遺跡 (鈴木他1991)	15	柿島遺跡 (徳山他1995)	25	八幡山埴輪窯跡
6	新宮遺跡 (恋河内1995)	16	蛭川坊田遺跡 (1990年調査)	26	長沖31号墳
7	上真下境遺跡 (1986年確認調査)	17	辻堂遺跡 (恋河内1996)	27	長沖32号墳
8	塚島遺跡 (鈴木他1991)	18	南街遺跡 (恋河内1996)	28	長沖25号墳 (金子他1980)
9	古井戸南遺跡 (1984年調査)	19	宮田遺跡 (恋河内1995)	29	倉林後遺跡 (利根川1981・1994年調査)
10	平塚遺跡 (徳山他1994)	20	鶴蒔遺跡 (恋河内1995)		

和泉期後半になると、本庄台地縁辺部や独立丘裾部などに占地した小規模集落がみられるようになる。また集落以外に、直径60mを測る首長墓級の円墳である、金鑽神社古墳や生野山將軍塚古墳、公卿塚古墳などの格子目叩きの埴輪を有するものが築造されるようになる。

鬼高期の集落分布 鬼高期になっても、沖積地内の自然堤防や微高地上の集落は継続的であり、藤塚遺跡、柿島遺跡、左口遺跡、古井戸南遺跡、塚島遺跡、辻ノ内遺跡、共和小学校校庭遺跡、鶴蒔遺跡、梅沢遺跡、川越田遺跡、後張遺跡、飯玉東遺跡、新宮遺跡、辻堂遺跡、南街道遺跡、宮田遺跡などが存在する。本庄台地縁辺部、独立丘裾部の小集落も増加し雷電下遺跡、枇杷橋遺跡、ミカド遺跡、真鏡寺後遺跡、宮ヶ谷戸遺跡、山根遺跡、鷲山南遺跡、浅見境遺跡などの遺跡が形成されるようになってくる。この鬼高期頃には当該遺跡の北に位置する金佐奈遺跡B地点や金佐奈遺跡C地点、神川町八荒神南遺跡において、同一系統と思われる水路跡が検出され、当時の灌漑設備の一端を垣間見ることができるといえる。鬼高期後半になると、丘陵部などに集落は拡散し従来の沖積地内の集落は縮小や消滅の傾向をたどる。

真間期の集落分布 真間期になると占地の変容が起こり、沖積低地内の自然堤防、微高地上の集落は衰退し、独立丘裾部、本庄台地縁辺部などに居住地域が移動する傾向がある。八幡太神南遺跡、立野南遺跡、辻ノ内遺跡、真下境東遺跡、真下境西遺跡、南共和遺跡、新宮遺跡、諏訪遺跡、将監塚遺跡、古井戸遺跡、熊野太神遺跡などがそれである。この現象は律令体制の成立段階における条里制の展開が要因となっていると思われ、このことは一定の政治的強制力を背景に計画的集落の設営がなされたと捉えることができる。条里を整備するにあたり真間期には児玉郡広域を網羅する古九郷用水の開鑿が行われた。しかし、7世紀中頃はまだ政治的基盤が安定していないためか、これらの遺跡が必ずしも長期間継続するとは限らず、真間期後半、8世紀初頭頃に形成される将監塚・古井戸遺跡などの集落の出現をもって安定する傾向にある。

国分期の集落分布 国分期は、独立丘裾部、本庄台地縁辺部の集落は次第に縮小し沖積地内の自然堤防や微高地上に拡散する。これらの遺跡としては、後張遺跡、一丁田遺跡、今井川越田遺跡、塚島遺跡、中下田遺跡、新宮遺跡、上真下東遺跡、東牧西分遺跡、柿島遺跡、左口遺跡、蛭川坊田遺跡、鶴蒔遺跡などがある。10世紀前半以降、拡散現象はさらに進み、先の律令的な計画的集落は殆ど解体し小規模な集落が各地域に点在するようになる。条里施行区域以外にも展開し根田遺跡、雷電下遺跡、鷲山南遺跡、浅見境遺跡、新屋敷遺跡、吉田林割山遺跡、阿知越遺跡などの集落が形成される。このような集落の衰退や拡散現象は当該地域における律令制の変質過程の一端を示しているものと思われる。（藤田正美）



第5図 金佐奈遺跡A 2地点全測図

第三章 金佐奈遺跡 A 2 地点の調査

1. 遺跡の概要

本遺跡は、大字上真下字金佐奈及び字南他に所在しており、金佐奈遺跡（埼玉県遺跡地図No54-298）に該当している。県営かん排事業（九郷地区）平成2年度工区は金佐奈遺跡第1次調査として、平成3年度工区は金佐奈遺跡第2次調査として発掘調査を行ってきた。しかし新たに県営畑地帯総合土地改良事業（神川東部地区）の大規模な開発事業が本地域で進められ、事業の違いや遺跡内での発掘地点増加による混乱を避けるため、本報告である第2次調査を金佐奈遺跡 A 2 地点、第1次調査を A 1 地点と呼称を変更した。なお金佐奈遺跡 A 1 地点については、既に報告済みである。

遺跡の立地

遺跡の立地は、女堀川左岸の微高地上に位置している。また、本集落は南から流下してくる女堀川が、北東に展開する児玉条里遺跡（No54-121）方面に一気に方向を変える地点の北側にあたる。

本遺跡からは、古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴式住居址33軒の他土壌などが検出されている。しかし、中世前後から行われた大規模な開墾のため遺構の遺存状態は良好とはいえなかった。その中で、第35b号住居址から出土した大量の土師器は特筆されるべきであろう。

調査区は、現農道や工事用の基準杭等を境に西側より第Ⅰ区から第Ⅴ区を設定し、幅2m総延長108mの面積約300㎡に付いて調査を実施した。また、既に調査・報告が行われている金佐奈遺跡 A 1 地点で検出した集落と本報告の集落は同一の集落であるため、住居番号は、A 1 地点と通番とし、本報告は第27号住居址より始まる。本報告の第13号住居址は、A 1 地点の調査で遺構の一部を調査報告を行ったものでありそのままの住居番号を使用した。（徳山寿樹）



第6図 金佐奈遺跡 A 2 地点現況位置図

2. 基本土層

第7図に示した土層は、本遺跡の第I区から第V区における基本土層図である。全体的にローム層直上にあたる層位において浅間山系A軽石と浅間山系B軽石が混在する状況が認められ中世以降の開墾がかなり土層深部に及んでいることが解る。

第I区～第III区基本土層説明

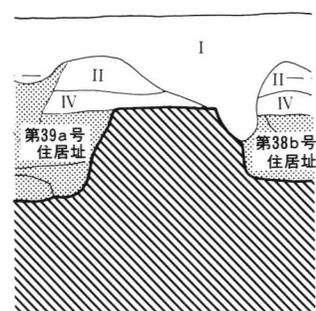
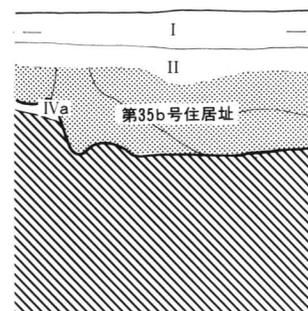
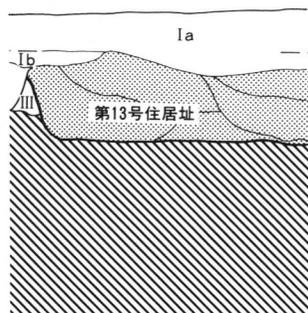
- | | | |
|-------|------|--------------------------------|
| 第I層 | 灰褐色土 | (A s - A)を含む。
(近・現代の耕作土) |
| 第II層 | 暗褐色土 | (A s - A)を含まない。
(古代～中世の耕作土) |
| 第III層 | 黒色土 | 粘性が若干ある黒色土。
(古代以前の表土) |
| 第IV層 | 黄褐色土 | ロームブロックを多く含む。
(ハードロームゼンイ) |
| 第V層 | 黄色土 | 浅間一板鼻黄色軽石を含む。(ハードローム) |

第IV区基本土層説明

- | | | |
|-------|------|---|
| 第I層 | 灰褐色土 | しまり、粘性共になし。
(A s - A)を非常に多く含む。
(近・現代の耕作土層) |
| 第II層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共になし。
(A s - A)・(A s - B)を多く含む。焼土粒子・炭化物粒子を含む。
(中世～近世の耕作土) |
| 第III層 | 黒色土 | 粘性が若干ある黒色土。
(古代以前の表土) |
| 第IVa層 | 黄褐色土 | ロームブロックを多く含む。(ハードロームゼンイ) |
| 第IVb層 | 黄色土 | 浅間一板鼻黄色軽石を含む。(ハードローム) |

第V区基本土層説明

- | | | |
|--------|------|-----------------------------|
| 第I a層 | 灰褐色土 | (A s - A)を含む。
(近・現代の耕作土) |
| 第II a層 | 暗灰色土 | 白色パミスが多い。 |
| 第II b層 | 明灰色土 | 白色パミスが少ない。 |
| 第II c層 | 暗褐色土 | 白色パミスが少ない。 |
| 第III層 | 黄褐色土 | ロームブロックを多く含む。(ハードロームゼンイ) |
| 第IV層 | 黄色土 | 浅間一板鼻黄色軽石を含む。(ハードローム) |



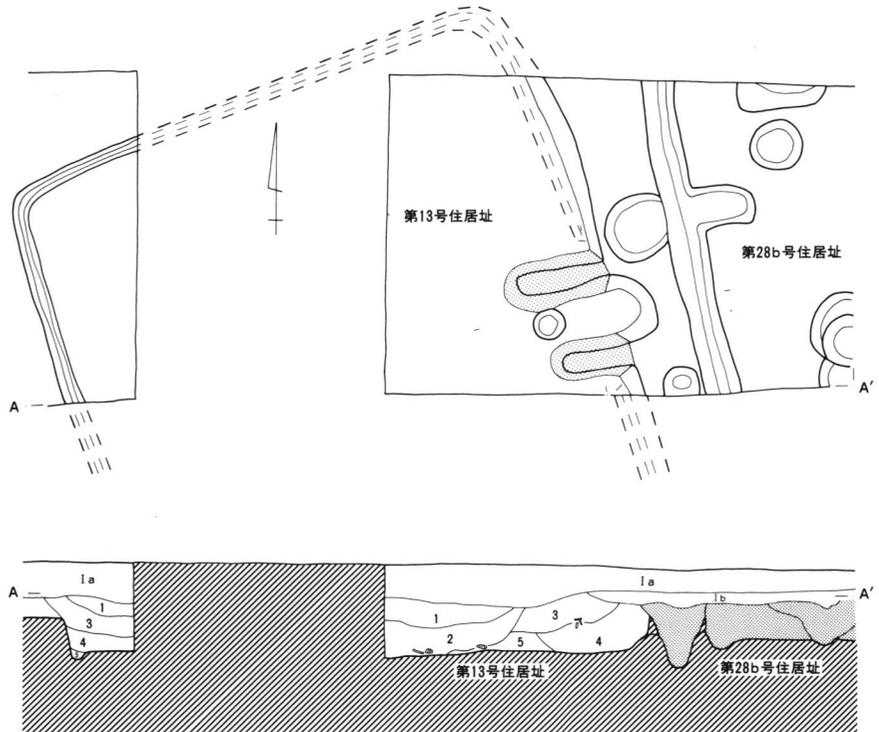
第7図 基本土層

3. 遺構の概要

a. 竪穴式住居址

第13号住居址（第8図 図版1-1）

本址は、調査区第Ⅰ区最西端に構築されており、金佐奈遺跡A1地点の調査において住居址の西側の一部を第13号住居址として調査している。本址の中央部分は農道であり未調査の為、調査は全体の4割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、東西の1辺は約4.45mを測り、深さは確認面より約21cmを測る。壁は、しっかりしており部分的に壁溝を有している。壁溝の深さは床面より平均10cmを測る。また、東壁には、カマドが構築されているのが検出されたが、柱穴や貯蔵穴などは検出できなかった。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。



第8図 第13号住居址

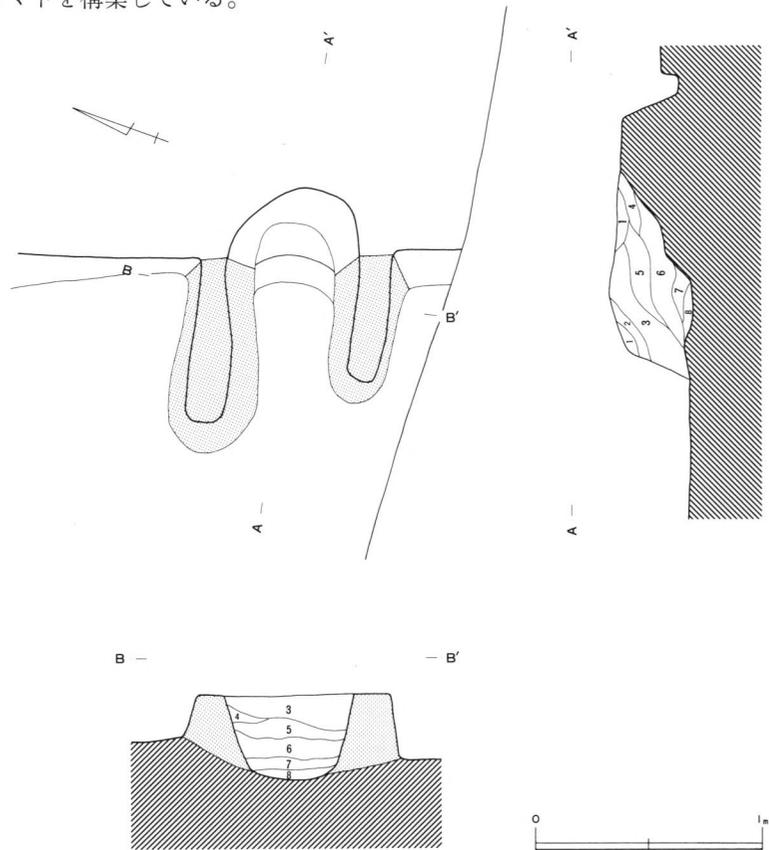


第13号住居址土層説明

- | | | |
|-----|------|--|
| 第1層 | 暗褐色土 | 粘性、しまり共に有する。径1mm以下のローム粒子を若干含む。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 粘性、しまり共に有する。径1～5mm位のローム粒子を含む。 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 粘性、しまり共に有する。第2層に類似するが、径1mm以下の焼土粒子を含む。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 粘性、しまり共に有する。径1～10mm位のローム粒子・粘土粒子及び径1mm位の炭化粒子・焼土粒子を多く含む。 |
| 第5層 | 明褐色土 | しまりを有し、粘性が非常に強い。カマド崩壊土層である。 |

第13号住居址カマド（第9図 図版1—2）

本址、は東側壁のほぼ中央に構築されていると推定される。依存状態は天井部を除いて良好であり規模は、全長120cm、焚口幅40cm、袖部長80cmを測る。焚口部はやや狭くカマドの主軸のやや北側に支脚が設置されていたと推定されるピットが検出されたが、支脚は持ち去られていた。支脚が設置されていた部分がやや高くなっているが燃焼部と床面の高さは同じであった。また、カマド構築時における袖部の割付は、縦穴式住居を構築の際ハードロームを掘込んだ時には既に計画的に堀残されたものであり、それを基盤に粘質土を盛り上げカマドを構築している。



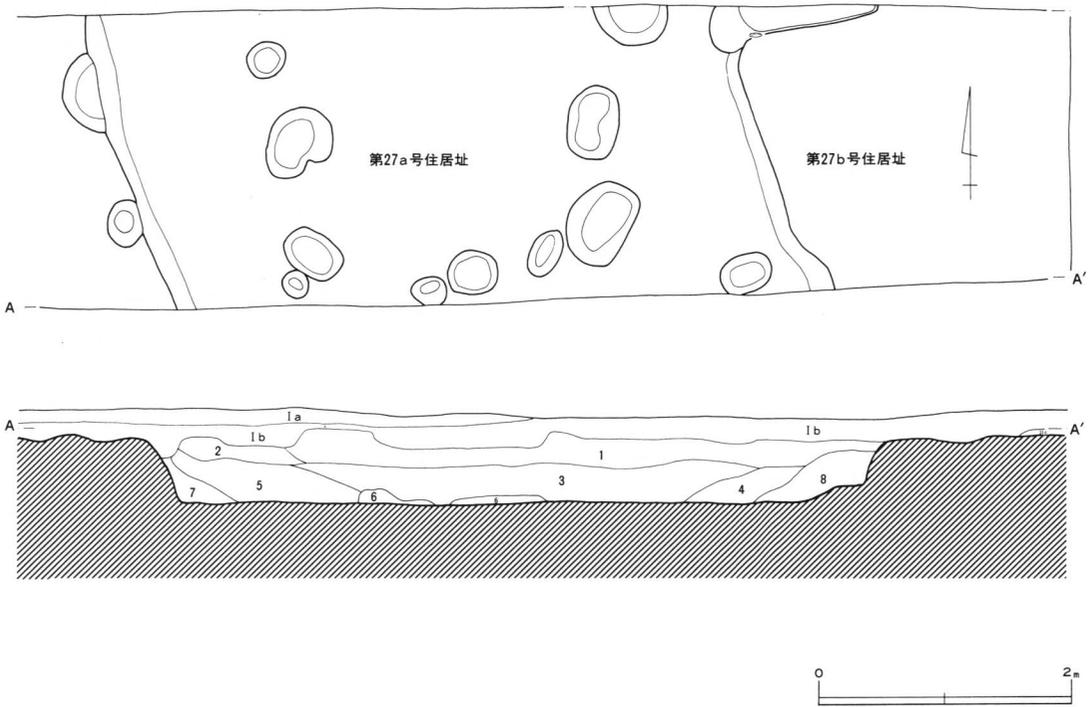
第9図 第13号住居址カマド

第13号住居址カマド土層説明

- | | | |
|-----|-------|-------------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 焼土・白色粒を少量含む。しまりは普通で粘性なし。 |
| 第2層 | 黄褐色土 | ロームブロックを含む。粘性強くしまり良好。 |
| 第3層 | 明黄褐色 | 焼土を多量に、ロームブロックを含む。しまり、粘性を有する。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 焼土粒を含む。しまりは普通で粘性を有する。 |
| 第5層 | 暗黄褐色土 | 焼土を含む。しまりは普通で粘性を有する。 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 焼土を少量含む。しまりは普通で粘性を有する。 |
| 第7層 | 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。しまり悪く粘性を有する。 |
| 第8層 | 暗褐色土 | ローム粒を含む。しまり良く粘性を有する。 |
- 色調 明 3>2>7>5>1>4>6>8 暗

第27a号住居址（第10図 図版1—1・2）

本址は、調査区第I区中央付近よりやや東側に構築されている。遺構の北側と南側部分は調査区外へ延びており、調査は全体の6割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、推定できる東西の一辺は約4.85mを測り、深さは確認面より約30cmを測る。床は、ほりかたの上にロームブロック主体の土で平らに張り床を施し、床は硬化面を成していた。また、東壁には、カマドが構築されていたが、貯蔵穴や明確な柱穴などの付帯施設は検出されなかった。出土遺物により平安時代（国分式）の所産である。そのほか、カマドから南西に約2m付近の床上より石製紡錘車が出土している。



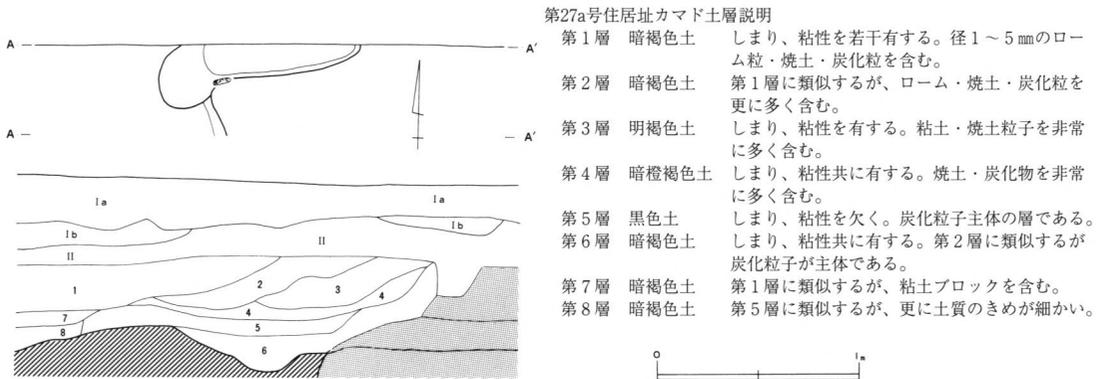
第10図 第27a号住居址

第27a号住居址土層説明

- | | | |
|-----|------|---|
| 第1層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。径1mm位のローム粒子を多く含む。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。第1層に類似するが、ローム粒子の含有量が少ない。 |
| 第3層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。径1~30mmのローム粒子を多く含む。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。径1~5mmのローム粒子を多く含む。第3層より色調が暗い。 |
| 第5層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。径1~50mmのロームブロックを多く含む。 |
| 第6層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。ローム粒子が比較的少ないが、焼土粒・炭化物を多く含む。 |
| 第7層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。径1~30mmのローム粒を多く含む。 |
| 第8層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。径1~20mmのローム粒を多く含む。 |

第27a号住居址カマド（第11図 図版3—1）

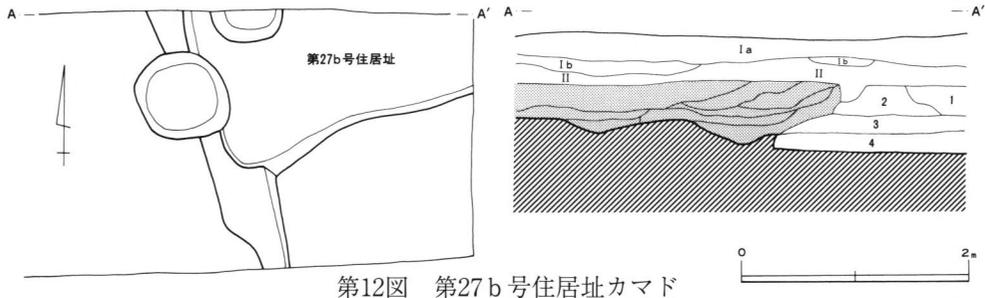
本址は、東側壁のほぼ中央に構築されていると推定される。依存状態は天井部を除いて良好であったが、遺構の約半分は調査区外に当たり調査は全体の約5割に留まった。確認できた規模は、煙道部を含めた全長135cm、焚口幅約20cm、残存高は最大で65cmを測った。明瞭な袖部は、検出されず焚口部の方壁には、補強材と推定される片岩の礫が縦位に設置されていた。また、本体下部には、ほりかたが施されており燃焼部は床面より下がっている。その他、支脚などは検出できなかった。



第11図 第27a号住居址カマド

第27b号住居址（第12図 図版2—1・2）

本址は、調査区第I区最東端に構築されており、住居址の西側の一部を第27a号住居址カマドに切られている。また、本址の大部分は、調査区外北東方向へ延びており、調査は全体の3割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈していると推定され、深さは確認面より約40cmを測る。床は、ほりかたの上にロームブロック主体の土で平らに張り床を施し、床は硬化面を成していた。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。



第12図 第27b号住居址カマド

第27b号住居址土層説明

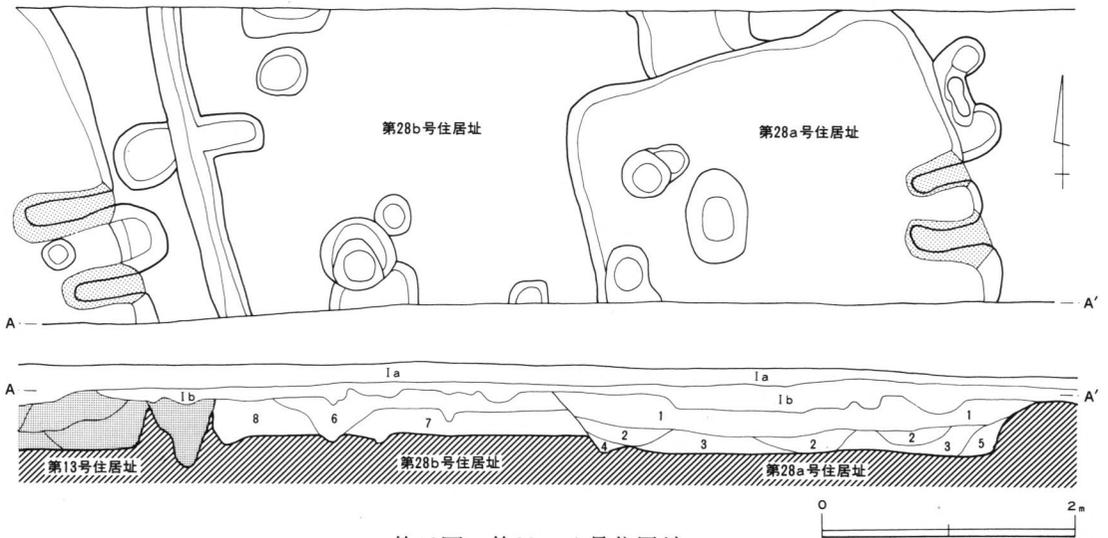
- | | | |
|-----|------|---------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。ローム粒子を若干含む。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 第9層に類似するが、ローム粒子の含有量が少ない。 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 第10層に類似するが、ローム粒子の含有量が少ない。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | しまり、粘性若干有する。ローム微粒子を多く含む。 |

第28a号住居址（第13図 図版3—2）

本址は、調査区第I区中央付近よりやや西側に第28b号住居址カマド付近を切って構築されている。遺構の南側の一部分は調査区外へ延びており、調査は全体の8割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、主軸である東西の一辺は約3.1mを測り、深さは確認面より約16cmを測る。東壁にはカマドが構築されていたが、貯蔵穴や明確な柱穴などの付帯施設は検出されなかった。出土遺物により古墳時代（鬼高Ⅱ式）の所産である。

第28b号住居址（第13図）

本址は、調査区第I区中央付近より西側に第28a号住居址によって、カマド付近を切られた状態で検出された。遺構の北側と南側部分は調査区外へ延びており、調査は全体の6割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、推定できる東西の一辺は約4mを測り、深さは確認面より約23cmを測る。さらに、東壁にはカマドが構築されており、住居址南東隅と推定される地点からは貯蔵穴が検出された。そのほか主柱穴が2本および西側壁には壁溝が確認されている。出土遺物により古墳時代（鬼高Ⅱ式）の所産である。



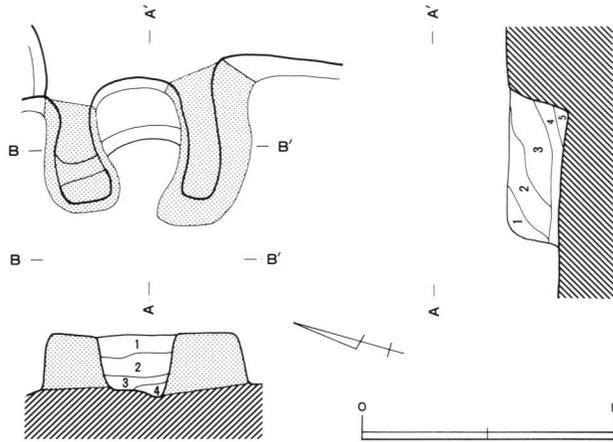
第13図 第28a・b号住居址

第28a・b号住居址土層説明

- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～10mmのローム粒を多く含む。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～5mmのローム粒を多く含む。
- 第3層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～20mmのローム粒を多く、焼土粒子を含む。
- 第4層 暗黄色土 しまり、粘性若干有する。径1～50mmのロームブロックを多く含む。
- 第5層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。第1層～第3層よりも色調がやや暗く、炭化粒子とローム粒子を含む。
- 第6層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1mm位のローム粒子と白色パミスを若干含む。
- 第7層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。第3層に類似するが焼土粒子を含まない。
- 第8層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径10～50mmのロームブロックを多く含む。

第28a号住居址カマド（第14図 図版4—1）

本址は、東側壁のほぼ中央に構築されている。依存状態は天井部を除いて良好であった。規模は、全長60cm、焚口幅約25cm、残存高は最大で25cmを測った。燃焼部は、床面より下がっている。その他、支脚や煙道部などは、検出されなかった。



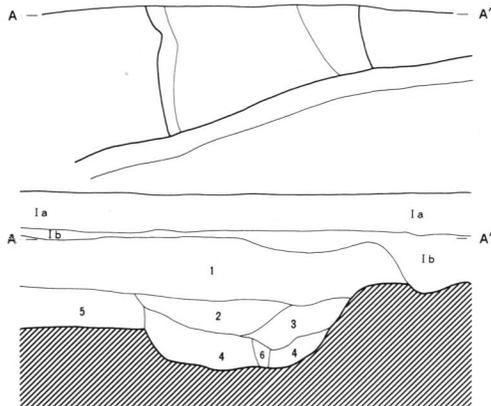
第14図 第28a号住居址カマド

第28a号住居址カマド土層説明

- | | | |
|-----|-------|-------------------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 焼土粒・ローム粒を微量含む。しまりは良好で粘性はない。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | ローム粒を多少含む。しまりは普通で粘性を有する。 |
| 第3層 | 暗黄褐色土 | ロームブロック・焼土ブロックを含む。しまりは普通で若干の粘性を有する。 |
| 第4層 | 黒色土 | ロームブロックを多く含む、焼土塊も含む。しまり弱く粘性を有する。 |
| 第5層 | 黄褐色土 | ローム粒子を多く含む。 |
| | 色調 | 明5>3>2>1>4暗 |

第28b号住居址カマド（第15図 図版4—2）

本址は、東側壁のほぼ中央に構築されていると推定される。遺構の南側は、第28a住居址によって切られており、依存状態は不良である。また、遺構北側の約半分は調査区外に当たり調査は全体の約4割に留まった。確認できた規模は、全長90cm、焚口幅約60cm、残存高は最大で30cmを測った。袖部は、検出されていない。また、本体下部には、ほりかた（第4層）が施されており燃焼部は床面より下がっている。その他、支脚が設置されていたと推定される土層（第6層）を確認している。



第15図 第28b号住居址カマド

第28b号住居址カマド土層説明

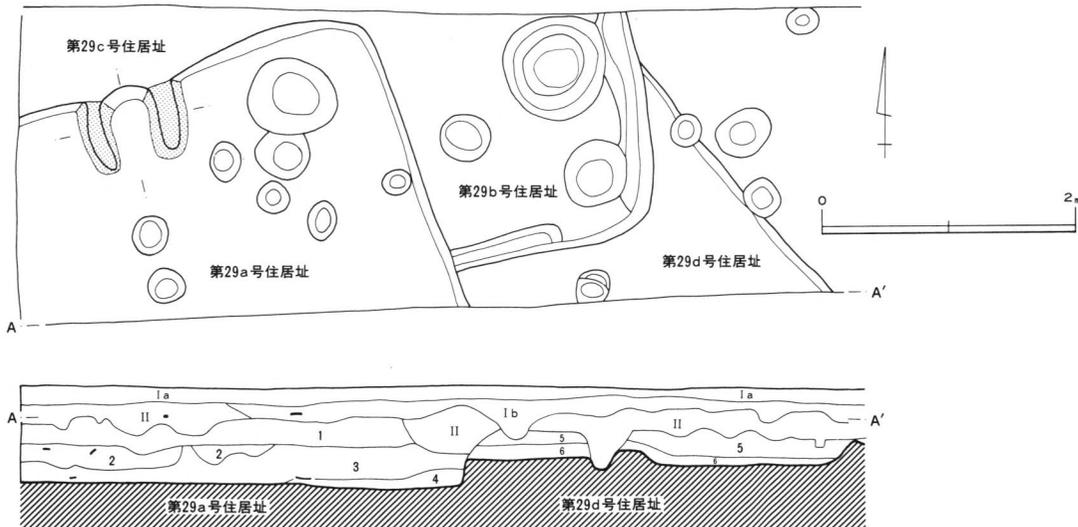
- | | | |
|-----|------|--|
| 第1層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。径1mm以下のローム粒子を多く含む、径1~10mmの焼土粒とローム粒を若干含む。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。第1層に類似するが焼土粒が少ない。 |
| 第3層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。第2層に類似するが焼土粒が多い。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。ローム粒・焼土を多く含む。 |
| 第5層 | 暗褐色土 | しまり、粘性共に有する。第1層に類似するが、1cm前後のローム粒が多い。 |
| 第6層 | 赤褐色土 | しまり、粘性共に有する。焼土を多量に含む。 |

第29 a 号住居址 (第16図 図版5—1・2)

本址は、調査区第Ⅱ区最西端に構築されており、第 a 号住居址から第 d 号住居址の4軒の切り合のうち最も新しい住居址である。本址の北側及び南側は調査区外の為、調査は全体の6割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、深さは確認面より約10cmを測る。壁は、やや緩やかに立ち上がり、床面は、平であるがほりかたを施していない。また、東壁には、カマドが構築されているのが検出されたが、支柱穴や貯蔵穴または壁溝などは検出できなかった。出土遺物により奈良時代(真間式)の所産である。

第29 b 号住居址 (第16図 図版6—2)

本址は、調査区第Ⅱ区最西端に構築されているが、西側のほとんどを第 a、c 号住居址によって切られている。また、本址の北側は調査区外の為、調査は全体の3割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈していると推定され、深さは確認面より約35cmを測る。壁は、床に直角に立ち上がり、床面は、平であるがほりかたを施していない。また、部分的に壁溝が検出されておりその深さは、床面より約8cmを測る。さらに、南東隅よりやや北側に貯蔵穴が検出され、ほか支柱穴が2本検出された。しかし、カマドは検出できなかった。出土遺物により古墳時代(鬼高Ⅱ式)の所産である。



第16図 第29 a・b 号住居址

第29 a・b 号住居址土層説明

第1層 暗褐色土 しまり強く粘性を有する。径1~10mmのローム粒子・焼土粒を含む。
 第2層 暗褐色土 粘性、しまり有する。径1~10mmのローム粒子・焼土粒子を含む。
 第3層 暗褐色土 粘性、しまり若干有する。径1~5mmのローム粒子を含む。
 第4層 暗褐色土 粘性、しまり若干有する。第3層に類似するがローム粒子が多い。
 第5層 暗褐色土 粘性、しまり強い。ロームが混入し、径1~5mmの焼土を多く含む。
 第6層 暗褐色土 粘性、しまり共に有する。径1~3mmのローム粒子を含む。
 第7層 暗褐色土 粘性、しまり共に有する。径1~10mmのローム粒子を含み、径1~5mmの焼土をわずかに含む。

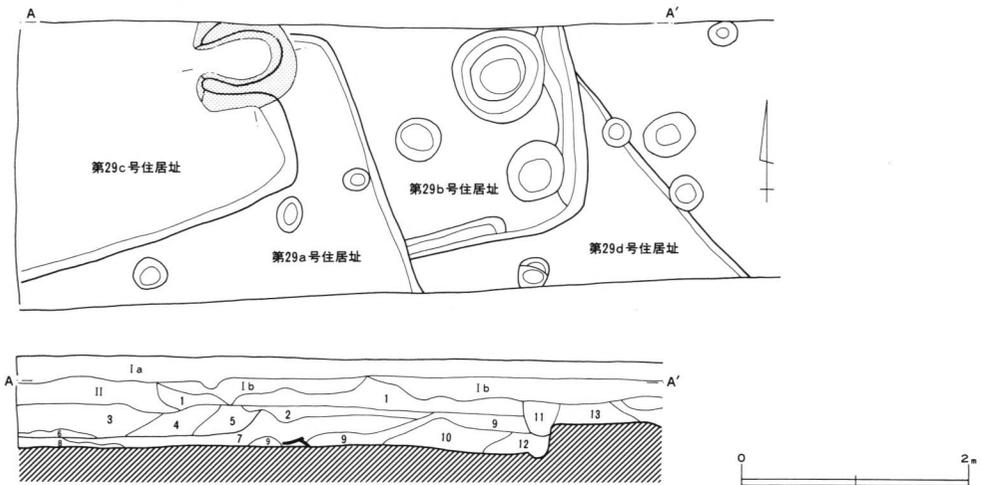
第8層 暗褐色土 粘性、しまり共に有する。径1~30mmのローム粒子を多量に含む。
 第9層 暗褐色土 粘性、しまり共に有する。径1~5mmのローム粒子・焼土を含み、径10~20mmのローム粒子を若干含む。
 第10層 暗褐色土 粘性、しまり共に有する。第8層に類似する。
 第11層 暗褐色土 粘性、しまり共に有する。径1~10mmのローム粒子を含み、径1~3mmの焼土を若干含む。
 第12層 暗褐色土 粘性、しまり共に有する。径1~10mmのローム粒子を含む。
 第13層 暗褐色土 粘性、しまり共に有する。径1~5mmのローム粒子を含む。

第29c号住居址（第17図 図版7—1）

本址は、調査区第Ⅱ区最西端に構築されており、第b・d号住居址を切って構築されている。本址の西側及び南側は調査区外の為、調査は全体の4割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、深さは確認面より約30cmを測る。壁は床に直角に立ち上がり、床は、ほりかたの上にロームブロック主体の土で平らに張り床を施し、表層は硬化面を成していた。そのほか、北壁には、カマドが構築されていたほか、北東隅には貯蔵穴および隣接して支柱穴が1本検出された。出土遺物により古墳時代（鬼高Ⅱ式）の所産である。

第29d号住居址（第17図 図版5—1）

本址は、調査区第Ⅱ区最西端に構築されているが、遺構の大部分は、第b・c号住居址によって切られている。また、本址の北側及び南側は調査区外の為、調査は全体の2割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈していると推定され、深さは確認面より約5cmを測る。壁は、やや緩やかに立ち上がり、床面は、平であるがほりかたを施していない。また、東壁にはカマドが構築されていると推定され、調査区南側の壁近くの断面よりカマドが崩壊した土層が検出されている。そのほか支柱穴や貯蔵穴または壁溝などは検出できなかった。出土遺物により古墳時代（鬼高Ⅱ式）の所産である。



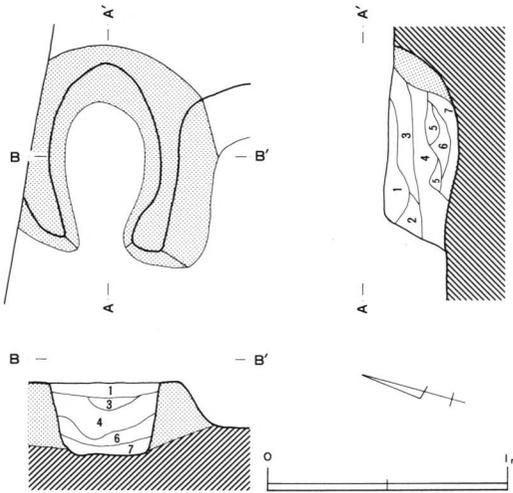
第17図 第29c・d号住居址

第29c・d号住居址土層説明

- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～50mm位のロームブロックを含む。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～30mm位のロームブロック・若干の炭化物粒と焼土粒を含む。
- 第3層 暗褐色土 しまり、粘性有する。径1～100mm位のロームブロックを多く含む。
- 第4層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。色調がやや暗くロームを含まない。
- 第5層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～5mm位のローム粒を若干含む。
- 第6層 暗褐色土 しまり、粘性有する。径1～100mm位のロームブロックを散漫に含む。
- 第7層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。色調はやや灰色がかっている。ローム粒と焼土粒を比較的多く含む。

第29a号住居址カマド（第18図 図版6—1）

カマドは東側壁に構築されているが、北側袖の一部は調査区外に延びている。依存状態は天井部を除いて良好であり残存規模は、全長95cm、焚口幅28cm、袖部長65cmを測る。焚口部は狭いが、燃烧部内壁は外曲し胴張り状を呈している。また、燃烧部底面は、床面より若干深く掘込まれていた。煙道や支脚の有無などに付いては、確認できなかった。また、カマドの構造は、燃烧部の奥壁を住居址壁と共有するものではなく、カマド本体全部を粘質土によって構築したものであり粘質土の厚さは、20cmから25cm位あった。



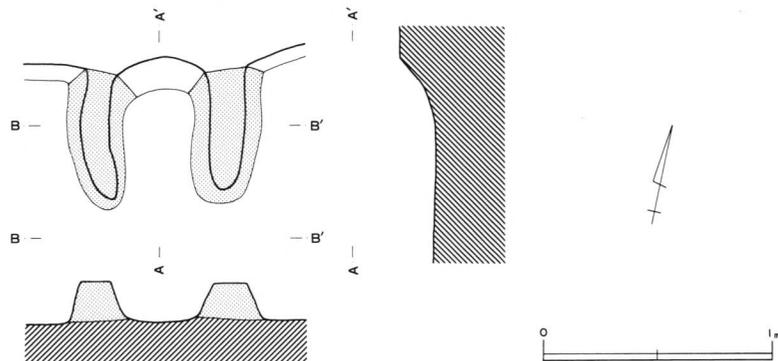
第29a号住居址カマド土層説明

- | | | |
|-----|-------|------------------------------------|
| 第1層 | 淡褐色土 | 焼土粒・ローム粒を多少含み、白色粒子も含む。粘性なく、しまりは普通。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 焼土粒・白色粒子を含む。多少の粘性を有する。しまりは普通。 |
| 第3層 | 暗茶褐色土 | 焼土・炭化物を含む。多少の粘性を有する。しまりは普通。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | ロームブロックを含み、粘性を有する。しまりは良好。 |
| 第5層 | 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含み、粘性を有する。しまりは良好。 |
| 第6層 | 淡黄褐色土 | ローム層。多少の粘性を有し、しまりは普通。 |
| 第7層 | 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒を若干含む。粘性を有し、しまり弱い。 |
- 色調 明6>5>1>3>2>4>7暗

第18図 第29a号住居址カマド

第29b号住居址カマド（第19図）

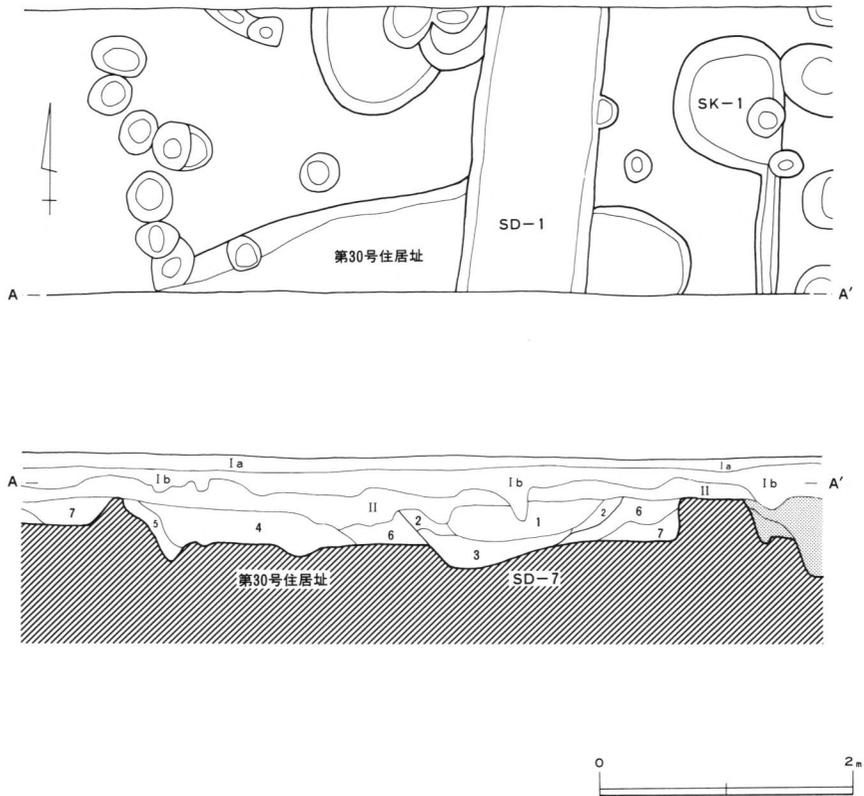
カマドは北側壁に構築されている。依存状態は上部構造の大部分を第a号住居址によって破壊されておりやや不良である。規模は、全長65cm、焚口幅45cm、袖部長60cmを測る。燃烧部底面は平であり、高さは床面とほぼ同じである。さらに燃烧部奥壁は緩やかに立ち上がり、明瞭な煙道は検出できなかった。



第19図 第29b号住居址カマド

第30号住居址（第20図 図版8—1・2）

本址は、調査区第Ⅱ区中央に構築されている。しかし、本址の中央部分は第1号溝によって切られていた。また住居址の大部分は南の調査区外に延びており、調査は全体の2割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、東西の1辺は約4mを測り、深さは確認面より約30cmを測る。床は、ほりかたの上にロームブロック主体の土で平らに張り床を施し、床は硬化面を成していた。また、本調査では検出できなかったが、東壁にはカマドが構築されていると推定でき調査区南側の壁付近からはカマドの崩壊土層を検出している。そのほか、柱穴や貯蔵穴などは検出できなかった。出土遺物により平安時代（国分式）の所産である。



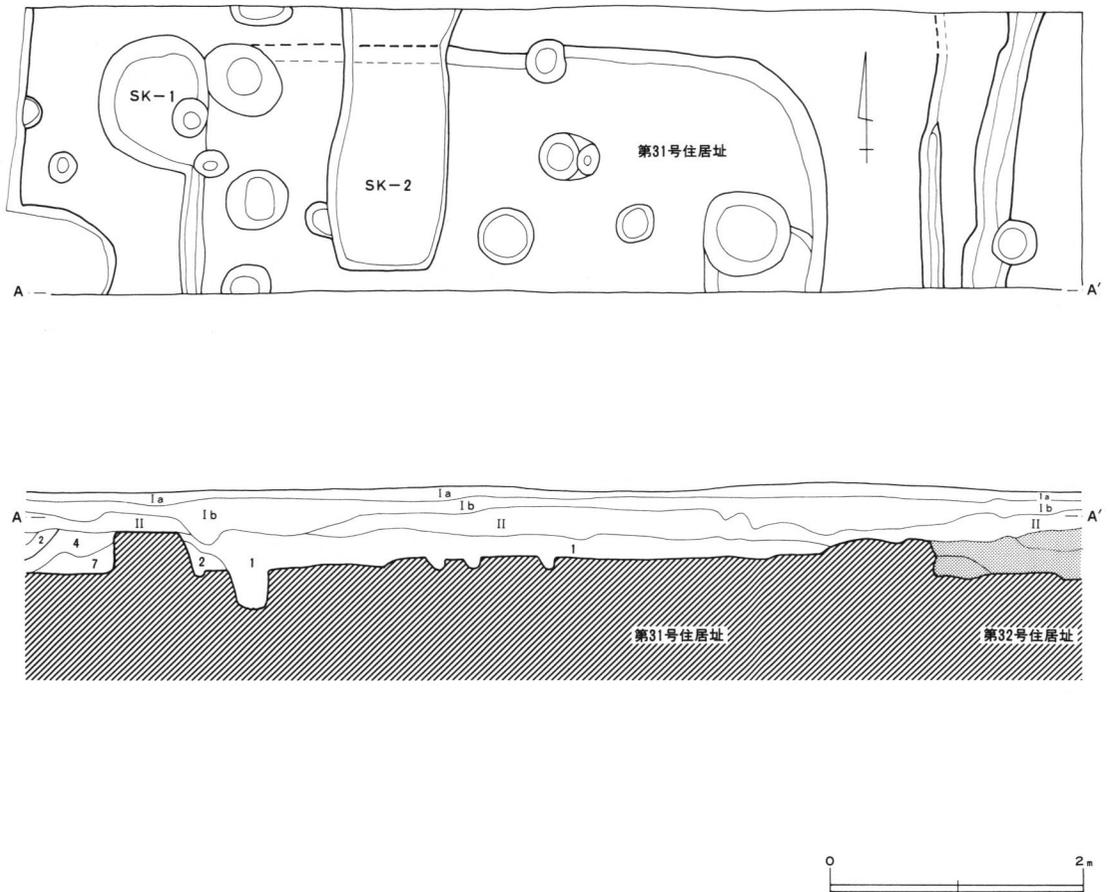
第20図 第30号住居址

第30号住居址土層説明

- | | | |
|-----|------|---------------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | しまり、粘性若干有する。径1～3cmのローム粒を若干含む。 |
| 第2層 | 黒色土 | しまり、粘性若干有する。若干の焼土と炭化物粒子を多く含む。 |
| 第3層 | 暗褐色土 | しまり、粘性若干有する。第1層に類似するが、ローム粒が少ない。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | しまり、粘性若干有する。径1～20mmのローム粒子を多く含む。 |
| 第5層 | 暗褐色土 | 第4層に類似するが、ローム粒が少ない。 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 第5層に類似するが、ローム粒が更に少ない。 |
| 第7層 | 暗褐色土 | しまり、粘性若干有する。炭化・焼土粒子を多く含む。 |

第31号住居址（第21図 図版9—1・2）

本址は、調査区第Ⅱ区中央よりやや東側に構築されている。しかし、本址の中央部分は第2号土壌によって切られていた。また住居址の約半分は南の調査区外に延びており、調査は全体の4割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、東西の1辺は約5mを測り、深さは確認面より約30cmを測る。床は、ほりかたの上にロームブロック主体の土で平らに張り床を施し、床は硬化面を成していた。また、住居址西側の一部分には壁溝が施されていたが、柱穴やカマドおよび貯蔵穴などの付帯施設は検出できなかった。出土遺物により古墳時代（鬼高Ⅱ式）の所産である。



第21図 第31号住居址

第31号住居址土層説明

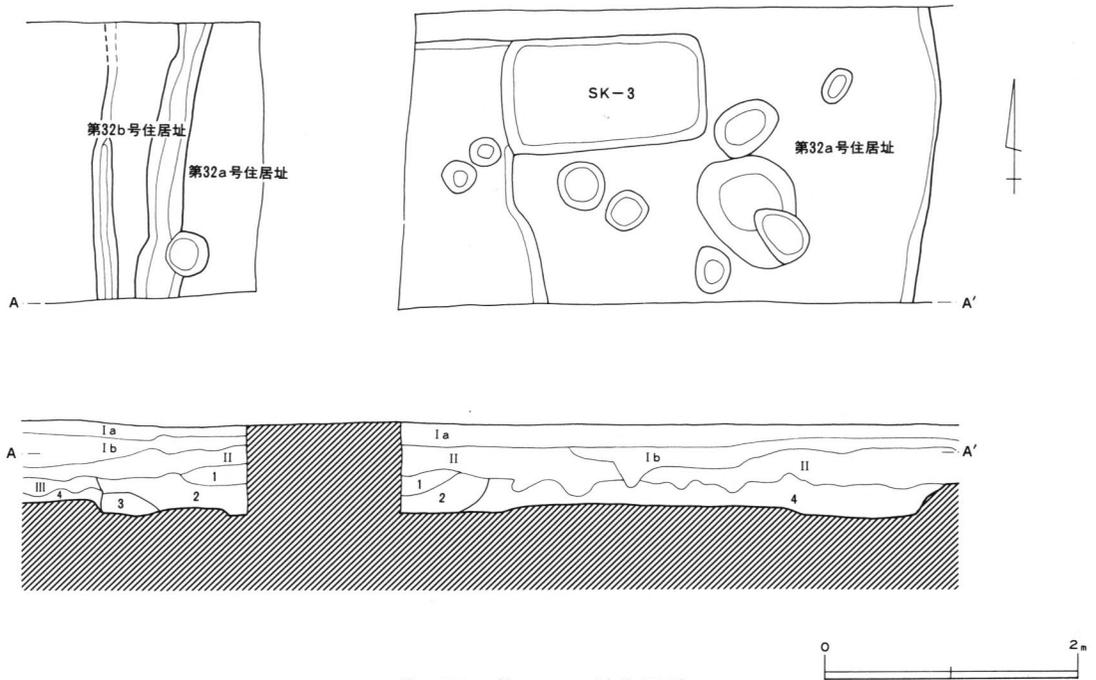
- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性有する。径1～5mmのローム粒と炭化粒子を多く含む。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。第1層に類似するがローム粒が少ない。

第32a号住居址 (第22図 図版10—1・2)

本址は、調査区第Ⅱ区最東端から第Ⅲ区最西端にかけて第b号住居址を切っ
て構築されている。本址の中央部分は農道であり未調査の為、調査は全体の3
割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈していると推定され、東西の
1辺は約3.5mを測り、深さは確認面より約10cmを測る。壁は、しっかりして
おり西側に部分的に壁溝を有している。また、東壁に接する断面からは、カマ
ドの崩壊土層が検出されている。しかし、柱穴や貯蔵穴などは検出できなかった。
出土遺物により古墳時代後期以降の所産である。

第32b号住居址 (第22図 図版10—1・2)

本址は、調査区第Ⅱ区最東端から第Ⅲ区最西端にかけて構築されている。本
址の中央部分は農道であり未調査かつ西側のほとんどを第a号住居址によって
切られている為、調査は全体の2割程度に留まった。住居址の平面形態は方形
を呈していると推定され、東西の1辺は約5mを測り、深さは確認面より約20
cmを測る。壁は、しっかりしており西側に部分的に壁溝を有している。しかし、
そのほかカマドや柱穴・貯蔵穴などの付帯施設は検出できなかった。出土遺物
により古墳時代後期以降の所産である。



第22図 第32a・b号住居址

第32a・b号住居址土層説明

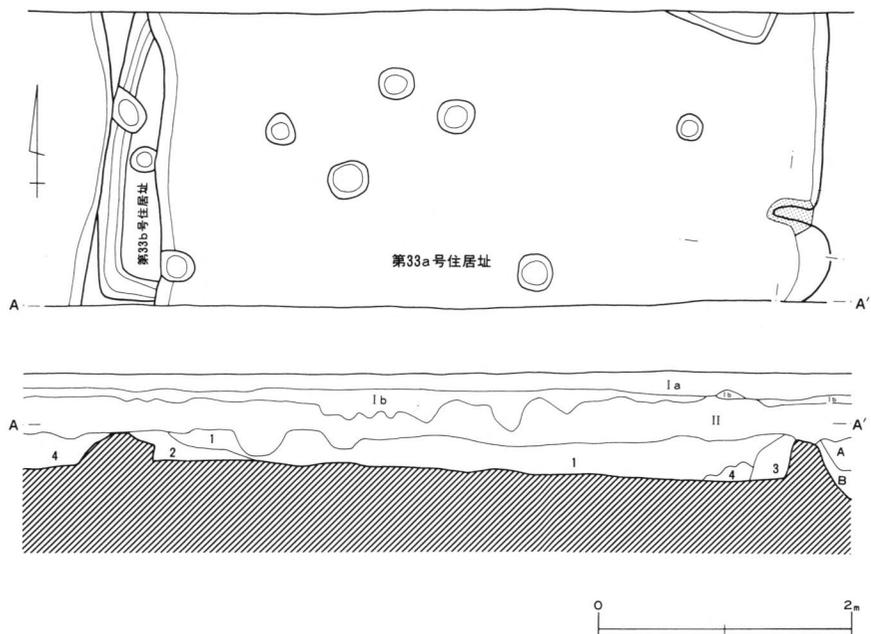
- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性共に有する。径1mmの焼土粒子を若干含む。
- 第2層 暗褐色土 第1層に類似するが、径1mmの炭化粒子を含む。
- 第3層 暗褐色土 第2層より色調がやや暗い。ローム微粒子を含む。
- 第4層 暗褐色土 しまり、粘性共に有する。径1~10mmのローム粒子を多量に含む。

第33 a 号住居址（第23図 図版11—1）

本址は、調査区第Ⅲ区中央部に第b号住居址を切って構築されている。本址の北側と南側は、調査区外に延びている為、調査は全体の4割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、東西の1辺は約5mを測り、深さは確認面より約20cmを測る。床は、ほりかたの上にロームブロック主体の土で平らに張り床を施し、床は硬化面を成していた。また、東壁にはカマドが構築されていたが、貯蔵穴や明確な柱穴などの付帯施設は検出されなかった。出土遺物により平安時代（国分式）の所産である。

第33 b 号住居址（第23図 図版11—1）

本址は、調査区第Ⅲ区中央部に構築されている。しかし、本址の東側のほとんどは、第a号住居址によって切られている為、調査は全体の1割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈していると推定されるが、全体の規模は不明である。遺構の深さは確認面より約10cmを測る。壁は、しっかりしており検出できた部分に付いては壁溝が巡っていた。しかし、そのほかカマドや柱穴・貯蔵穴などの付帯施設は検出できなかった。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。



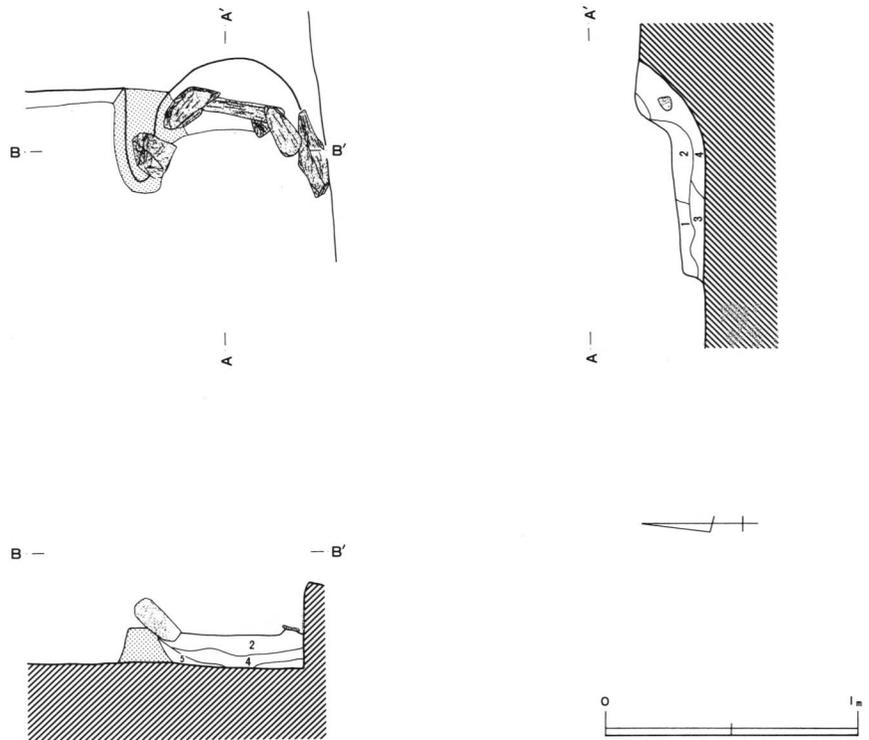
第23図 第33a・b号住居址

第33a・b号住居址土層説明

- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性共に有する。径1～20mm位のローム粒を多量に含む。
- 第2層 暗褐色土 第1層に類似するが、色調がやや暗い。
- 第3層 暗褐色土 第1層に類似するが、ローム粒の量が多く、若干の焼土粒を含む。
- 第4層 暗灰色土 しまり、粘性共に強い。カマドソデ崩壊土と思われる。

第33a号住居址カマド（第24図 図版11—2）

カマドは東側壁に構築されているが、南側袖の一部は調査区外に延びている。依存状態は崩壊が進んでやや不良であり残存規模は、全長55cm、焚口幅50cm、袖部長40cmを測る。焚口部は広く、燃烧部奥壁は、緩やかに立ち上がる。さらに、焚口から燃烧部内壁にかけて巡るように20~30cmぐらいの片岩を配しており天井部や袖部などの補強材などにしていたと推定できる。また、燃烧部底面は、ほぼ床面と同じ高さであった。その他、煙道や支脚の有無などに付いては、確認できなかった。



第24図 第33a号住居址カマド

第33a号住居址カマド土層説明

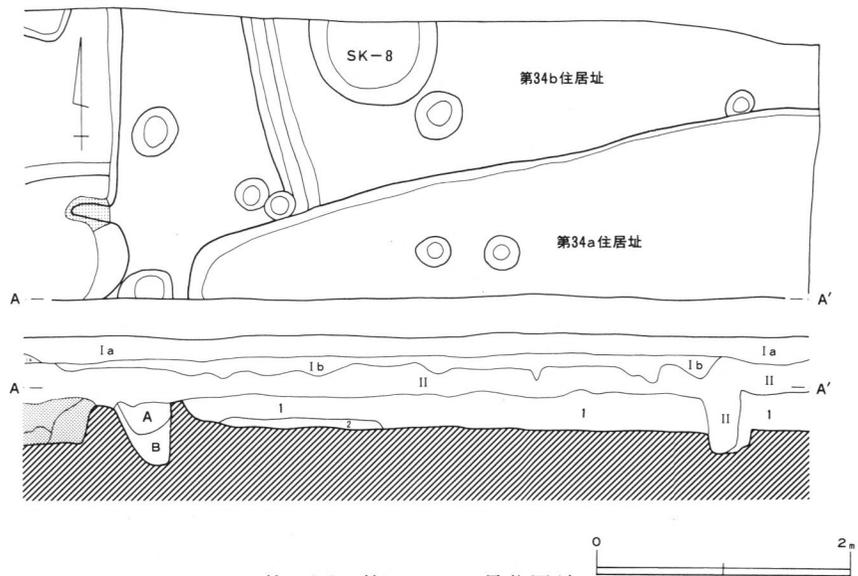
- | | | |
|-----|-------|--|
| 第1層 | 橙灰色土 | しまり、粘性が非常に強い。焼土粒（径1~10mm）を非常に多く含む粘質土。 |
| 第2層 | 灰色粘質土 | しまり、粘性が非常に強い。 |
| 第3層 | 灰色粘質土 | 第1層に類似するがしまりがやや弱い。 |
| 第4層 | 橙暗灰色土 | しまりは普通だが粘性が強い。焼土ブロックを非常に多く含む。 |
| 第5層 | 暗褐色土 | しまり、粘性を若干有する。径1mmの焼土粒子・径1mm位の炭化物粒子を多く含む。 |

第34 a 号住居址 (第25図 図版12—1)

本址は、調査区第Ⅲ区東側に第 b 号住居址を切って構築されている。本址の東側から南側は、調査区外に延びている為、調査は全体の 2 割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈していると推定されおり、確認できた東西の 1 辺は約 5 m 以上を測り、深さは確認面より約 20cm を測る。壁はしっかりしており検出できた部分に付いては浅いが壁溝が巡っていた。床は、ほりかたの上にロームブロック主体の土で平らに張り床を施し、床は硬化面を成していた。また、カマドや貯蔵穴、明確な柱穴などの付帯施設は検出されなかった。出土遺物により古墳時代後期 (鬼高Ⅱ式) の所産である。

第34 b 号住居址 (第25図 図版12—1)

本址は、調査区第Ⅲ区東側に構築されている。しかし、本址の南側のほとんどは、第 a 号住居址によって切られており、さらに遺構のほとんどの部分は東から北にかけての調査区外に延びている為、調査は全体の 1 割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈していると推定されるが、全体の規模は不明である。遺構の深さは確認面より約 10cm を測る。壁は、しっかりしており検出できた部分に付いては壁溝が巡っていた。しかし、そのほかカマドや柱穴・貯蔵穴などの付帯施設は検出できなかつた。出土遺物により古墳時代後期 (鬼高Ⅱ式) の所産である。



第25図 第34 a ・ b 号住居址

第34 a ・ b 号住居址土層説明

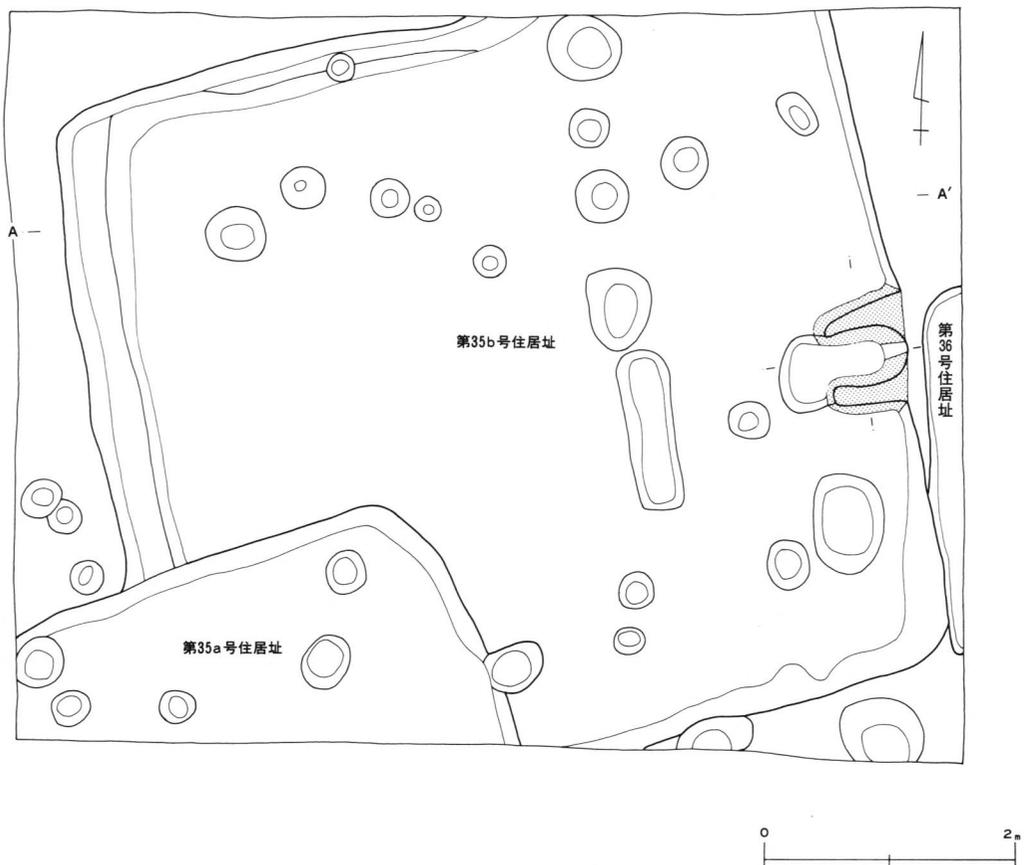
- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性有する。ローム粒子を多く、炭化物を若干含む。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性共に有する。炭化物を多く含む。
- 第A層 黒褐色土 しまり、粘性共に有する。ローム粒を多く含む。
- 第B層 暗褐色土 ロームブロックを非常に多く含む。

第35 a 号住居址 (第26図 図版13—1)

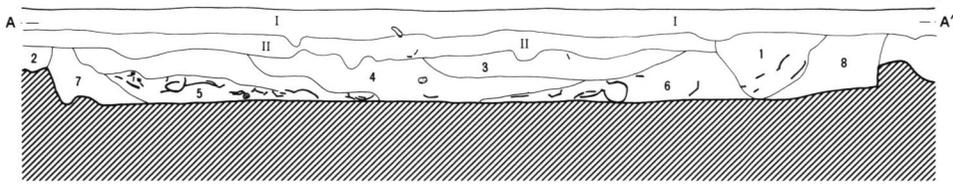
本址は、調査区第IV区南西側に第b号住居址を切って構築されている。本址の南側は、調査区外に延びている為、調査は全体の3割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈していると推定されおり、確認できた東西の1辺は約3m以上を測り、深さは確認面より約30cmを測る。また、カマドや貯蔵穴、明確な柱穴などの付帯施設は検出されなかつた。出土遺物により古墳時代後期(鬼高Ⅱ式)の所産である。

第35 b 号住居址 (第26・27図 図版12—2)

本址は、調査区第IV区に構築されている。しかし、本址の南西側の一部を、第a号住居址によって切られていたが、調査区を南北に拡張したため、遺構のほぼ全体を調査することができた。住居址の平面形態は一辺が約6.5mの正方形を呈しており、遺構の深さは確認面より約20cmを測る。壁は、しっかりしており遺構の西側から北側にかけては壁溝が巡っていた。遺物が非常に多く残っていた。出土遺物により古墳時代後期(鬼高Ⅱ式)の所産である。



第26図 第35 a・b号住居址



第35b号住居址土層説明

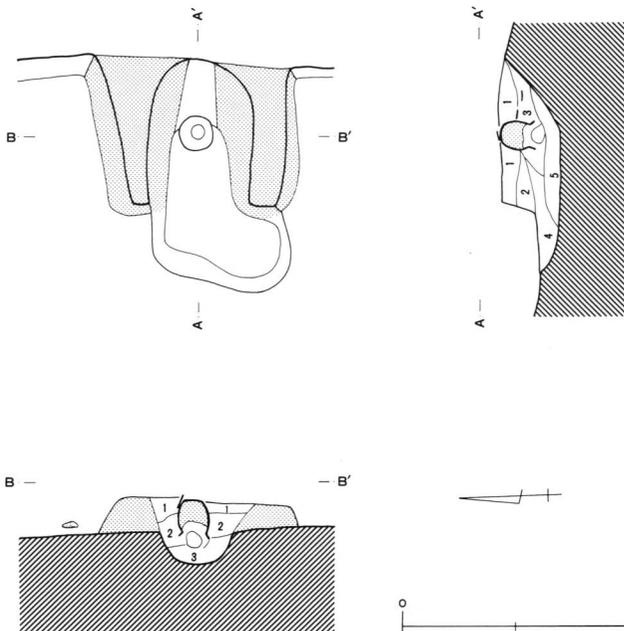
- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性共になし。土師器を非常に多く含む。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性なし。土師器細片及び焼土粒子を若干含む。
- 第3層 暗褐色土 しまっているが粘性を欠く。土師器片を含まない。
- 第4層 暗褐色土 しまり、粘性有する。ローム粒及びローム粒子を多く含む。
- 第5層 暗褐色土 しまり、粘性共に有する。土師器を非常に多く含む。
- 第6層 暗褐色土 しまり、粘性共に有する。第5層に類似するが、ロームブロックは含まない。
- 第7層 暗褐色土 しまり、粘性共に強い。径1cm以下の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 第8層 暗褐色土 しまり、粘性共に強い。径1cm以下の焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子を非常に多く含む。



第27図 第35b号住居址

第35b号住居址カマド（第28図 図版13—2）

本址は東壁中央部に構築されている。残存状態は比較的良好である。規模は、全長105cm、焚口幅45cm、袖部長cmを測る。燃烧部底面は平であり、床面より深く掘込まれていた。さらに燃烧部奥壁は緩やかに立ち上がるが、明瞭な煙道は検出できなかった。



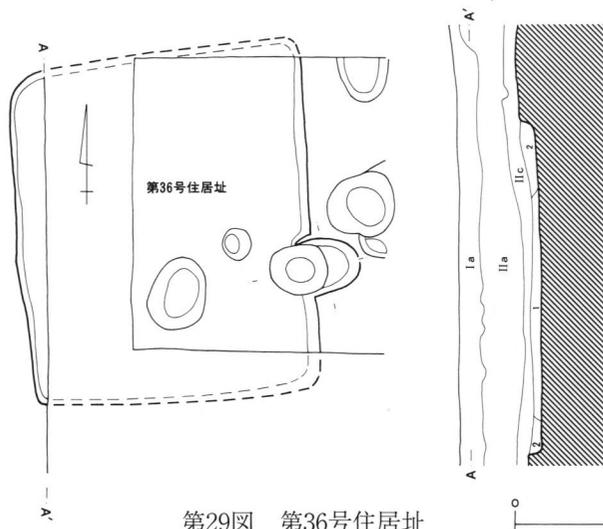
第35b号住居址カマド土層説明

- 第1層 明灰色粘質土 しまり、粘性共に強い。焼土粒を含む粘質土。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性共に有する。ローム粒・炭化物粒を多く含む。
- 第3層 暗褐色土 第2層に類似するが、炭化粒子の量が少ない。
- 第4層 暗褐色土 第2層に類似するが、焼土粒を含む。
- 第5層 暗褐色土 第3層に類似するが、ローム粒が少ない。

第28図 第35b号住居址カマド

第36号住居址（第29図 図版17—1）

本址は、調査区第IV区最東端から第V区最西端にかけて構築されている。本址の中央部分は農道であり未調査の為、調査は全体の7割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、東西の1辺は約2.5m、南北に約3mを測り、深さは確認面より約20cmを測る。また、東壁にはカマドが構築されていた。出土遺物により平安時代（国分式）の所産である。



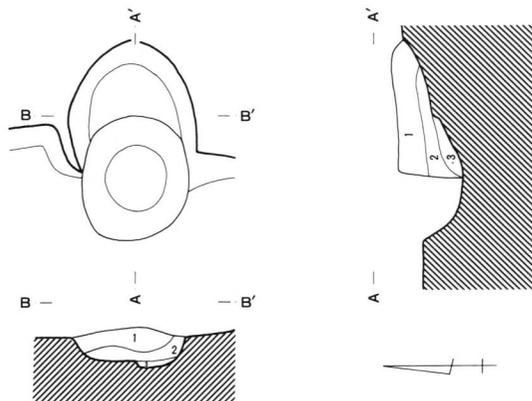
第36号住居址土層説明

- 第1層 暗黄色土 しまり、粘性若干有する。ロームブロックを多く含む。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。ロームを含まない。

第29図 第36号住居址

第36号住居址カマド（第30図）

本址は東壁もやや南よりに構築されている。残存状況は崩壊が進み良好ではない。全長80cm、焚き口部は40cmを測る。焚き口下部に床面より深さ約10cm程度の碗状の掘り込みを呈している。袖部は北側の袖しか残っておらず、袖部長は約22cm、幅5cm程度を測り、残存状況はきわめて悪い。燃烧部分はゆるく立ち上がり煙道や支脚等の有無については確認できなかった。



第36号住居址カマド土層説明

- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性を有する。焼土ブロックを多く含む。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性共に強い。ローム粒子を多く含む。
- 第3層 暗黄色土 しまり、粘性強い。ローム風化土を非常に多く含む。

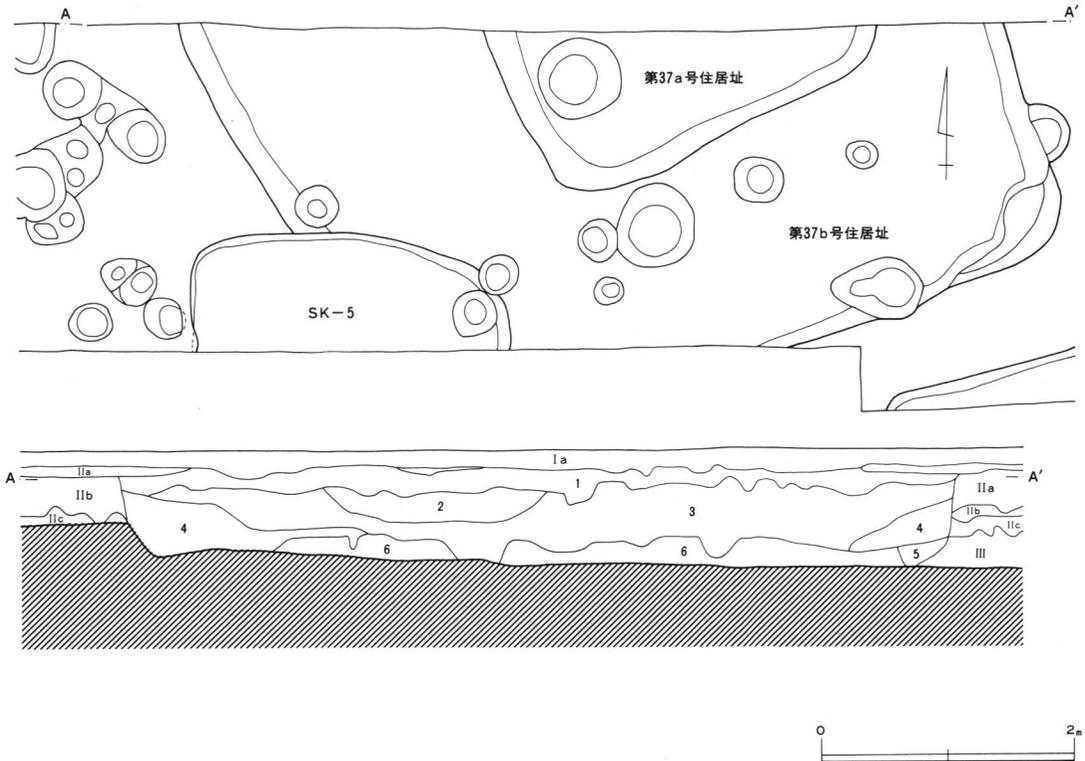
第30図 第36号住居址

第37a号住居址（第31図）

本址は、調査区第V区西側に37b号住居址を切って構築されている。住居の北側部分は調査区外に延びているため調査は全体の約5割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈し、規模は東西に北側壁付近で約3m、深さ34cmを測る。カマド等の付帯施設の確認はできなかったが、東側隅に直径約80cm、深さ床面より約15cmを測る円形の貯蔵穴が確認されている。出土遺物により奈良時代（真間式）の所産である。

第37b号住居址（第31図）

本址は、調査区第V区西側に第37a号住居址におよび第5号土壙と重複して検出された。また、南側壁の一部と北側部分の約半分が調査区外に延びているため調査は全体の約4割程度に留まった。住居址の平面形態は方形を呈しており、規模は東西に約5.5mを測り、深さは約38cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマド等の付帯施設は確認できなかったが、南西隅付近から炭化物が2ヶ所検出されており、その周辺から石及び土器の破片が数点確認されている。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。



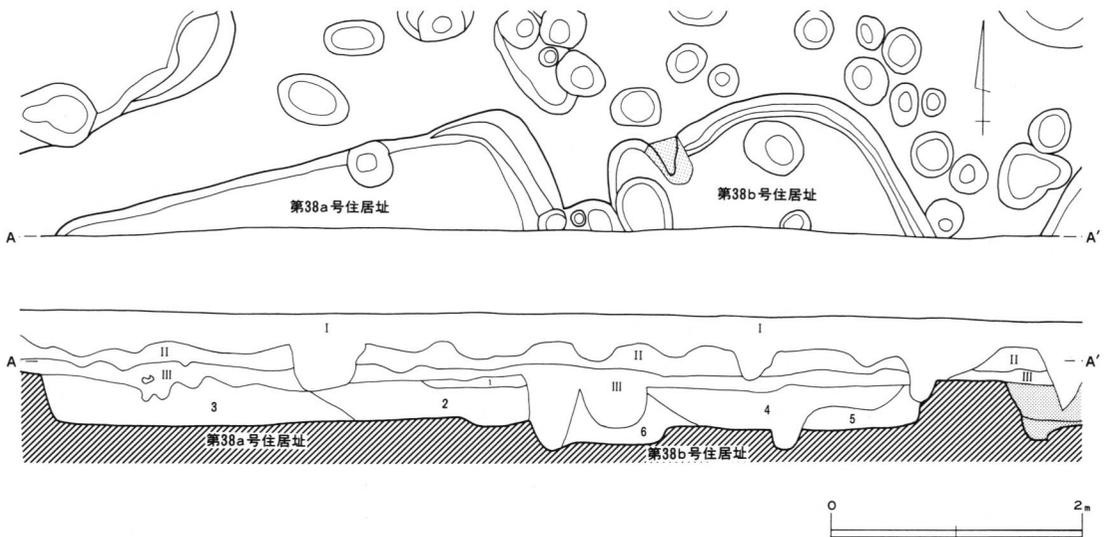
第31図 第37号 a・b号住居址

第38a号住居址（第32図 図版19—1）

本址は、調査区第V区中央よりやや西側に、第39b号住居址のカマドの西側の袖付近を切って構築されている。遺構の大部分は調査区外南側に延びているため調査は全体の約2割程度に留まっている。平面形態は方形を呈すると推定されるが規模に付いては不明である。深さは確認面より約20cmを測り、壁は垂直に立ち上がる。東側壁は床面より深さ約10cmの壁溝が確認されている。カマド、貯蔵穴などの付帯施設の有無については確認できなかった。出土遺物により奈良時代（真間式）の所産である。

第38b号住居址（第32図 図版19—2）

本址は、調査区第V区中央よりやや西側、第38a号住居址の東側に構築されている。本址の大部分は調査区外南側に延びているため、調査は東側隅の調査に留まり、全体の約2割程度である。平面形態は方形を呈すると推定され、規模は不明であるが、深さは確認面により約18cmを測る。東側隅の壁は床面より深さ約10cmの壁溝が施されている。北側壁にカマドの痕跡が認められ、覆土より焼土が検出されているが、近世の攪乱により詳細は不明である。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。



第32図 第38 a・b号住居址

第38 a・b号住居址土層説明

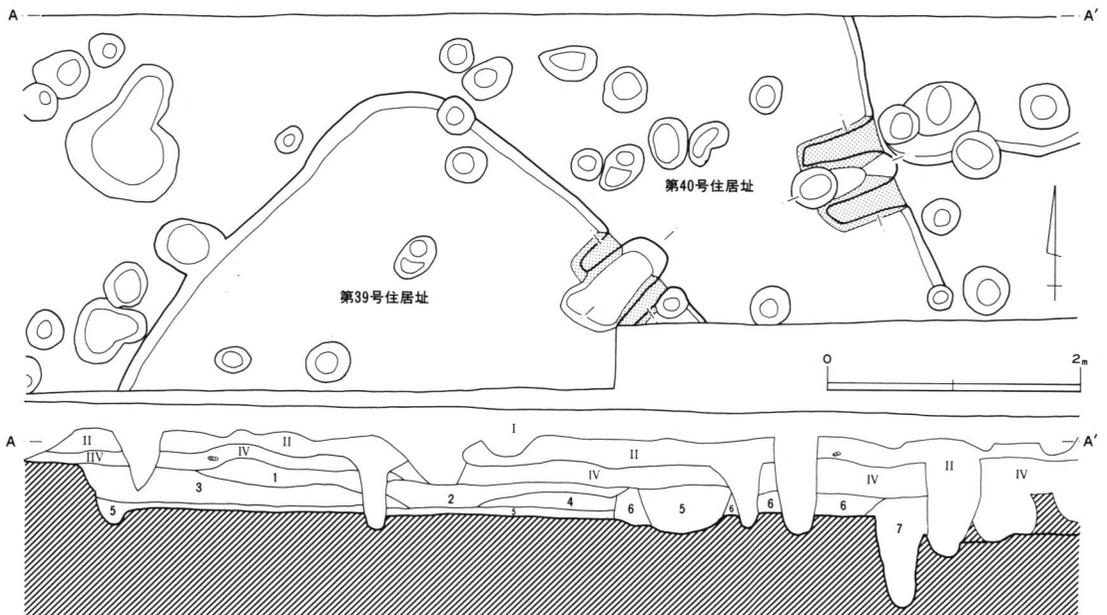
- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。ローム微粒子を若干含む。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～30mm位のローム粒子を多く含む。
- 第3層 暗褐色土 しまり、粘性共に若干有する。径1～30mm位のローム粒子を含む。
- 第4層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～20mmのローム粒を若干含む。
- 第5層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～20mmのローム粒・炭化粒子を含む。
- 第6層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。粘土風化土を含む。

第39号住居址（第33図 図版20—2）

本址は、調査区第V区ほぼ中央に第40号住居址を切って構築されている。住居址の南側は調査区外に延びているため調査は全体の約4割程度に留まった。平面形態は方形を呈し、全体の規模は不明であるが一边は4mを超えている。深さは約20cmを測る。カマドは東壁に確認されており、北側主柱穴1本検出されている。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。

第40号住居址（第33図）

本址は、調査区第V区ほぼ中央に構築されている。住居址の南北壁は調査区外に延びており、また西側を第39号住居址に切られているため調査は全体の約3割程度に留まった。平面形態は方形を呈すると推定されるが、規模は不明である。壁の立ち上がりは東側だけ緩やかに立ち上がっていることが確認され深さは約10cmを測る。カマドは東側壁に構築されていた。出土遺物により古墳時代後期以降の所産である。



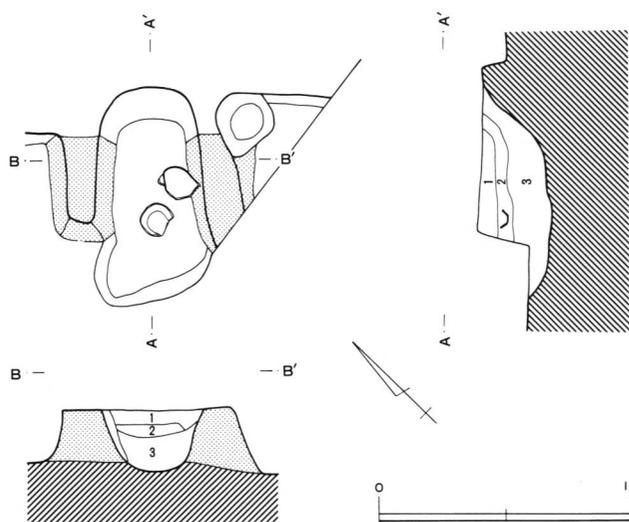
第33図 第39・40号住居址

第39・40号住居址土層説明

- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径10mmの焼土微粒子を若干含む。
- 第2層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1～5mmのローム微粒子を若干含む。
- 第3層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。径1mmのローム微粒子を少量含む。
- 第4層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。第3層に類似するが、粘土崩壊土を含む。
- 第5層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。炭化物を非常に多く含む。
- 第6層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。ローム風化土を若干含む。
- 第7層 暗褐色土 しまり、粘性若干有する。ローム粒を多く含む。

第39号住居址カマド（第34図 図版21—1）

本址は住居址東壁に構築されている。遺存状態はやや不良であった。残存状況は全長は約90cm、幅約75cmを測る。袖部は北側は長さ約35cmを測る。焚口部は広く、燃烧部の奥壁はゆるやかな立ち上がりを示していた。燃烧部は床面より若干深く掘り込まれておりゆるやかな立ち上がりをもつ。また、煙道や支脚等の有無については確認できなかった。



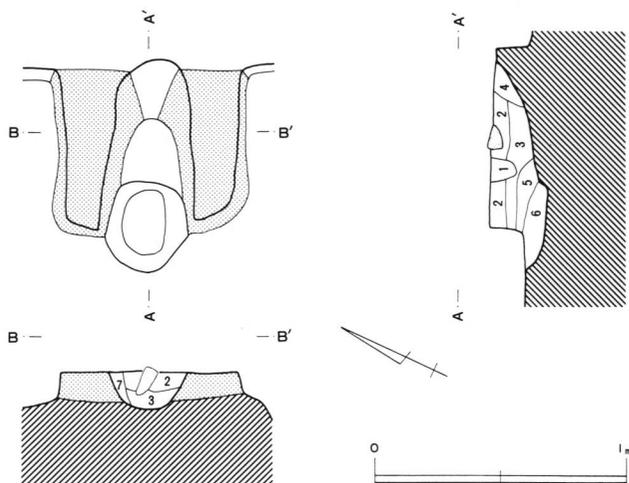
第39号住居址カマド土層説明

- 第1層 暗灰色粘質土 しまり、粘性強い。粘質土。
- 第2層 暗橙褐色土 しまり、粘性有する。焼土風化土を非常に多く含む。
- 第3層 暗黒褐色土 しまり、粘性有する。炭化粒子・ローム粒子を多く含む。

第34図 第39号住居址カマド

第40号住居址カマド（第35図 図版21—2）

本址は住居址東壁に構築されている。遺存状態はやや不良であった。残存状況は全長は約85cm、幅約75cmを測る。袖部は長さ約65cmを測る。焚口部は広く、直径30cm、深さ約5cmの円形の掘り込みを有している。燃烧部の奥壁はゆるやかな立ち上がりを示していた。



第40号住居址カマド土層説明

- 第1層 暗褐色土 しまり、粘性共に有する。焼土粒子を含む。
- 第2層 明灰色粘質土 しまり、粘性共に強い。焼土粒子を非常に多く含む。粘質土。
- 第3層 明灰色土 しまり、粘性共に強い。焼土・炭化・ローム粒子を多く含む。
- 第4層 明褐色土 しまり、粘性共に有する。ローム風化土を多く含む。
- 第5層 暗褐色土 しまり、粘性共に若干有する。炭化・焼土微粒子を含む。
- 第6層 暗褐色土 しまり、粘性共に若干有する。ローム微粒子を多く含む。

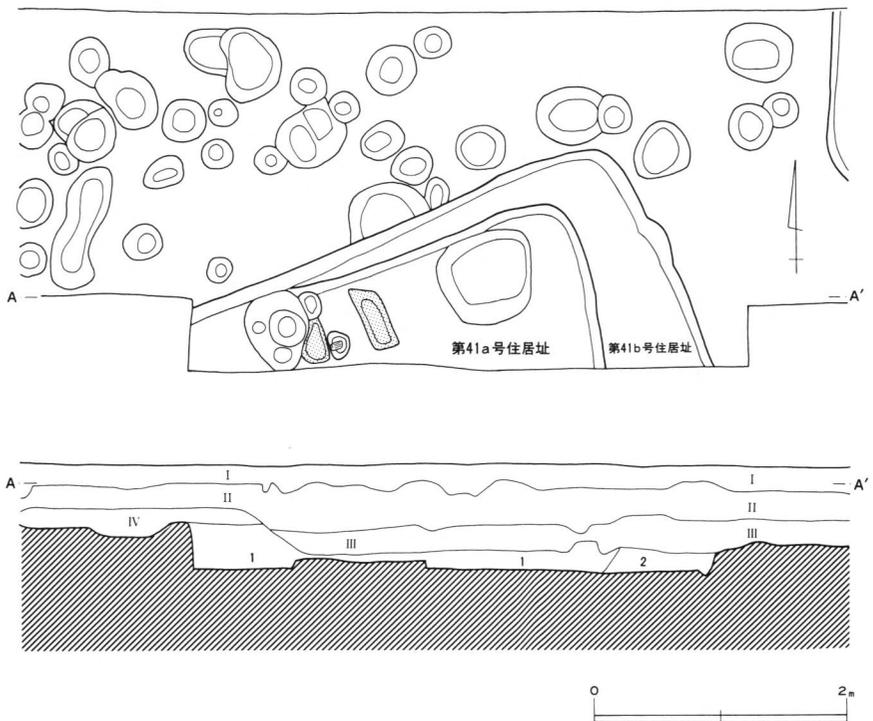
第35図 第40号住居址カマド

第41a号住居址（第36図 図版23—1）

本址は、調査区第V区中央やや東側に第41b号住居址を切って構築されている。大部分が調査区外南側に延びているため調査は全体の約2割程度に留まった。平面形態は方形を呈すると推定され、規模は不明である。深さは確認面より18cmと計測された。北壁にカマドが構築されていたが全壊状態であった。その他の付帯施設として北側隅に長径80cm、短径60cmの長方形の貯蔵穴が確認されている。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。

第41b号住居址（第36図 図版23—2）

本址は、調査区第V区中央やや東側に構築されている。本址の中央部分を第41a号住居址の構築時に壊されており、また本址南側が調査区外に延びているため、調査は全体の1割程度に留まった。平面形態は方形を呈すると推定され、規模は不明である。深さは確認面より約20cmと計測された。そのほかカマドなどの付帯施設の有無は確認できなかった。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。



第36図 第41a・b号住居址

第41a・b号住居址土層説明

- 第1層 暗褐色土 所々にローム粒子や焼土粒子を含む均質層。砂質で粘性の高い層。
- 第2層 暗褐色土 所々にローム粒子を含む均質層。粘性強く砂質ではない。

第42a号住居址（第37図 図版25—1）

本址は、調査区第V区東側に、第42b号住居址、第42c号住居址、第42d号住居址及び第43号住居址の一部を切って構築されている。北側の一部分は調査区外に延びているため、調査は全体の6割程度に留まった。平面形態は方形を呈している。規模は東西主軸が4.6m、深さは約25cmを測る。東壁にカマドを有し、カマド南側に最大径120cm、深さ約10cmの不整形の貯蔵穴を配している。床は、ほりかたの上にロームブロック主体の土で平らに張り床を施し、床は硬化面を成していた。主柱穴の明確な位置は確認できなかった。鉄製刀子が出土している。出土遺物により平安時代（国分式）の所産である。

第42b号住居址（第37図 図版27—1）

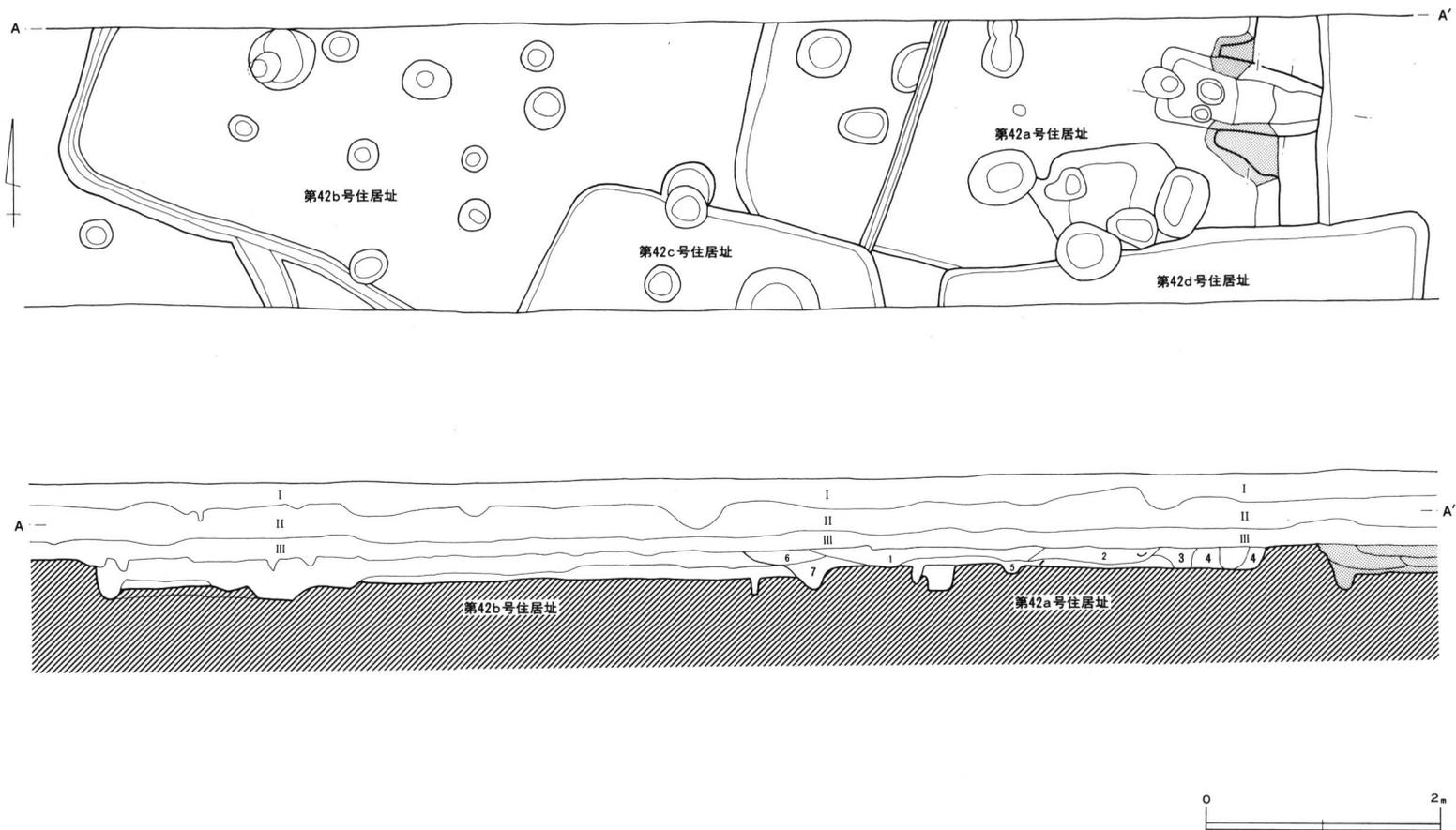
本址は、調査区第V区東側寄り、第41b号住居址北東に構築されている。第42a号住居址、第42c住居址と重複しており、また北側部分が調査区外に延びているため調査は全体の4割程度に留まった。平面形態は方形を呈する。規模は東西に約6.2m、深さ約20cmを測る比較的大型の竪穴住居址である。検出された壁には深さ約8cmの壁溝が施されている。また、カマド等の付帯施設の有無は確認されなかったが、北側2本の主柱穴が確認された。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。

第42c号住居址（第37図 図版27—2）

本址は、調査区第V区東側に第42b号住居址と第42a号住居址と重複して構築された。第42a号住居址に北側壁を切られており、また南側および東側の大半が調査区外に延びているため北側隅付近が確認され全体の2割程度の調査に留まった。平面形態は方形を呈している。規模は東西に約3m、深さは50cmを測るやや小型の竪穴住居址である。壁の立ち上がりはゆるやかであり、北側隅の主柱穴1本が確認された。その他、カマド等の付帯施設の有無の確認はできなかった。出土遺物により古墳時代後期以降の所産である。

第42d号住居址（第37図）

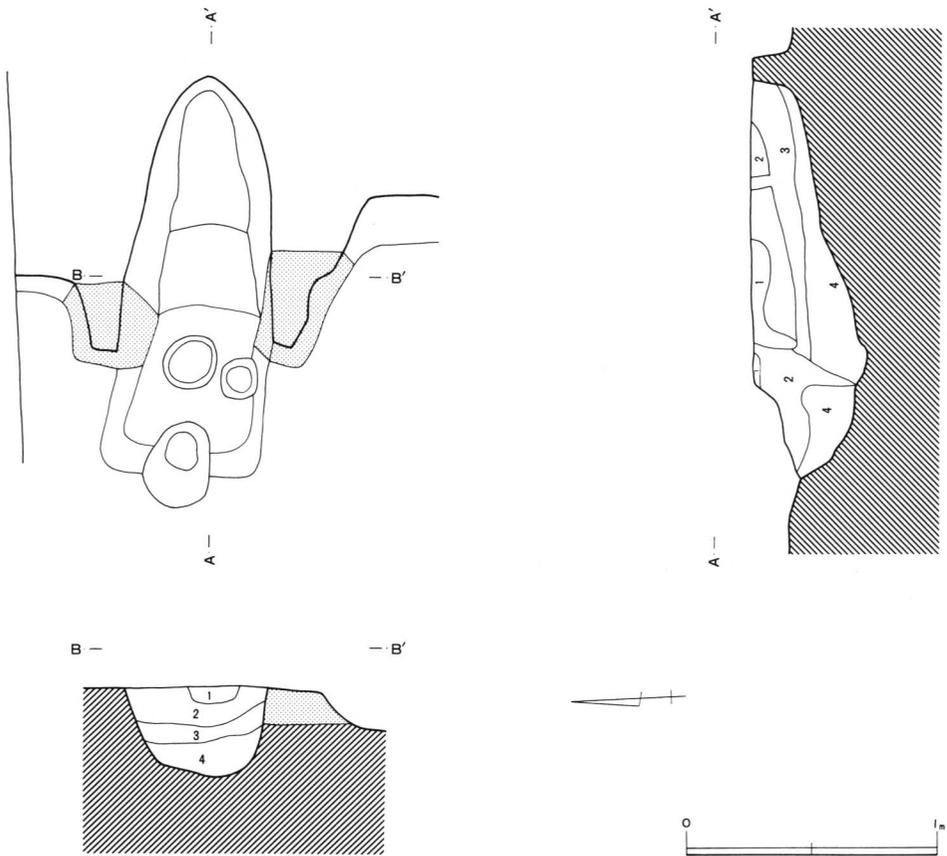
本址は、調査区第V区東側に構築されており、第42a号住居址及び第43号住居址と重複して検出された。しかし、本址の大部分が調査区外南側に延びているため、調査は全体の1割弱である北東隅の一部に留まった。平面形態は方形を呈すると推定されるが全体の規模は不明である。確認できる東西の一辺は、約4mを測り、深さは確認面より約24cmを測る。壁の立ち上がりはゆるやかである。床は、ほりかたの上にロームブロック主体の土で平らに張り床を施し、床は硬化面を成していた。カマド等の付帯施設の有無は確認されなかった。出土遺物もなく明確な時代判定はできないが住居址の切合関係により古墳時代後期以降の所産であると考えられる。



第37图 第42a·b号住居址

第42a号住居址カマド（第38図 図版25—2）

本址は住居址東壁に構築されている。遺存状態は天井部を除いて良好であった。残存状況は全長は約170cm、幅約90cmを測る。袖部は長さは北側約35cm、南側約70cmを測る。焚口部は狭く幅約25cmのピットを有している。燃烧部の中央付近でゆるやかな段を有し、底部にさらに浅い掘り込みを持っている。床面と段差は角度を持って立ち上がってくる。カマドの構造は住居址の壁と共有するものではなくカマド全体を粘質土によって構築されたものである。粘土質の厚さは約10cmであった。



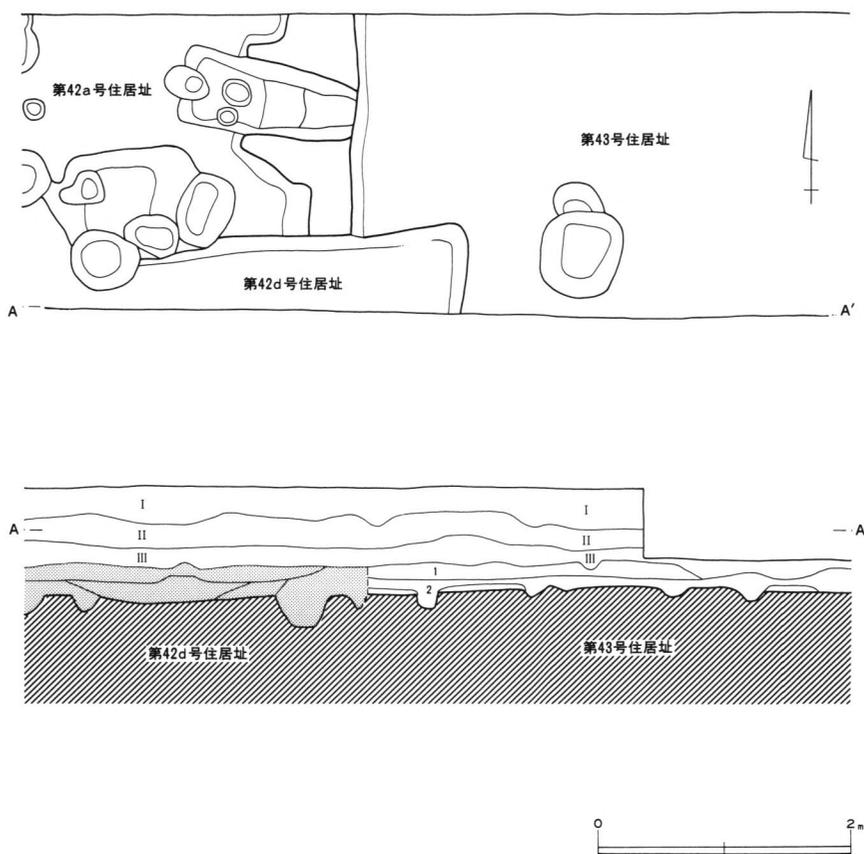
第38図 第42a号住居址カマド

第42a号住居址カマド土層説明

- | | | |
|-----|--------|------------------------------|
| 第1層 | 暗灰色粘質土 | しまり、粘性共に強い。焼土粒子・ローム粒子を若干含む。 |
| 第2層 | 灰色粘質土 | しまり、粘性共に強い。粘質土。 |
| 第3層 | 暗橙褐色土 | しまり、粘性共に強い。焼土を非常に多く含む。 |
| 第4層 | 黒褐色土 | しまり、粘性共に有する。炭化物・ローム微粒子を多く含む。 |

第43号住居址（第39図）

本址は、調査区第V区東隅に第42d号住居址と重複して構築されている。また、第42a号住居址のカマドによって西壁の一部を切られている。住居の大部分は調査区外に延びているため調査は全体の2割程度に留まった。平面形態は、方形を呈すると推定されるが、住居址全体の規模は不明である。深さは確認面より約35cmであった。調査区東壁付近にて炭化物が数カ所確認できたが、カマドの有無は不明である。またその他柱穴や貯蔵穴などの付帯施設は、検出されなかった。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ式）の所産である。



第39図 第43号住居址

第43号住居址土層説明

- 第1層 暗褐色土 砂質で粘性の高い層。ローム粒子や焼土粒子を所々に含む。
- 第2層 暗褐色土 第1層よりも砂質で粘性の弱い層。ローム粒子や焼土粒子を含む。
- 第3層 黒褐色土 炭化物の粒子（径1cm）を多く含む。粘性が弱い砂質層。
- 第4層 暗褐色土 砂質で粘性の弱い層。焼土粒子を含む。
- 第5層 暗褐色土 砂質で粘性の弱い層。所々にローム粒子や焼土粒子が含まれる。
- 第6層 暗褐色土 砂質で粘性の弱い層。層下部にはローム粒子が含まれる。
- 第7層 黒褐色土 砂質で粘性の弱い層。所々にロームブロックや焼土粒子が含まれる。

b. 土壌

第1号土壌（第40図）

本址は、調査区第Ⅱ区中央部付近に第31号住居址と重複して検出された。平面形態はほぼ円形を呈し、規模は直径約110cm、深さは確認面より約15cmを測る。底面はほぼ平坦に近いがわずかに中心部に向けて傾斜を持ち、壁は緩やかに立ち上がる。

第2号土壌（第40図）

本址は、調査区第Ⅱ区中央部より東側付近に第31号住居址と重複して検出された。平面形態はほぼ長方形を呈すると推定されるが、遺構の北側は調査区外に延びているため全体の規模は明らかにできなかった。検出した規模は長軸約215cm、深さは確認面より約35cmを測る。底面はほぼ平坦に近いが、壁は急激に立ち上がる。

第3号土壌（第40図）

本址は、調査区第Ⅲ区西端付近に第32号住居址東側の一部と重複して検出された。平面形態は方形を呈し、規模は長辺約160cm、深さは確認面より約15cmを測る。底面はほぼ平坦であるが、東から西にかけてわずかに傾斜しており、壁は緩やかに立ち上がる。

第4号土壌（第40図）

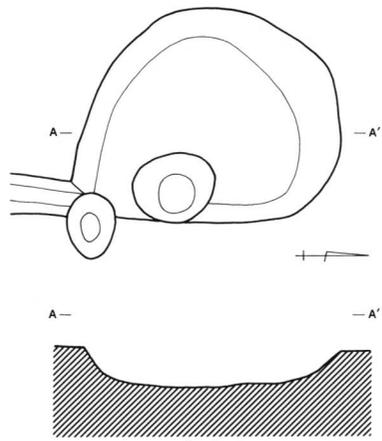
本址は、調査区第Ⅲ区東端よりやや西側付近に第34b号住居址と重複して検出された。平面形態は円形を呈すると推定されるが、北側の一部が調査区外に延びているため全体の規模は明らかにできなかった。検出した規模は長軸約100cm、深さは確認面より約18cmを測る。底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

第5号土壌（第40図）

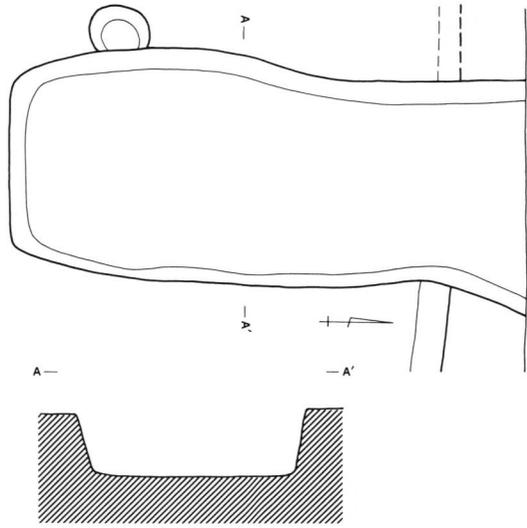
本址は、調査区第Ⅴ区西側付近に第37号住居址と重複して検出された。平面形態はほぼ方形を呈すると推定されるが、南側が調査区外に延びているため全体の規模は明らかにできなかった。検出した規模は、長辺約250cm、深さは確認面より約30cmを測る。底面は平坦であるが、壁はオーバーハングしている。覆土は、ロームブロックおよびローム粒子を多く含んでおり、層は明瞭に分けることができた。この事から本址は掘り返された直後に人為的に埋め戻されたことが推定でき墓壙である可能性が考えられる。

第6号土壌（第40図）

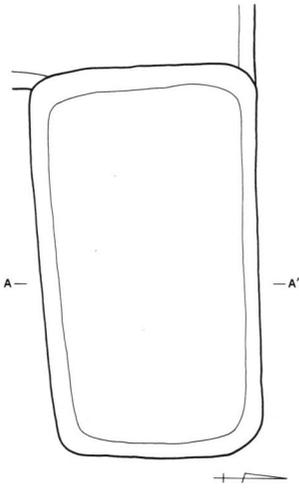
本址は、調査区第Ⅴ区西端付近に第43号住居址と重複して検出された。平面形態は不整円形を呈し、規模は長径約90cm、深さは確認面より約27cmを測る。底面はほぼ平坦であり、壁はやや急に立ち上がる。



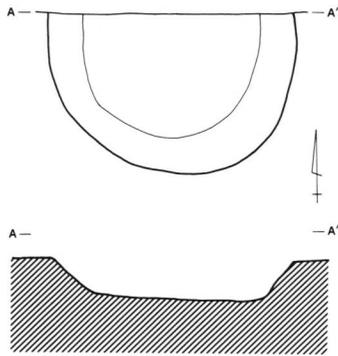
第1号土坑



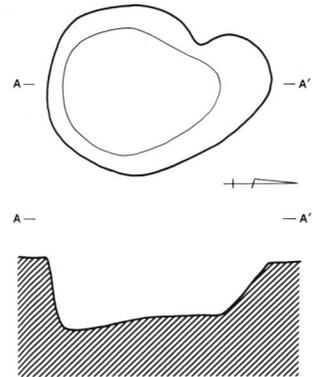
第2号土坑



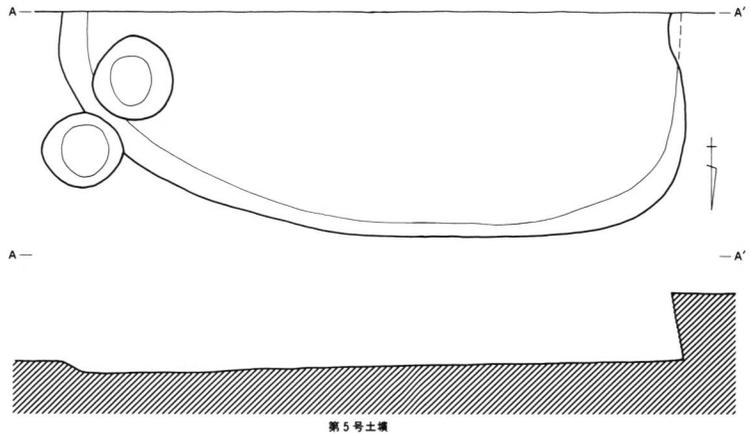
第3号土坑



第4号土坑



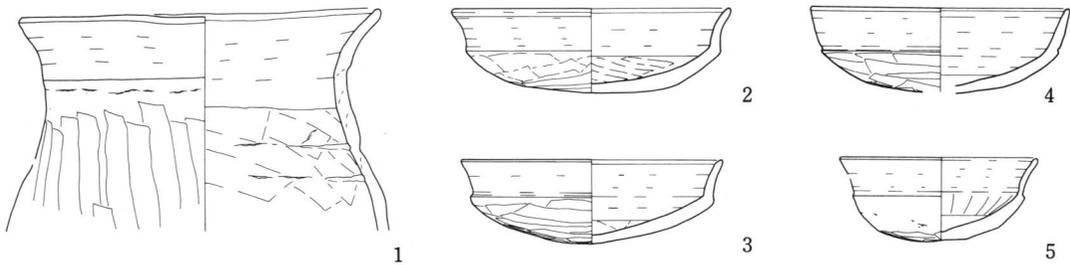
第6号土坑



第5号土坑

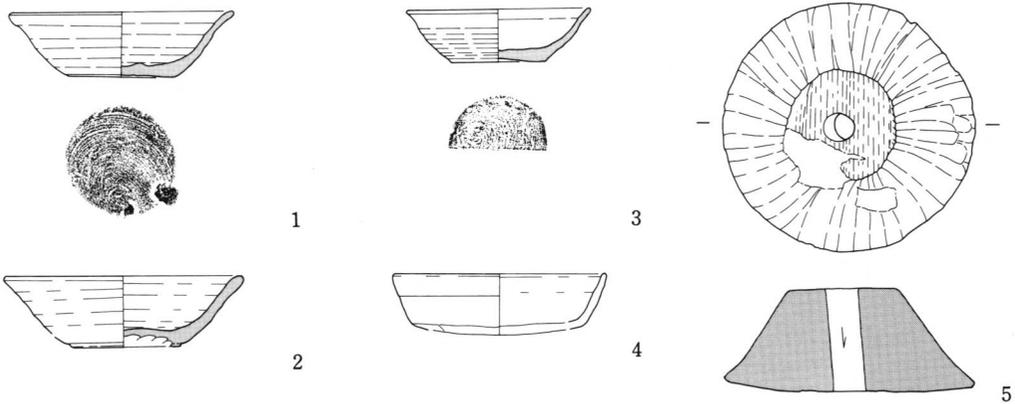


第40图 土 坑



第41图 第13号住居址出土遺物 (表一1)

0 10cm



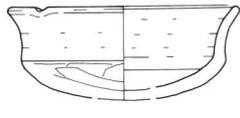
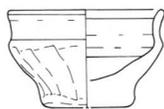
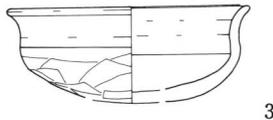
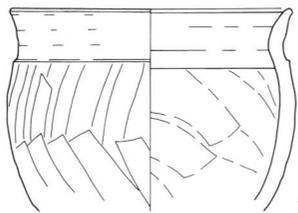
第42图 第27a号住居址出土遺物 (表一2·3)

0 3cm



第43图 第27b号住居址出土遺物 (表一4)

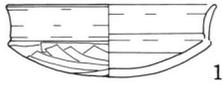
0 10cm



0 10cm

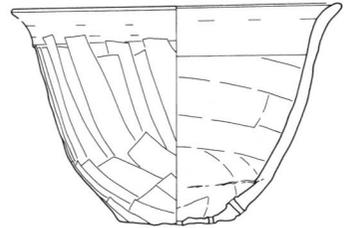
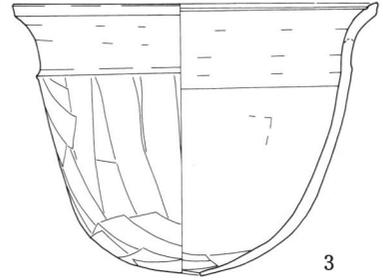
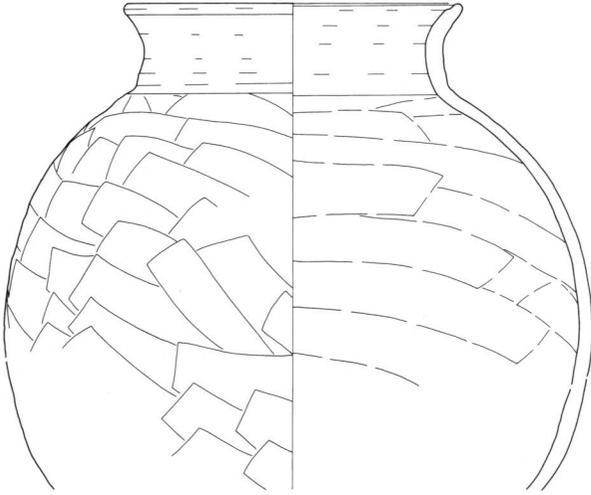
0 5 3cm

第44图 第28a号住居址出土遺物 (表一5·6)



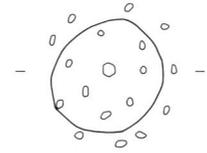
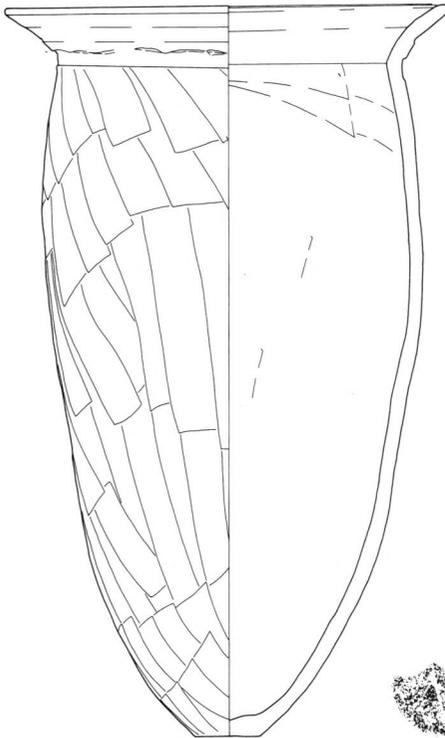
第45図 第28b号住居址出土遺物 (表一7)

0 10cm



1

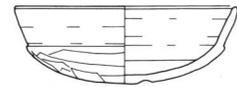
3



4



5



6



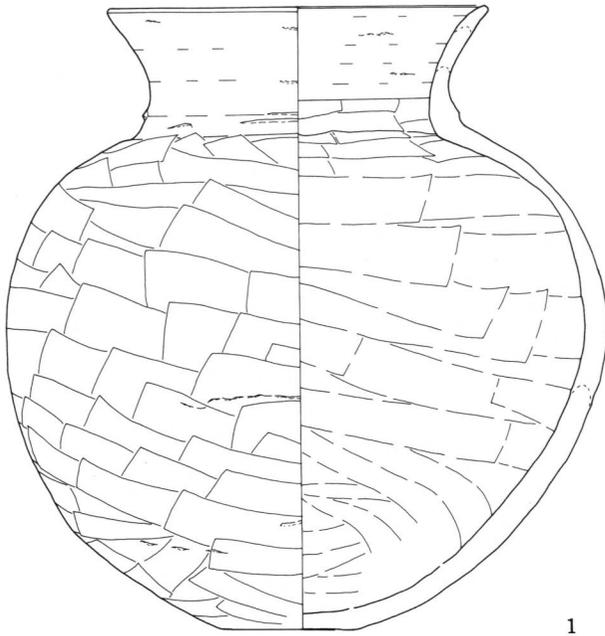
7



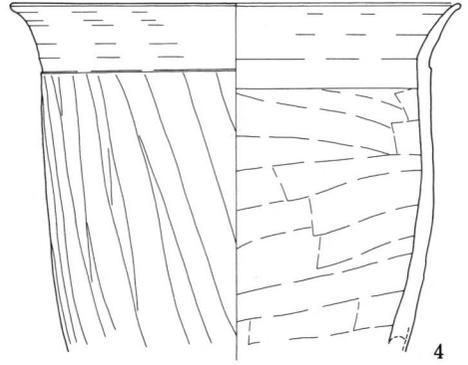
2

0 10cm

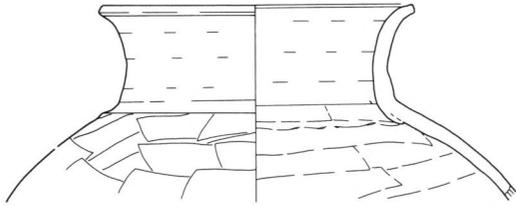
第46図 第29a号住居址出土遺物 (表一8)



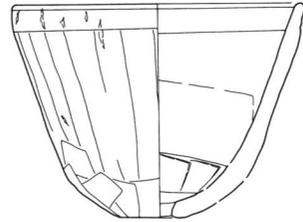
1



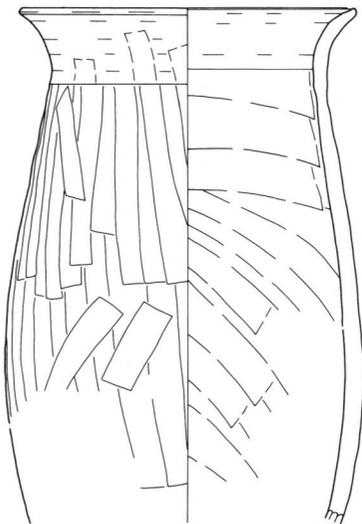
4



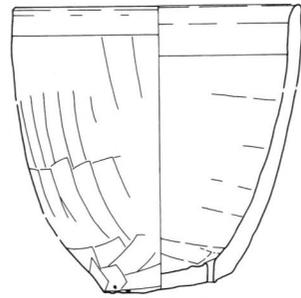
2



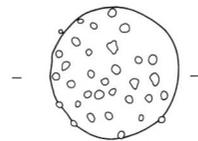
5



3

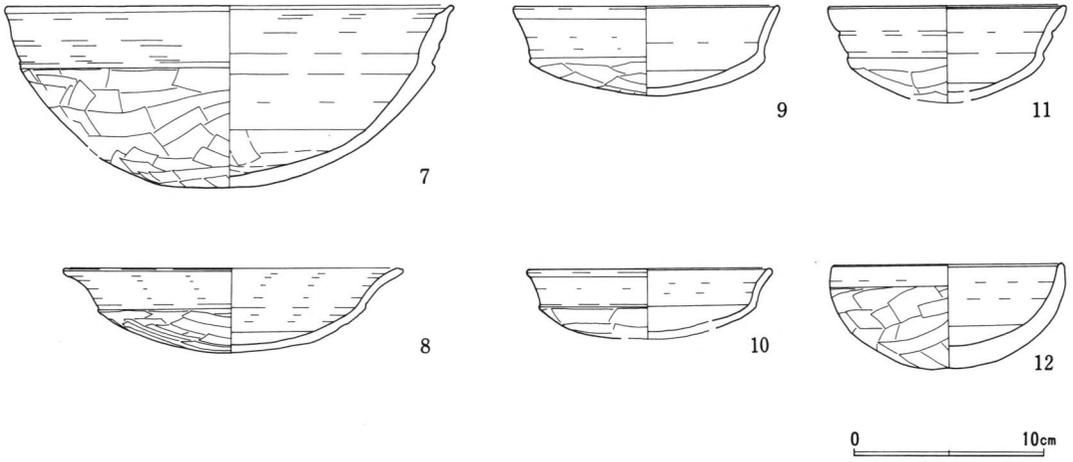


6



0 10cm

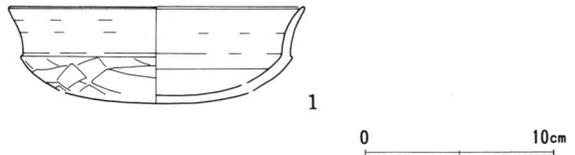
第47图 第29b号住居址出土遺物(1)(表—9)



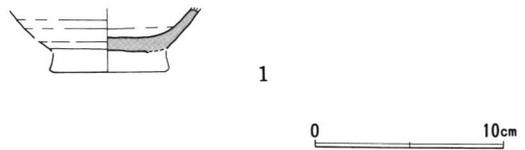
第48图 第29b号住居址出土遺物(2) (表-9・10)



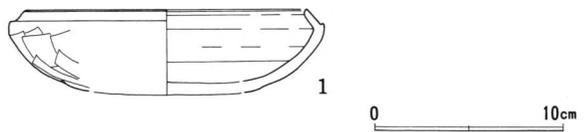
第49图 第29c号住居址出土遺物 (表-11)

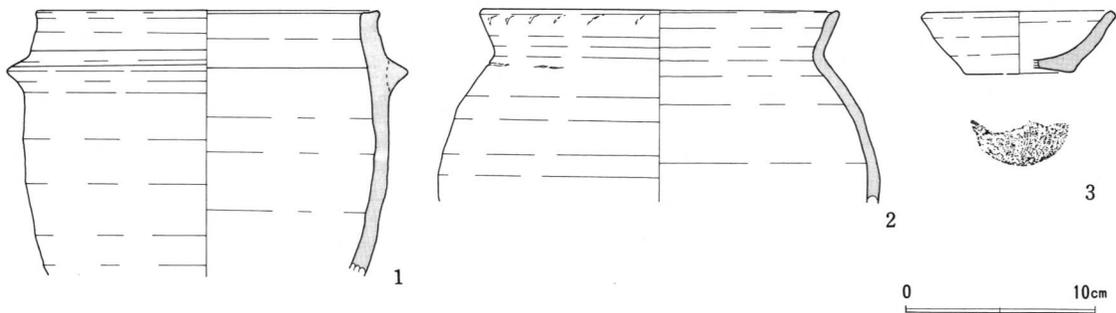


第50图 第30号住居址出土遺物 (表-12)

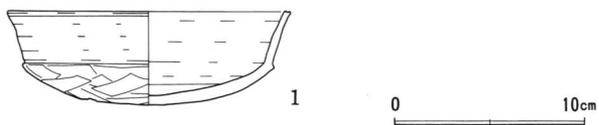


第51图 第31号住居址出土遺物 (表-13)

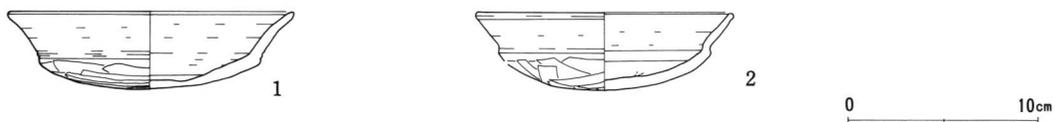




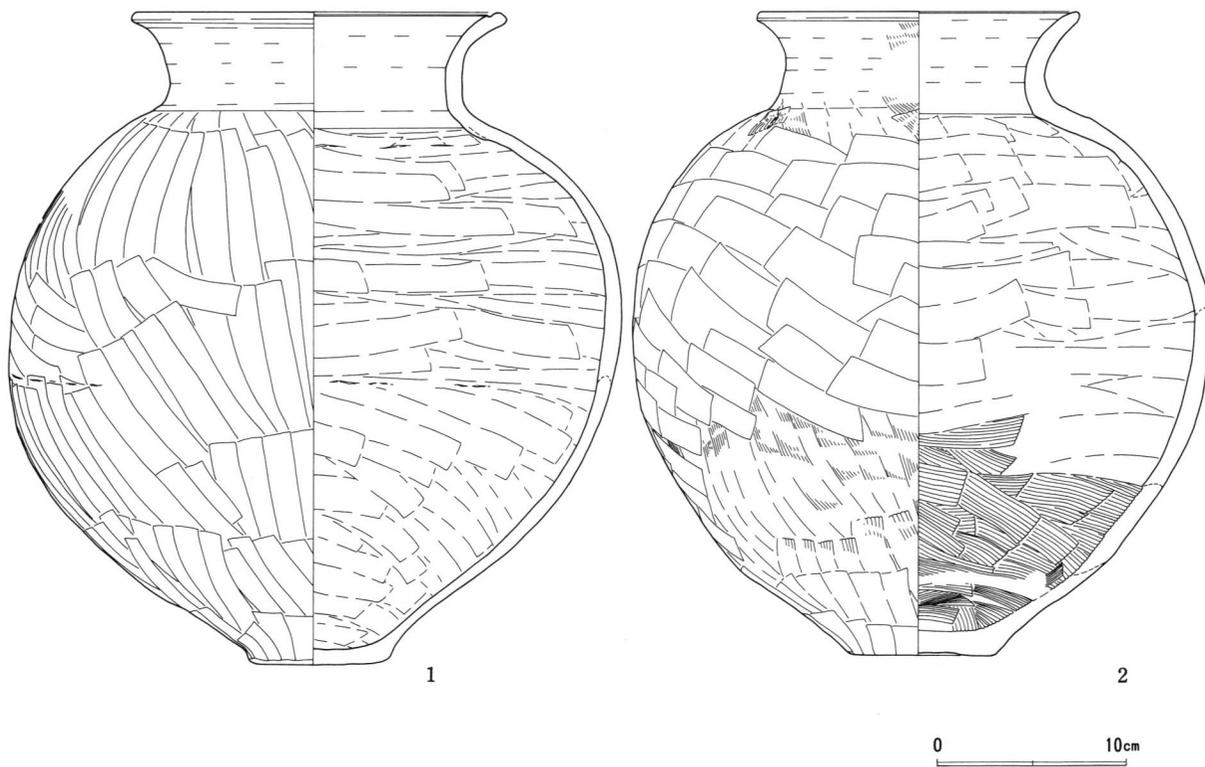
第52図 第33a号住居址出土遺物 (表-14)



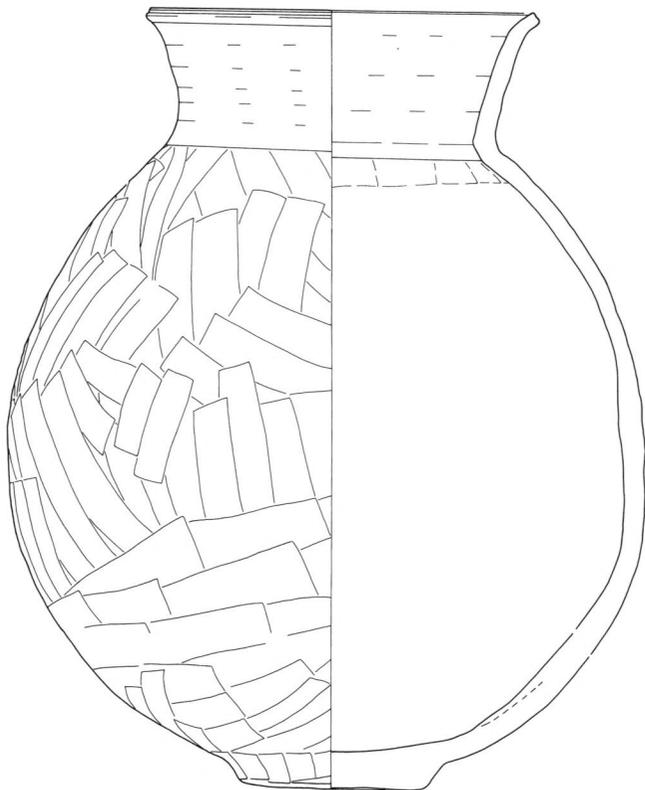
第53図 第33b号住居址出土遺物 (表-15)



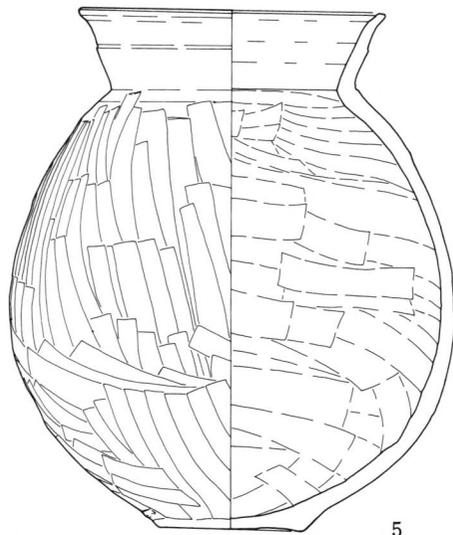
第54図 第34号住居址出土遺物 (表-16)



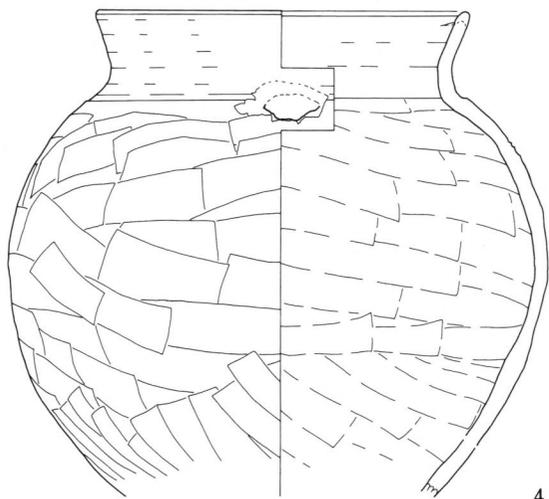
第55図 第35b号住居址出土遺物 (1) (表-17)



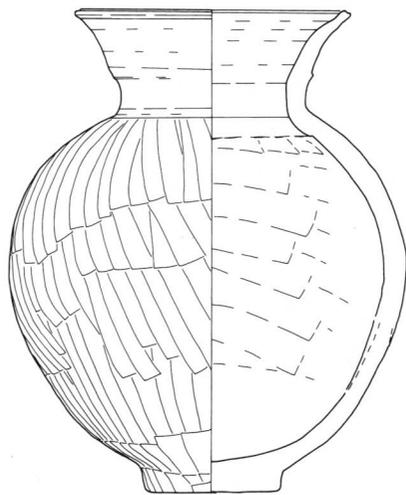
3



5



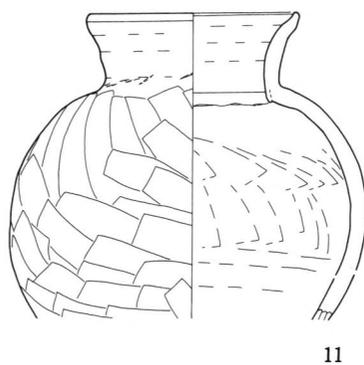
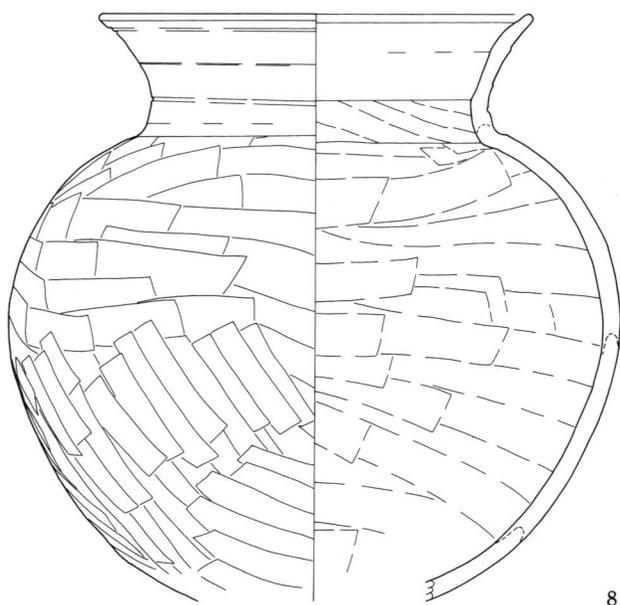
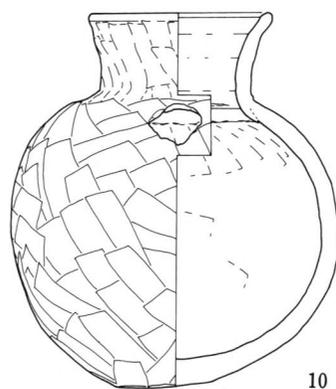
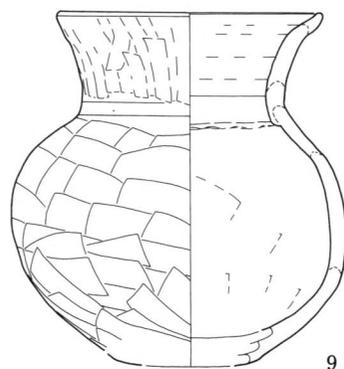
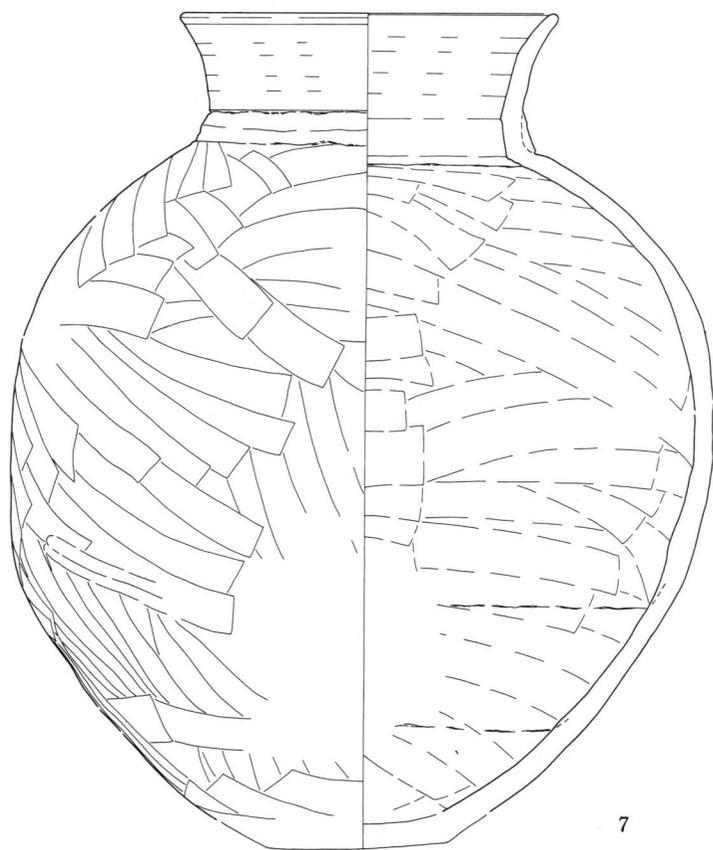
4



6

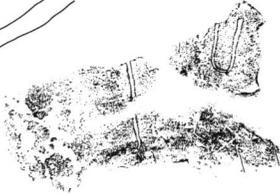
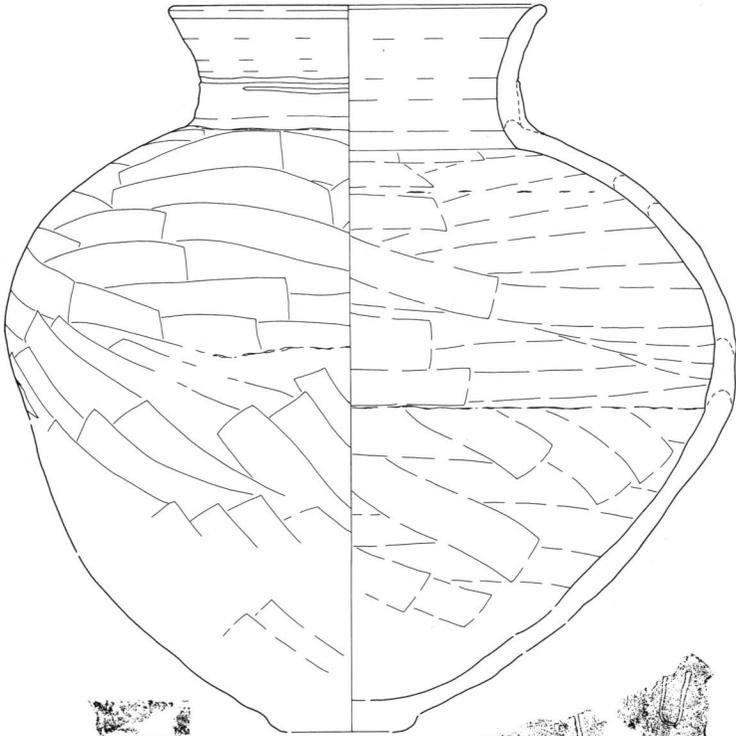
0 10cm

第56図 第35b号住居址出土遺物 (2) (表-17)

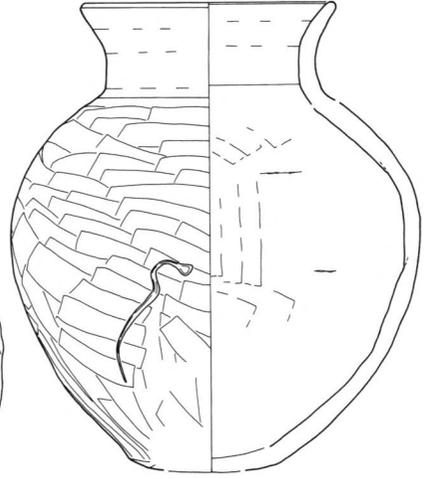


0 10cm

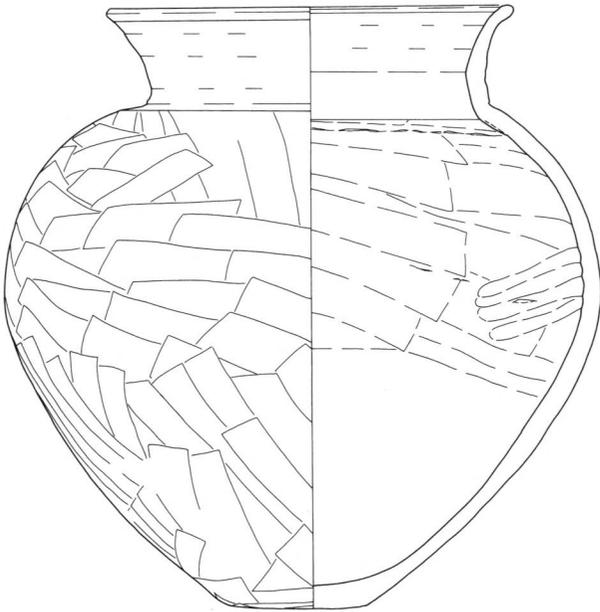
第57图 第35b号住居址出土遺物 (3) (表-17)



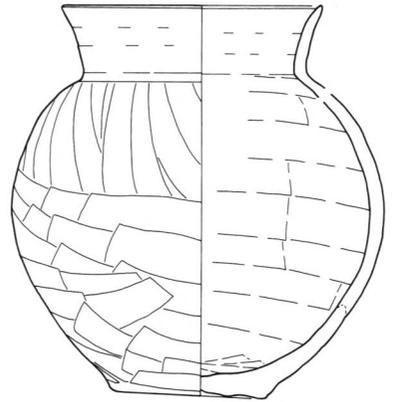
12



14



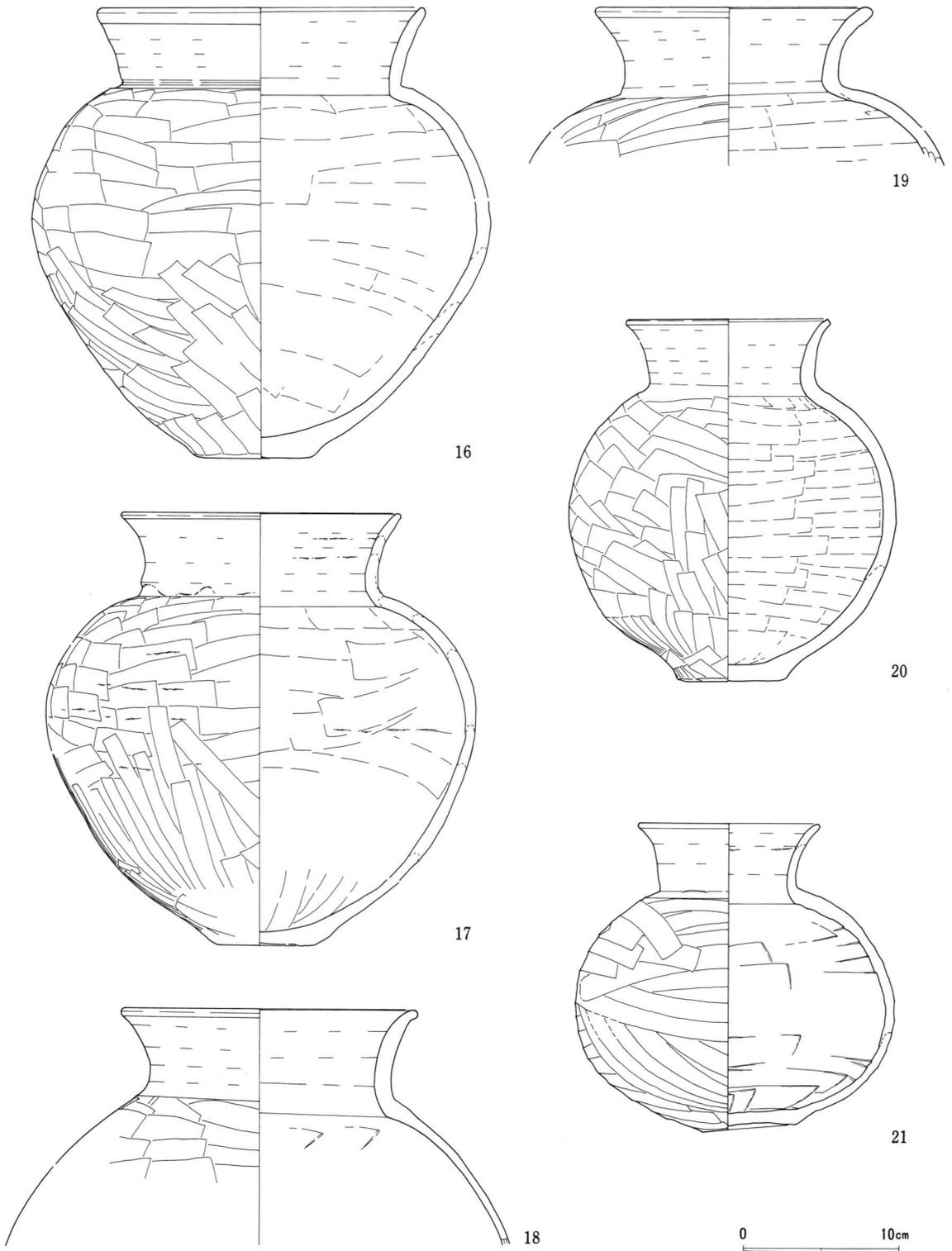
13



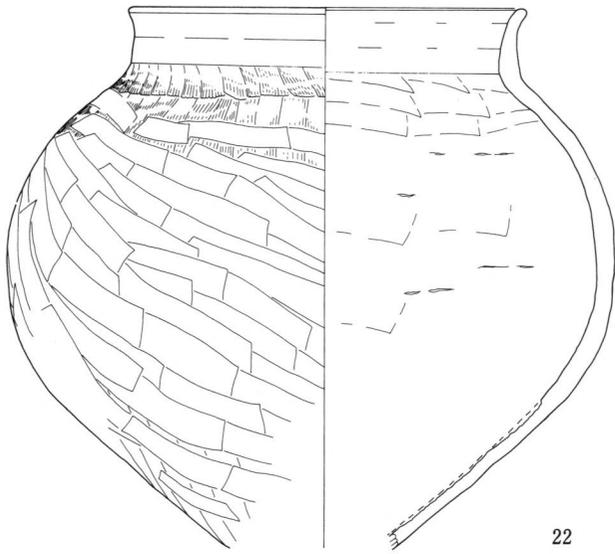
15

0 10cm

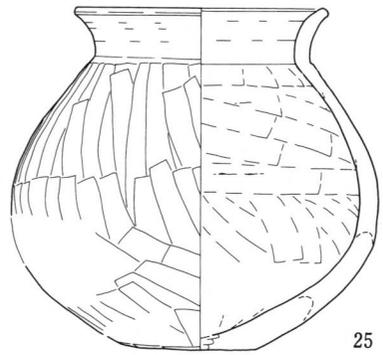
第58图 第35b号住居址出土遺物 (4) (表—17)



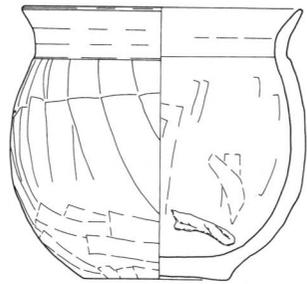
第59図 第35b号住居址出土遺物 (5) (表-17)



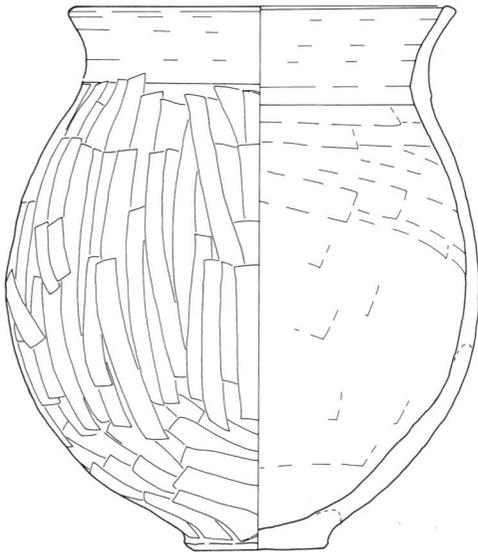
22



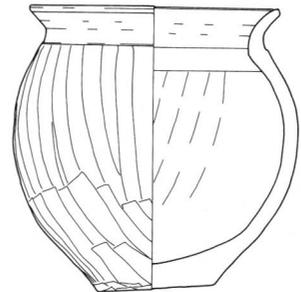
25



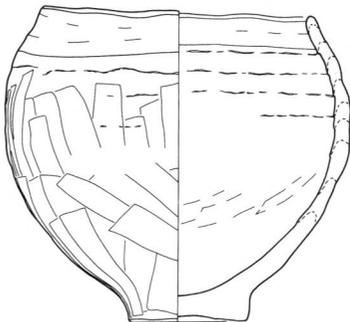
26



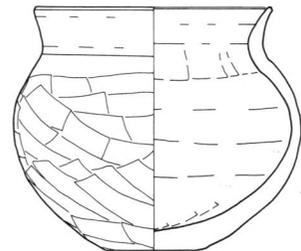
23



27



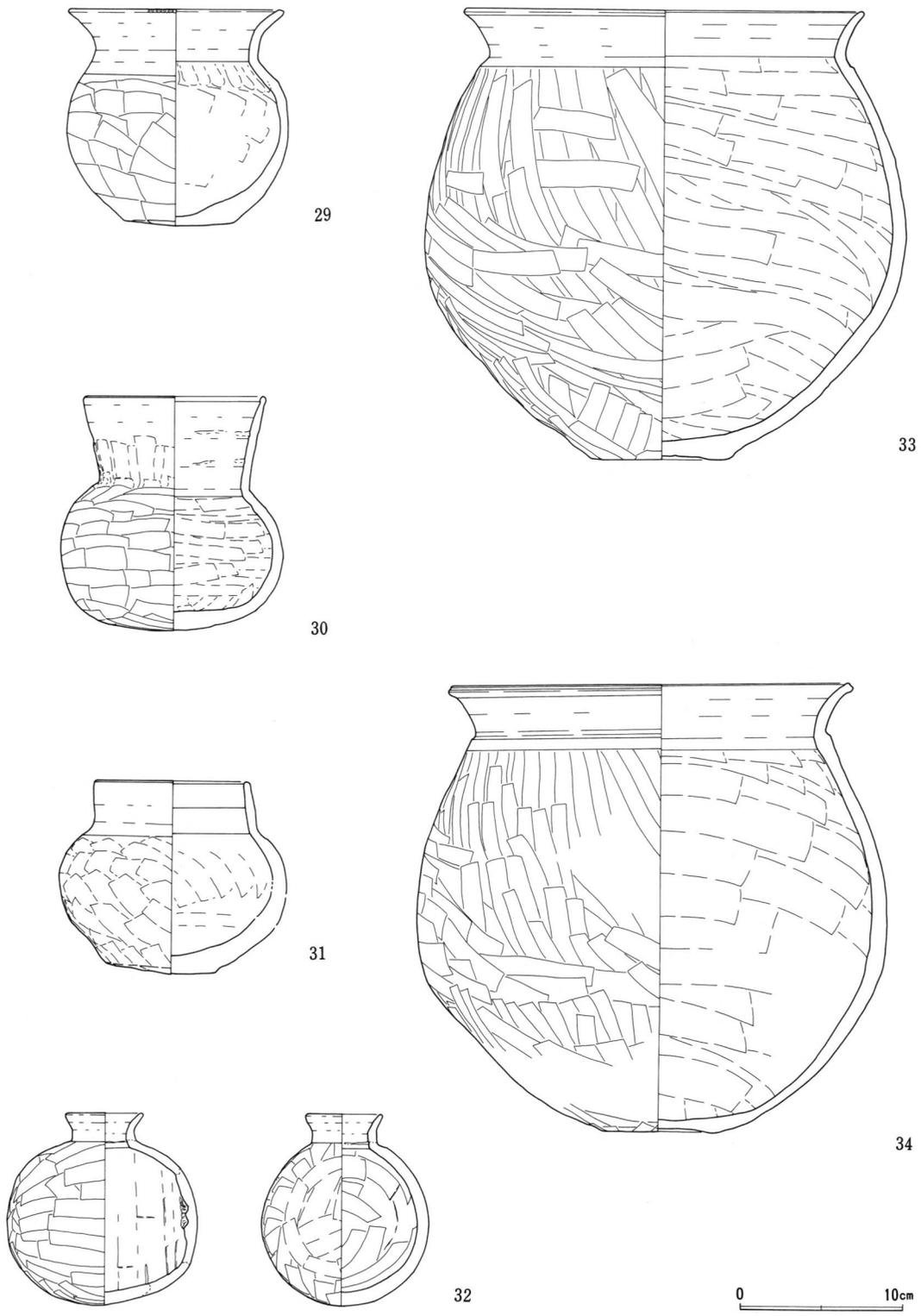
24



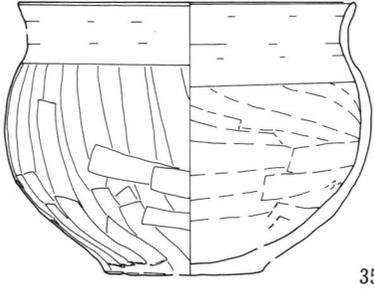
28

0 10 cm

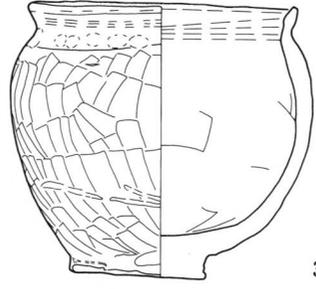
第60图 第35b号住居址出土遺物 (6) (表-17)



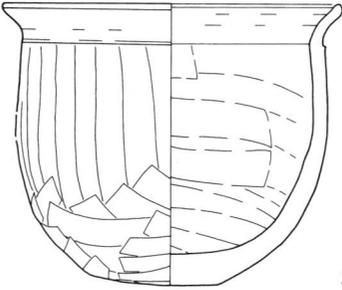
第61图 第35b号住居址出土遺物 (7) (表-17)



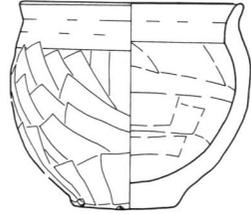
35



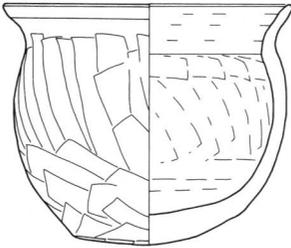
39



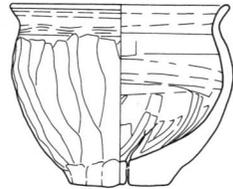
36



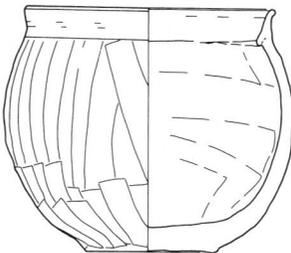
40



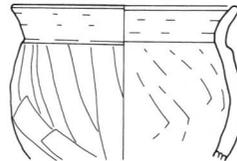
37



41



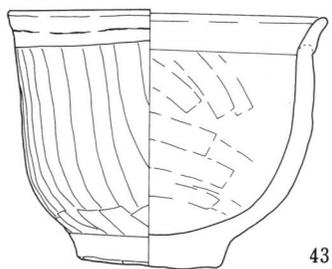
38



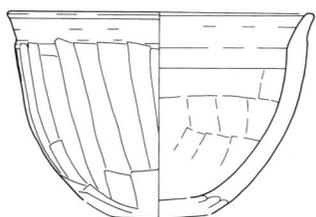
42



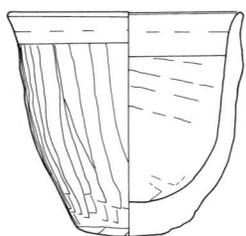
第62図 第35b号住居址出土遺物 (8) (表—17)



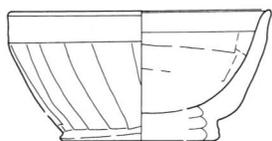
43



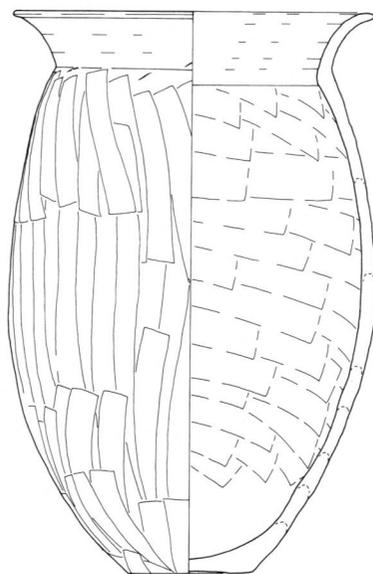
44



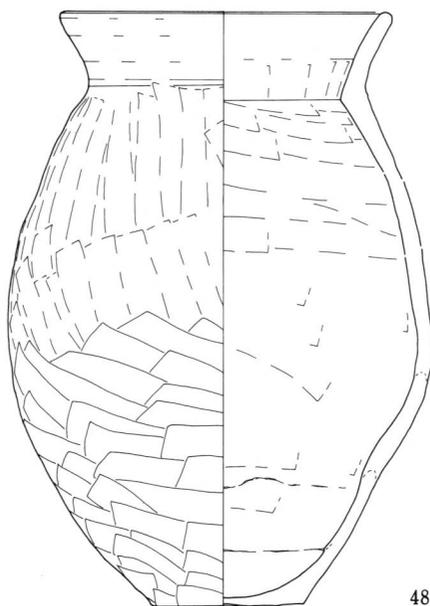
45



46



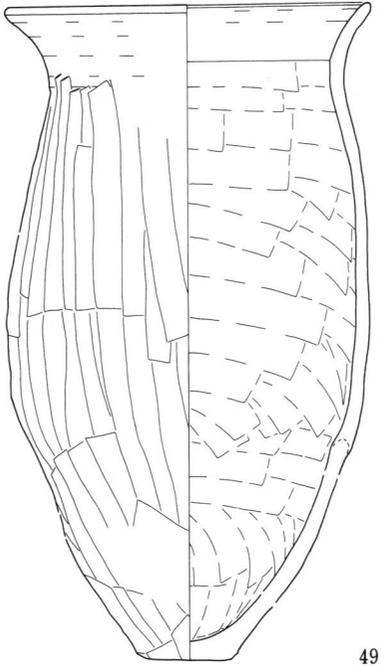
47



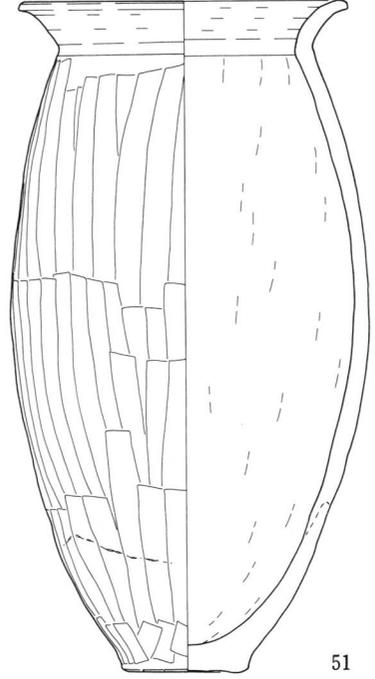
48

0 10cm

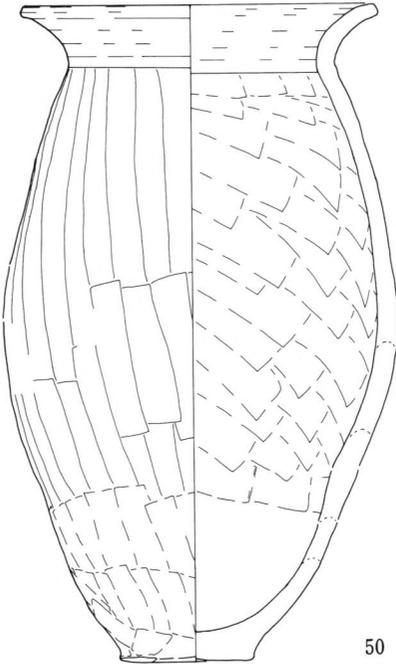
第63图 第35b号住居址出土遺物 (9) (表-17)



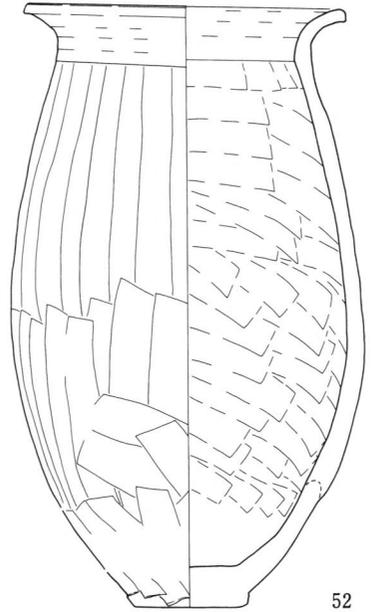
49



51



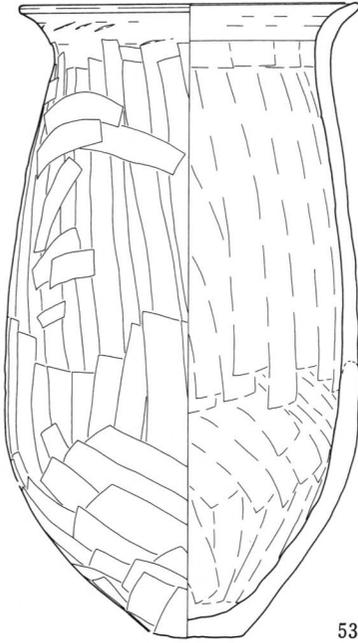
50



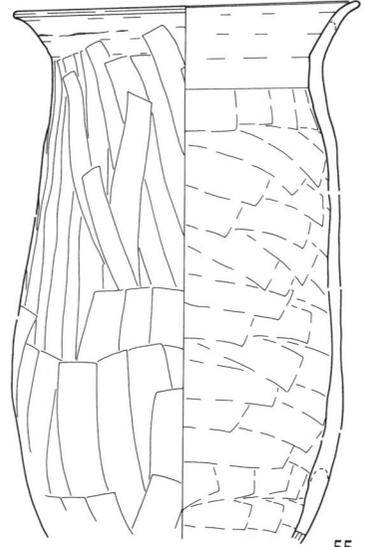
52

0 10cm

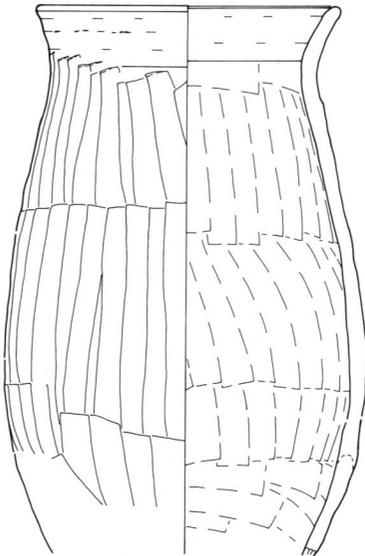
第64图 第35b号住居址出土遺物 (10) (表-17)



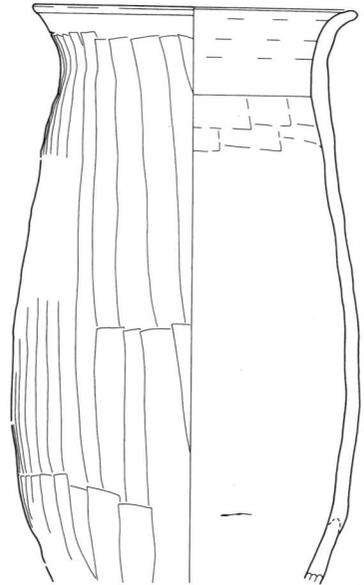
53



55



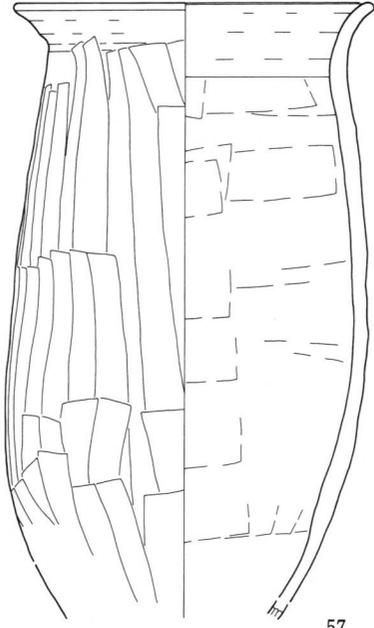
54



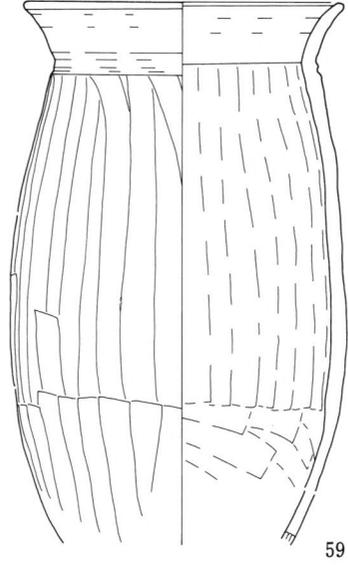
56

0 10cm

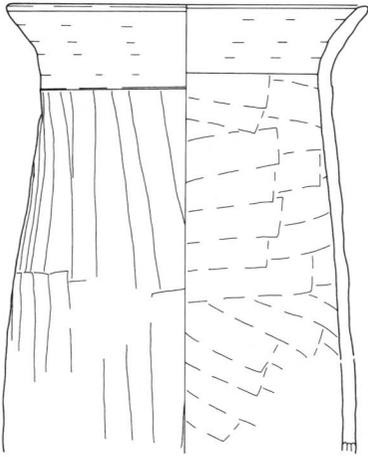
第65图 第35b号住居址出土遺物 (11) (表-17)



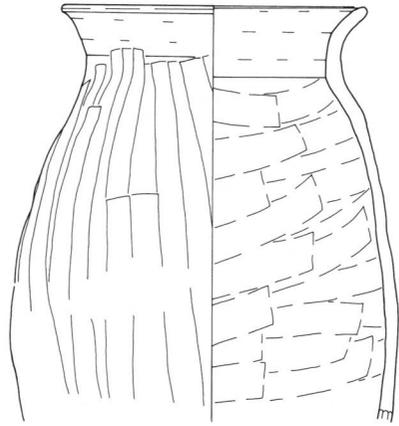
57



59



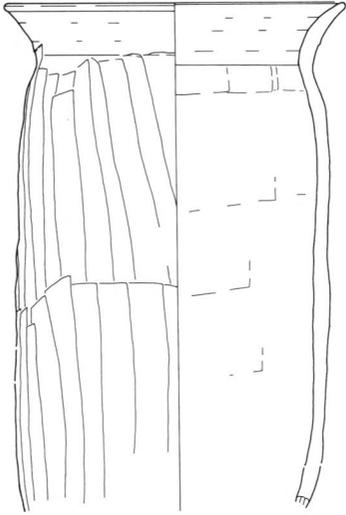
58



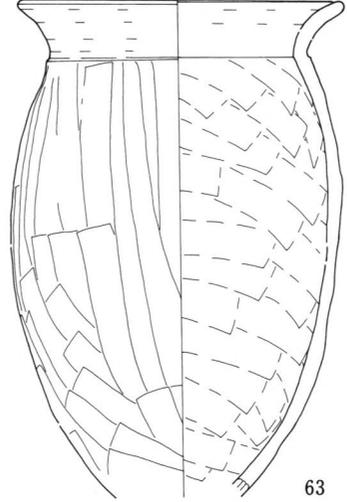
60

0 10cm

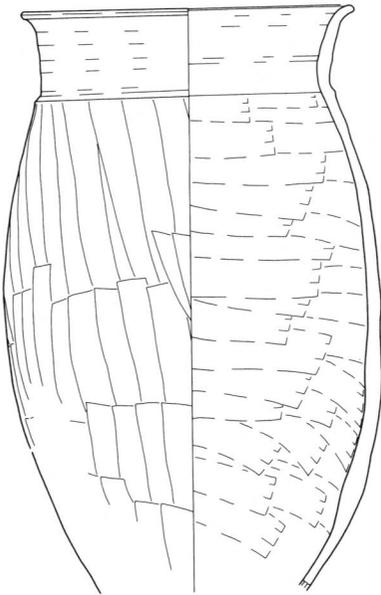
第66图 第35号住居址出土遺物 (12) (表-17)



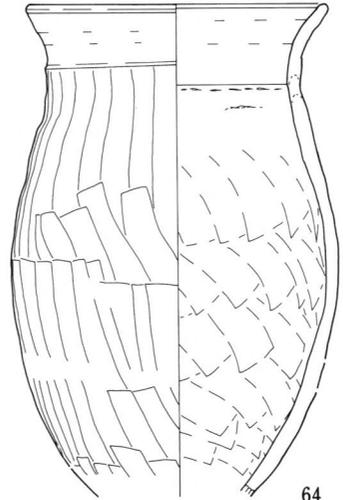
61



63



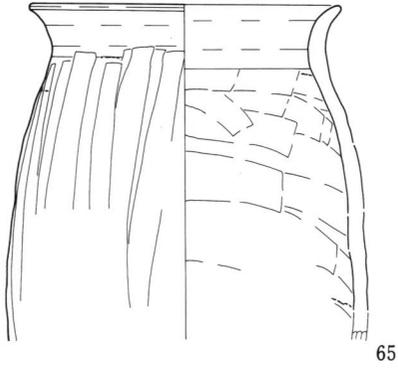
62



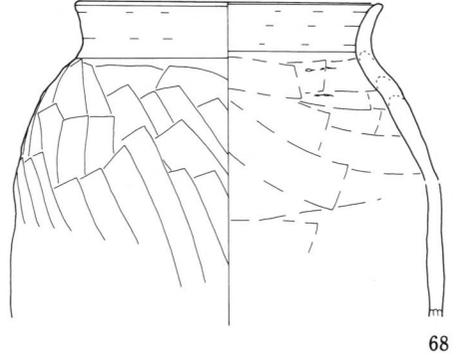
64



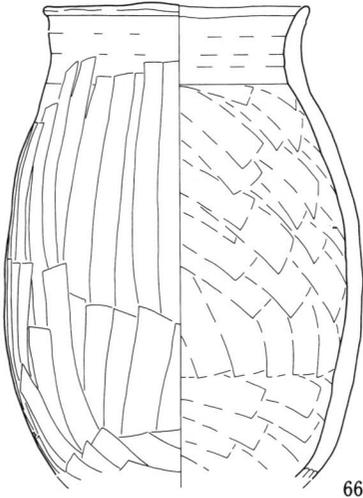
第67图 第35b号住居址出土遺物 (13) (表一17)



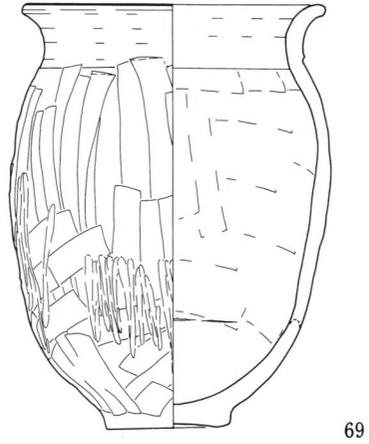
65



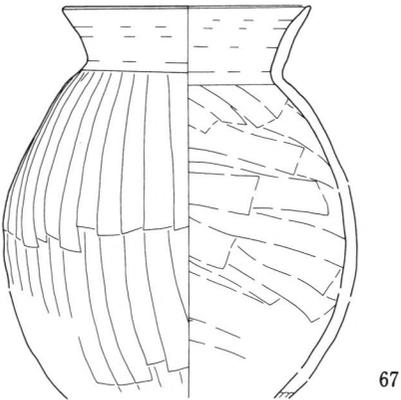
68



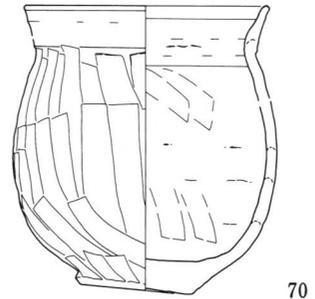
66



69



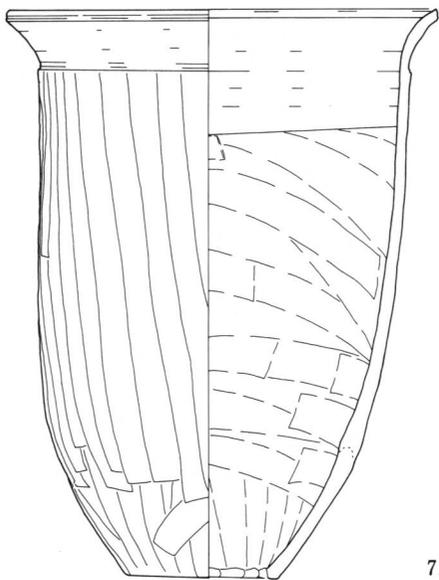
67



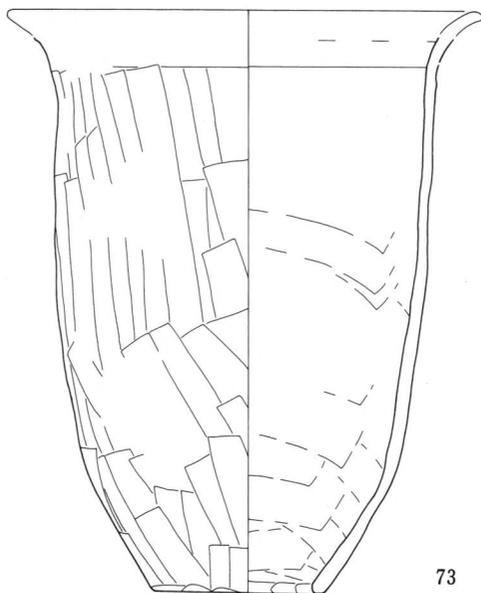
70

0 10cm

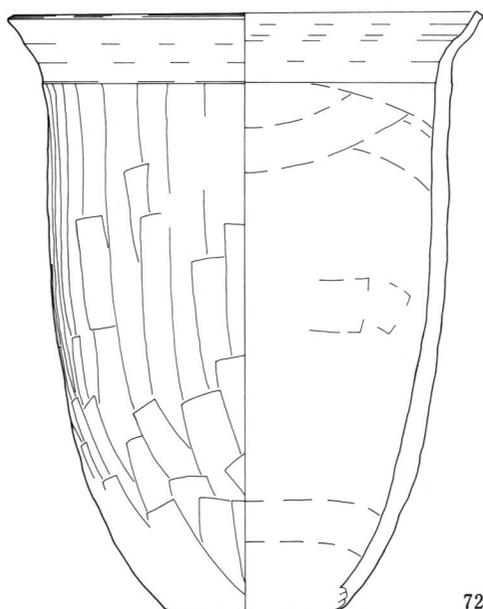
第68图 第35b号住居址出土遺物 (14) (表-17)



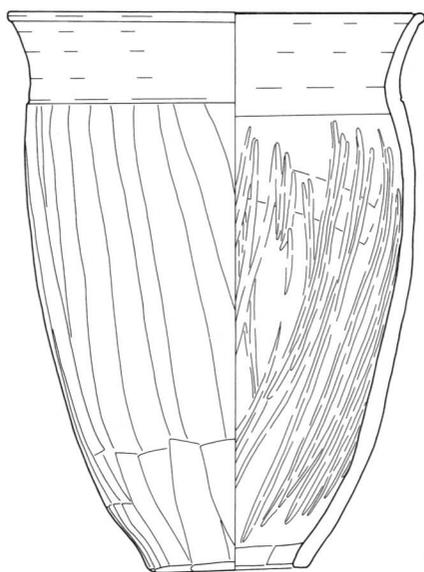
71



73



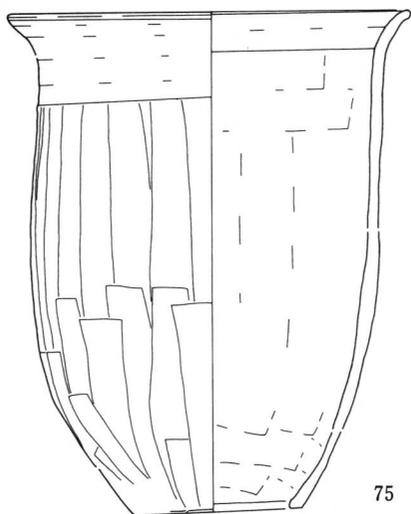
72



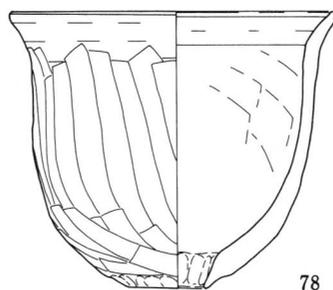
74

0 10cm

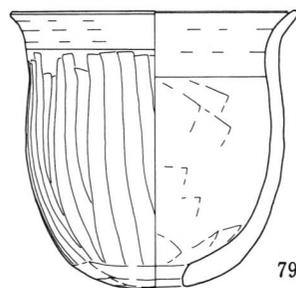
第69图 第35b号住居址出土遺物 (15) (表一17)



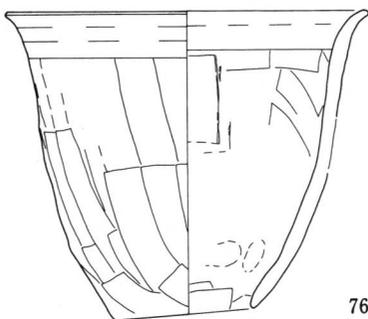
75



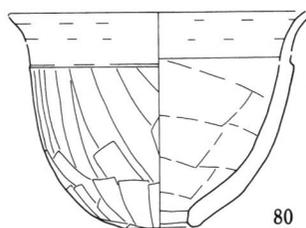
78



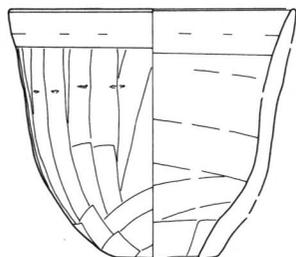
79



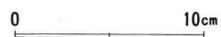
76



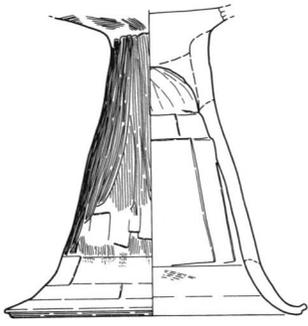
80



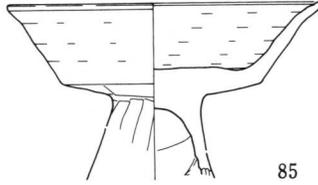
77



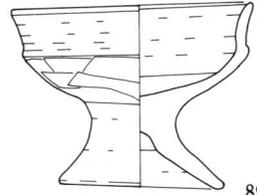
第70図 第35b号住居址出土遺物 (16) (表—17)



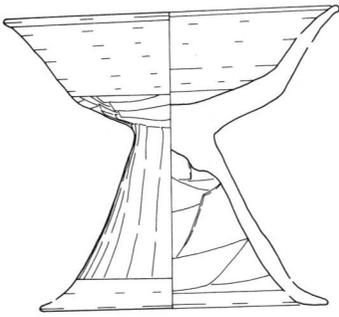
81



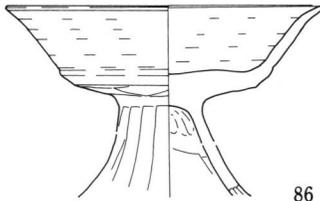
85



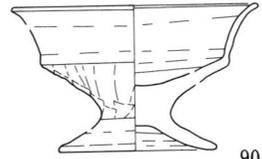
89



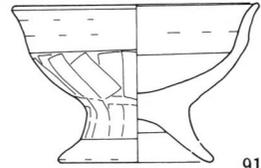
82



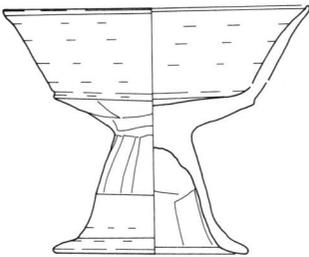
86



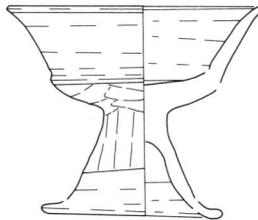
90



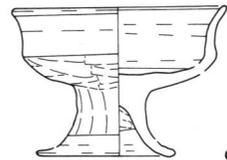
91



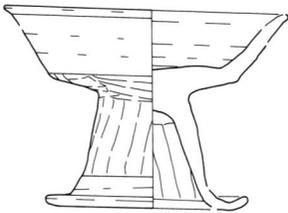
83



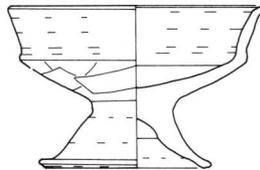
87



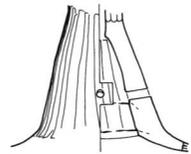
92



84



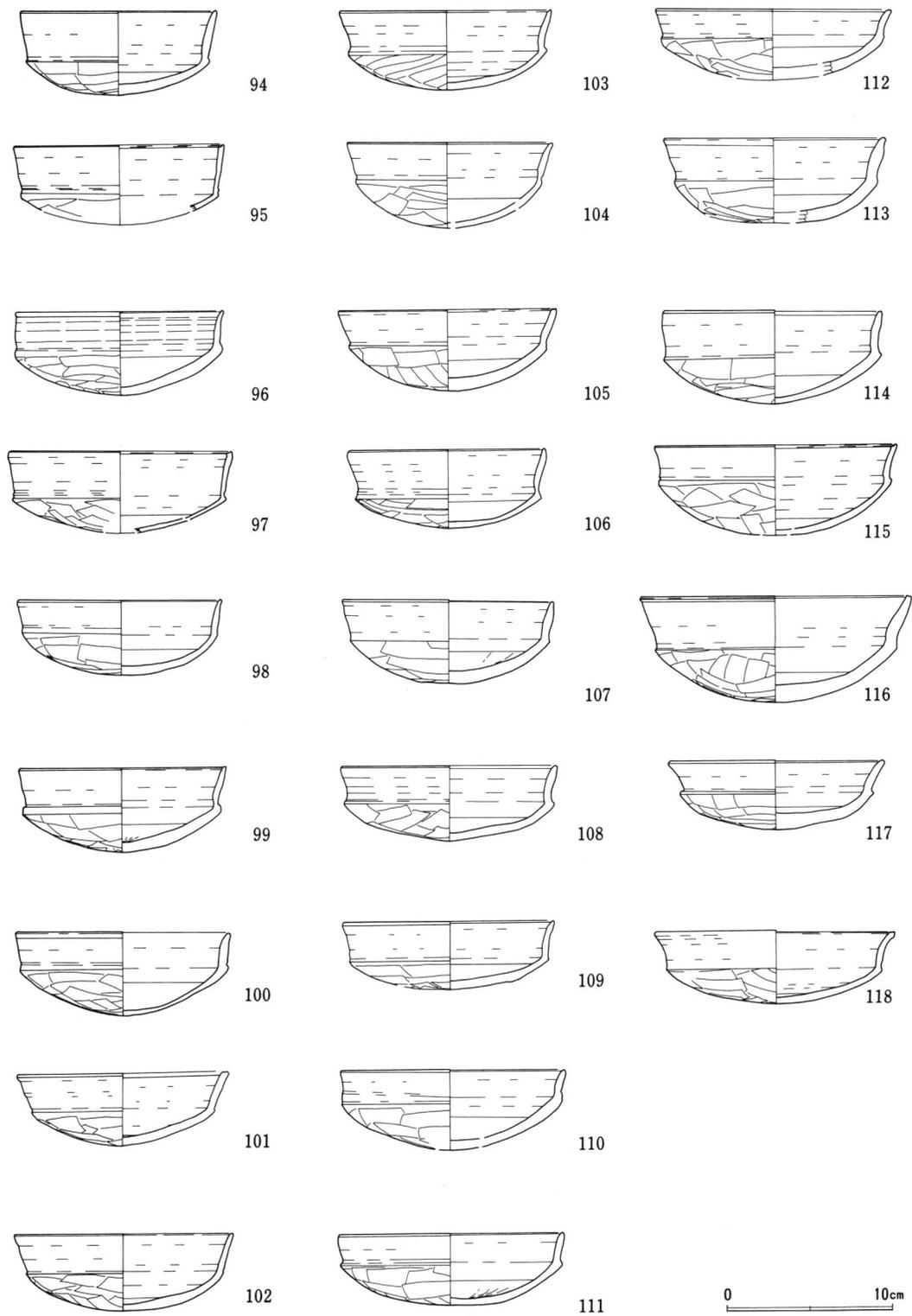
88



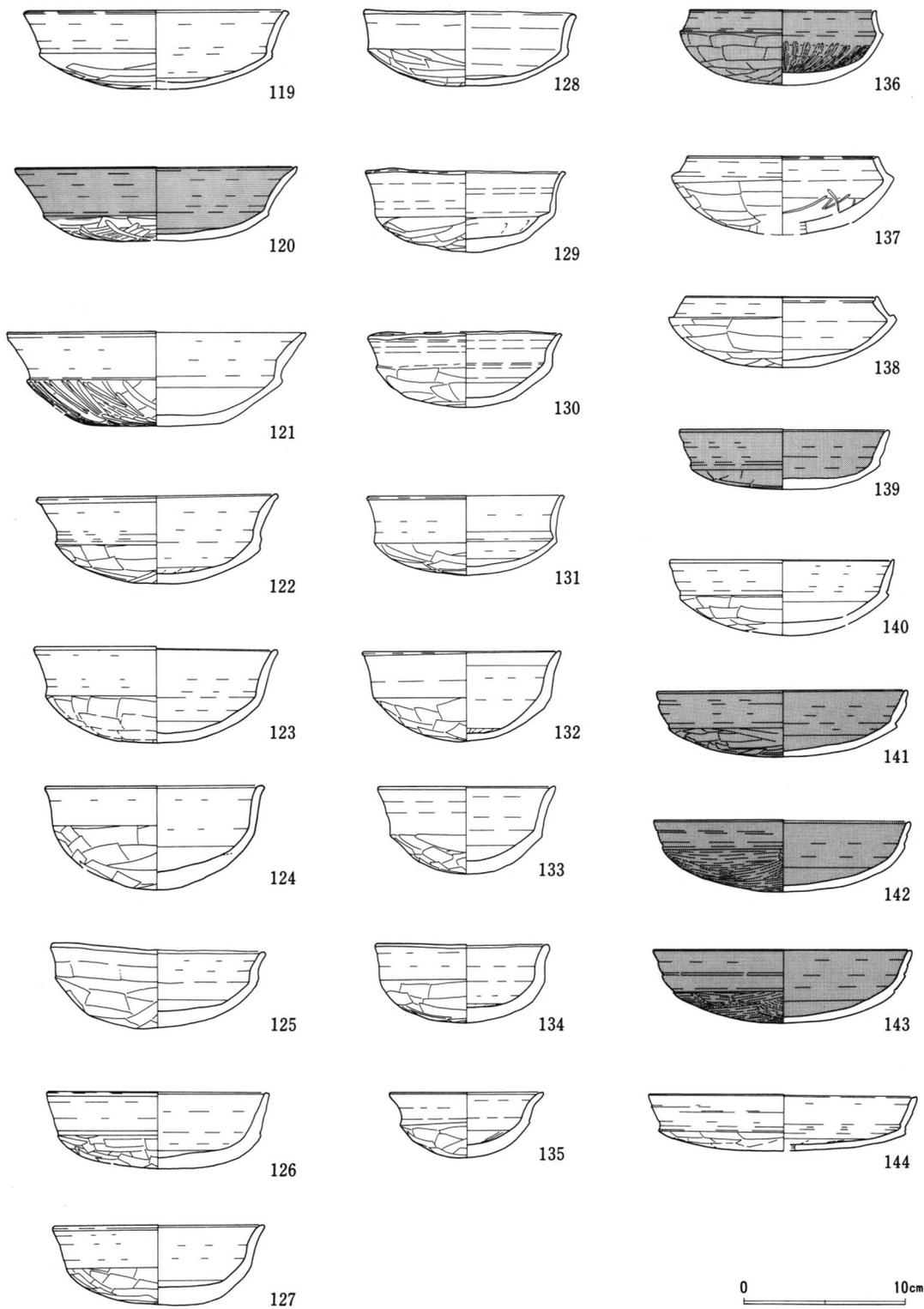
93



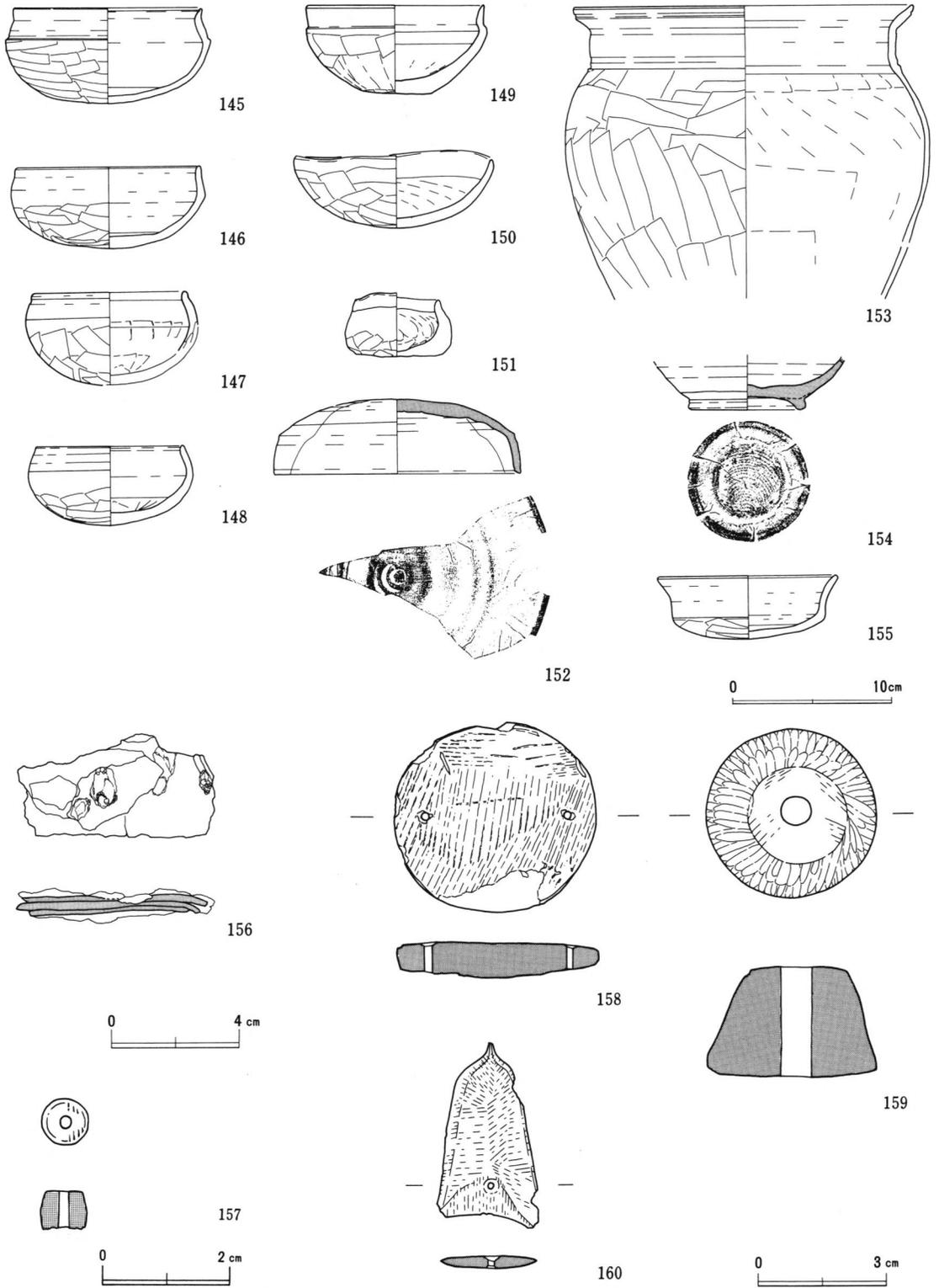
第71图 第35b号住居址出土遺物 (17) (表—17)



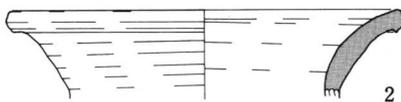
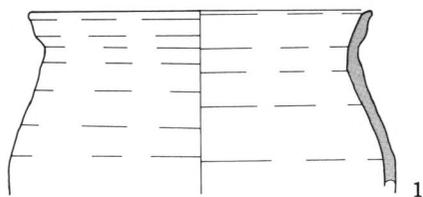
第72图 第35b号住居址出土遺物 (18) (表-17)



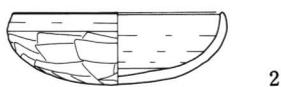
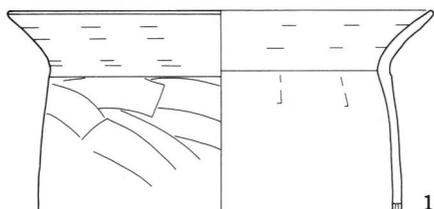
第73图 第35b号住居址出土遺物 (19) (表一17)



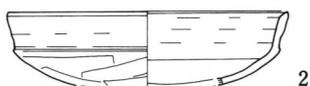
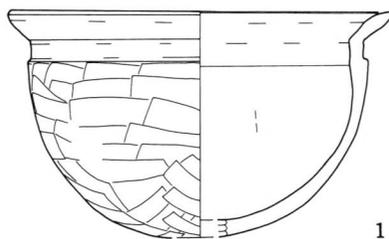
第74图 第35b号住居址出土遺物 (20) (表-17·18)



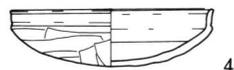
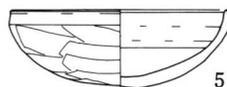
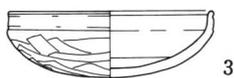
第75图 第36号住居址出土遺物 (表-19)



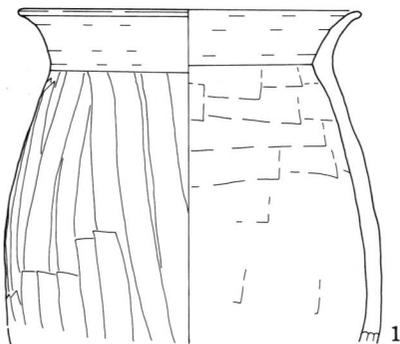
第76图 第37a号住居址出土遺物 (表-20)



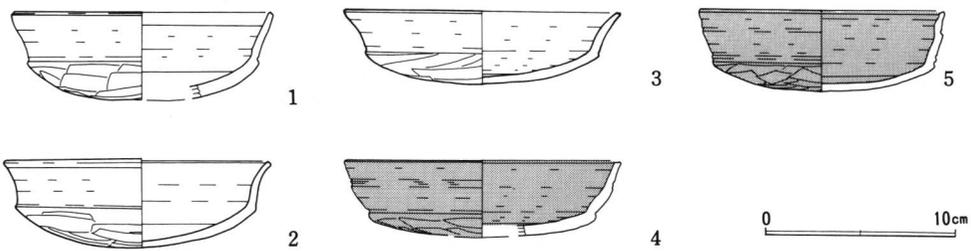
第77图 第37b号住居址出土遺物 (表-21)



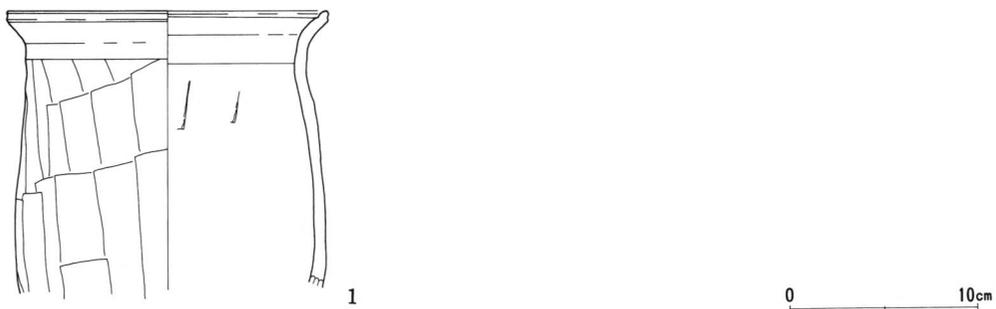
第78图 第38a号住居址出土遺物 (表-22)



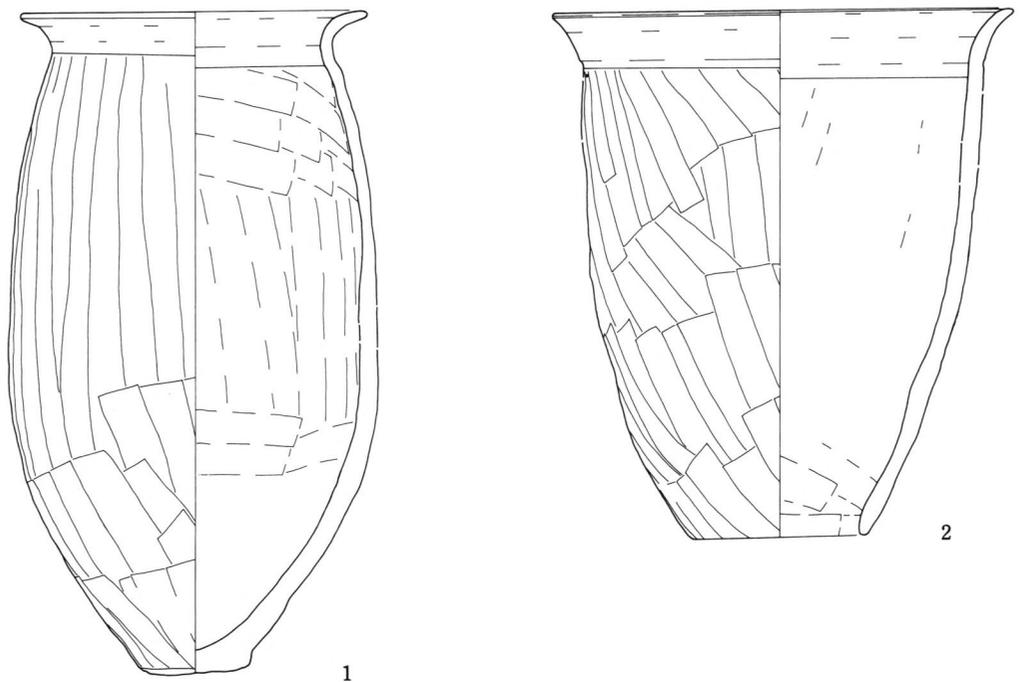
第79图 第38b号住居址出土遺物 (表-23)



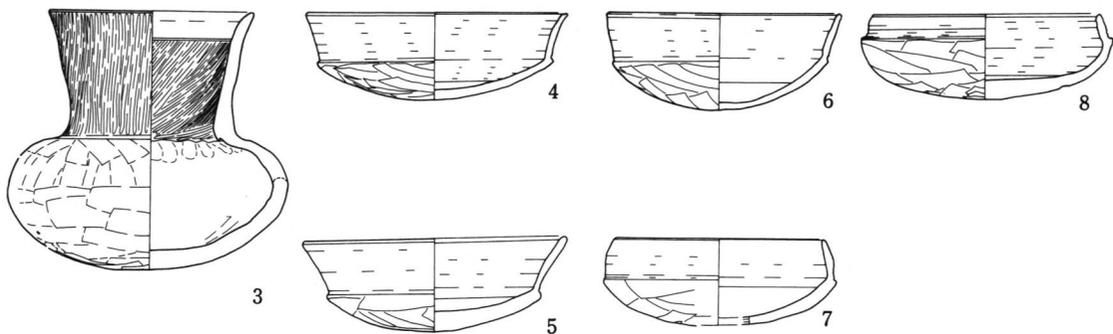
第80図 第39号住居址出土遺物 (表-24)



第81図 第41a号住居址出土遺物 (表-25)

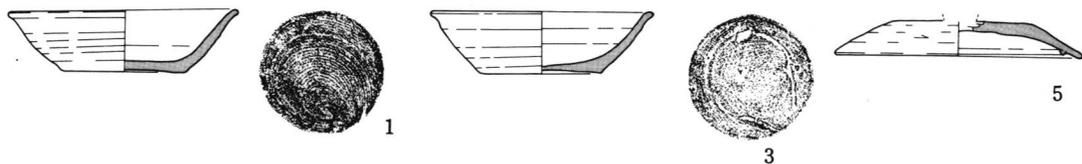


第82図 第41b号住居址出土遺物 (1) (表-26)

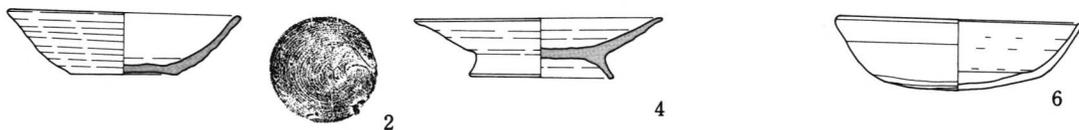


0 10cm

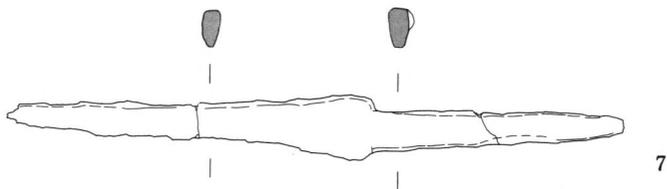
第83图 第41b号住居址出土遺物 (2) (表—26)



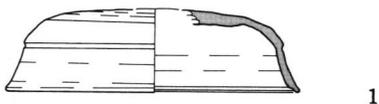
0 10cm



0 4cm

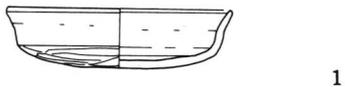


第84图 第42a号住居址出土遺物 (表—27·28)



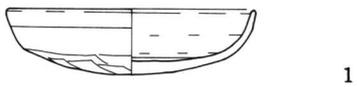
0 10cm

第85图 第42b号住居址出土遺物 (表—29)



0 10cm

第86图 第43号住居址出土遺物 (表—30)



0 10cm

第87图 遺構外出土遺物 (表—31)

表一 1 第13号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko (19.4) t — h <11.4>	口端部は丸い。 口唇部は内側に肥厚し立ち上がる。 器内外面に輪積痕顕著。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部はナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのちナデ。	㊸㊹ 淡暗褐色	残 20% 焼 良 雲 ㊸ 片、石、Fe、Mn ㊺
2	坏	ko 14.9 h 4.5	口端部は丸い。 口唇部は外側に肥厚する。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部上半はヘラケズリのち丁寧なナデ、底部下半はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	㊸㊹ 褐色 暗橙褐色	残 60% 焼 良 砂粒 ㊸ 片、石、雲 ㊺
3	坏	ko 13.9 h 4.5	口端部はやや尖り気味に丸い。 口唇部はわずかに内湾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊸㊹ 暗橙褐色	残 80% 焼 良 片、石、砂粒 雲、Fe ㊸
4	坏	ko (13.7) h <4.5>	口端部は丸い。 口唇部器内面はわずかに窪む。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 橙褐色	残 30% 焼 普 片、石、砂粒 雲 ㊸ 角、Fe ㊺
5	坏	ko (10.5) h 5.0	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内湾する。 底部器外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部上半はナデ、底部下半はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊸㊹ 橙褐色 淡褐色	残 80% 焼 良 片、石、砂粒 雲、Mn ㊺

表一 2 第27a号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	須恵器 坏	ko (12.1) t 5.2 h 3.5	口端部は丸い。 口唇部は外反する。 体部はやや張りをもつて開く。	内外口クロ水挽き成形。 底部回転糸切り。	㊸㊹ 灰褐色	残 90% 焼 やや不良 雲 ㊸ 片、白針 ㊺

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
2	須恵器 坏	ko 12.8 t (5.9) h 3.8	口端部は丸い。	外内ロクロ水挽き成形。 底部大半剥落欠損。	㊟ 淡黄灰褐色 淡灰褐色 ㊤ 暗灰褐色	残 70% 焼 普 片、石、雲、 Mn、角 ㊦
3	坏	ko 9.8 t 5.1 h 2.8	口端部は丸い。 口唇部はやや外反する。 体部はやや張りつつ開く。 酸化焰焼成。	外内にロクロ水挽き成形。 底部回転糸切り。	㊟㊤ 橙褐色	残 40% 焼 普 片、雲、角、 Fe ㊧
4	坏	ko (11.9) t (9.2) h <3.0>	口端部は丸い。 口唇部はやや内傾する。	外側は口縁部はヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部から底部はヨコナデ。	㊟㊤ 淡橙褐色	残 20% 焼 普 雲、Mn ㊨ 砂粒 ㊩

表一 3 第27a号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分類	大きさ (cm)	残存率	特徴
5	石製紡錘車	大径 5.0 厚 2.1 孔 0.6	完	滑石製。暗灰色を呈する。大円端部、側面は刃物状工具による加工痕が明瞭である。小円端部は研磨によりやや滑らかな面に仕上げられている。

表一 4 第27b号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	坏	ko (12.2) h <4.0>	口端部は丸い。 口唇部はやや立ち上がる。 口辺部は内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊟㊤ 暗褐色	残 10% 焼 普 片、石、Mn ㊦ Fe ㊧

表一 5 第28a号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko (15.0) t -	口端部は丸く、外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	㊟ 暗橙褐色	残 30% 焼 普

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
		h <10.8>	胴部中位の器表面やや荒れる。	内側は口端部はヨコナデ、口縁部から胴部上位は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのちナデ。	㊦ 淡褐色 淡暗橙褐色	片、石、砂粒 雲 ④
2	坏	ko (8.4) h 5.2	口端部は丸い。 底部は平底状で厚い。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はナデ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 灰褐色	残 40% 焼 普 Mn ④ Fe、角 ② 白粒、石、雲 ⑥
3	坏	ko (12.9) h <5.0>	器形の歪みが著しい。 口端部は丸く、外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 淡茶褐色	残 40% 焼 普 片、角、Fe、Mn ②
4	坏	ko (12.3) h <4.4>	口端部は丸い。 口端部に断面「U」字形の圧痕あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部中位はナデ。	㊦㊧ 淡暗褐色	残 30% 焼 普 雲、Fe、Mn ②

表－6 第28a号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分類	大きさ (cm)	残存率	特徴
5	白 玉	長 0.9 径 1.5 孔 0.3	60%	滑石製。淡緑灰色を呈する。端部には刃物状工具によると思われる加工痕あり。側部は荒い研磨が施されている。円筒状を呈するものと思われる。

表－7 第28b号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	坏	ko (11.1) h 3.9	口端部は丸く、外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部はヨコナデ、底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊦㊧ 橙褐色 暗橙褐色	残 60% 焼 良 片、石、Fe ② 角 ⑥

表一 8 第29a号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	壺	ko 17.9 t — h <25.9>	口端部は丸い。 口唇部内面は凹線状に窪む。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのち軽いナデ。	㊸㊹ 橙褐色 淡褐色	残 50% 焼 普 片、石、砂粒 ㊺ Fe ㊻
2	甕	ko 23.5 t 3.9 h 39.0	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 胴部上位に最大径をもつ。 器外面胴部上位やや下から中位にかけてスス附着。 底部器外面に木葉痕あり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、底部はナデか。	㊸ 暗褐色 淡褐色 ㊹ 淡褐色	残 90% 焼 普 砂粒 ㊺ 片、石 ㊻
3	甌	ko 19.4 t 2.6 h 14.5	口端部はやや尖り、外側は面状を呈する。 体部から底部にかけて器外面の荒れが著しい。 丸底状を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具によるナデのちナデ、底部は木口状工具によるナデ、下端部はヘラケズリ。	㊸㊹ 淡褐色 淡橙褐色	残 90% 焼 普 片、石、砂粒 ㊺ 角、Fe ㊻
4	甌	ko (17.5) t 6.1 h 11.6	口端部は丸い。 口縁部は緩やかに外反する。 器外面口縁部から体部下位に黒斑あり。 器内面口唇部に爪痕を伴う指頭による押圧複数あり。 器内面体部上位に帯状をなすヨゴレ附着。 多孔。 穿孔は器外面から施されている。 第29a号住居址覆土中出土であるが、第29b号住居址に帰属する可能性が高い。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ、底部はヘラケズリのち穿孔。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊸ 暗茶褐色 淡褐色 ㊹ 褐色 淡褐色	残 80% 焼 良 片、石 ㊺ 雲、角、Fe ㊻
5	坏	ko 11.5 h 4.1	口端部は丸く、やや立ち上がる。 口唇部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊸㊹ 橙褐色	残 完 焼 普 片、石、Fe ㊻
6	坏	ko 11.8	口端部は丸い。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具に	㊸	残 90%

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
		h 4.1	口唇部はわずかに内湾する。	よるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	褐色 ㊦ 暗褐色 褐色	焼 良 片、石 ㊧ 雲 ㊨
7	坏	ko 14.8 h 3.1	口端部は丸い。 口唇部器内面に凹線が巡る。 口辺部中位に段を有する。 口辺部は大きく開く。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口唇部は工具をアテ凹線を巡らす。口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊦ 淡褐色 橙褐色 ㊦ 橙褐色	残 80% 焼 良 片、石、Fe ㊧ 角 ㊨

表一 9 第29b号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	壺	ko 20.3 t 7.6 h 33.2	口端部は丸い。 胴部上位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具による横位のナデのち木口状工具によるヨコナデ、頸部から胴部上位は木口状工具による横位のナデ、胴部から底部は木口状工具による斜位のナデのち軽いナデ。	㊦㊦ 淡暗褐色	残 70% 焼 良 砂粒 ㊧ 片、石、角 ㊨
2	壺	ko 16.7 t - h <10.4>	口端部は面状をなす。 口唇部は大きく外反する。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部から胴部は木口状工具による横位のナデ。	㊦㊦ 暗橙褐色	残 30% 焼 普 砂粒 ㊧ 片、石、Fe ㊨
3	甕	ko 17.9 t - h (26.9)	口端部はやや尖り立ち上がる。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部中位やや下に最大径をもつ。 器外面胴部中位にスス附着。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による不規則なナデのち軽いナデ。	㊦ 暗褐色 暗橙褐色 ㊦ 淡暗褐色	残 50% 焼 普 片、石、砂粒 ㊧ Fe ㊨ 貯蔵穴内出土 ㊩
4	甌	ko 24.0 t - h <18.6>	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口唇部はヨコナデのち外側上位に木口状工具によるヨコナデを施す。口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	㊦㊦ 淡暗橙褐色	残 40% 焼 良 Fe、Mn ㊧

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
				内側は口端部はヨコナデ、口縁部から胴部上位は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのちナデ。		片、砂粒、雲 ④
5	甌	ko 15.6 t 3.6 h 11.5	口端部は丸い。 口縁部から体部は直線的に開く。 体部下位から下端部にかけて黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、体部下位は木口状工具によるナデ、下端部はヘラケズリ。	④⑤ 橙褐色	残 80% 焼 普 片、石 ④ 雲、チャ、Fe ④ 角 ④
6	甌	ko (15.3) t 7.0 h 14.7	口端部は丸い。 口唇部はやや外反する。 器外面体部上半はやや荒れている。 多孔。	外側は口縁部はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部から体部上位はヨコナデ、体部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。 穿孔は外内両方向から。	④ 淡褐色 淡橙褐色 ⑤ 暗褐色	残 40% 焼 普 片、石、Fe ④ 角、Mn ④
7	鉢	ko 23.7 t 7.2 h 9.6	口端部は丸い。 口唇部は大きく外反する。 口縁部中位やや下に段をもつ。 口縁部器外面の一部にススあり。 やや丸底気味である。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から体部中位は木口状工具によるヨコナデ、体部下位から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	④⑤ 暗褐色 暗橙褐色	残 70% 焼 普 砂粒、Fe ④
8	坏	ko 18.0 h 4.5	口端部は凹線を巡らせている。 口辺部は大きく開く。	外側は口端部はヨコナデのち凹線を巡らせている。 口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	④⑤ 橙褐色	残 90% 焼 良 片、石、Fe ④ 角 ④
9	坏	ko (14.2) h 4.7	口端部は丸い。 器表面の剥落顕著。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	④ 淡暗褐色 ⑤ 橙褐色	残 70% 焼 普 片、石 ④ 角 ④
10	坏	Ko (13.1) h <3.7	口端部は丸く、わずかに外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデか、底部はナデ。	④⑤ 淡褐色	残 30% 焼 普 雲、Fe ④

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
11	坏	ko (12.7) h <5.1>	口端部は丸い。 口唇部器内面に凹線を巡らせている。 口辺部中位に段を有する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデか、底部下半はナデ。	⑥⑦ 淡褐色	残 30% 焼 良 片、石、Fe ④ 角 ②
12	鉢	ko 12.1 h 5.6	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内傾する。 丸底を呈する。 器内面の剥落顕著。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から体部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	⑥ 淡褐色 ⑦ 淡橙褐色	残 95% 焼 良 片、石、白粒 ④ Fe、Mn ②

表一10 第29b号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分類	大きさ (cm)	残存率	特徴
13	石製紡錘車	長 3.7 径 1.6 孔 0.65	50%	滑石製。暗青灰色を呈する。大円端部、小円端部ともに研磨により滑らかな面を呈するが周円部の一部に荒い研磨の痕跡が観察される。側面は刃物状の工具加工のち研磨が施されやや滑らかな面を形成している。また、斜位の線刻がなされている。側面端部は連続的な研磨がなされている。穿孔は小円端部側からで途中に段状を呈する部位が2箇所観察できる。

表一11 第29c号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	坏	ko (15.8) h <4.5>	口端部は丸い。 口辺部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部中位はナデ。	⑥⑦ 橙褐色	残 20% 焼 普 微砂粒 ② Fe、Mn ⑥

表一12 第30号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	須恵器 高台付 坏	ko - t 6.1 h <2.3>	高台部欠損。 酸化焰焼成。	外内口クロ水挽き成形。底部回転糸切後高台部貼付け。	⑥⑦ 橙褐色	残 20% 焼 不良 砂粒、雲、Fe ②

表一13 第31号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	坏	ko (15.0) h (4.4)	口端部は丸い。 口辺部は内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部中位にかけて木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 暗赤褐色	残 10% 焼 良 片、石、Fe ㊤ ㊦

表一14 第33a号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	羽釜	ko (18.2) t — h <14.1> g (21.3)	口端部は面状をなす。	外内ロクロナデ成形。 罎部上面及び口縁部器内面には木口状工具による2次調整が施される。	㊦ 橙褐色 淡暗灰色 ㊧ 暗灰色	残 20% 焼 やや不良 砂粒、雲 ㊤ 片、石、Fe ㊦
2	甕	ko (18.9) t — h <10.2>	口端部は丸い。 酸化焰焼成。	外内ロクロナデ成形。 口唇部は木口状工具による連続的なヨコナデのちロクロナデ。	㊦㊧ 橙褐色	残 10% 焼 不良 砂粒 ㊤ 片、石、Fe ㊦ カマド内出土
3	高台付 坏	ko (10.3) t (5.8) h 3.2	口端部外側は面状をなす。 酸化焰焼成。	外内ロクロ水挽き成形。	㊦㊧ 暗褐色	残 50% 焼 不良 微砂粒 ㊦ カマド内出土

表一15 第33b号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	坏	ko 15.1 h 5.0	口端部は凹線を巡らせている。	外側は口端部はヨコナデのち工具により凹線を巡らせている。口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 90% 焼 良 片、石、雲、Fe ㊤ 白針 ㊦

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
			底部はやや凹底状を呈する。 胴部器内面は剥落顕著。 底部器外面に木葉痕あり。	よるやや斜位のナデのちナデ、底部はナデ。		
4	壺	ko 19.9 t — h <25.9>	口端部は丸い。 口縁部は直線的に開く。 胴部中位に最大径をもつ。 頸部から胴部上端にかけて器内面側からの打突による穿孔がなされている。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのちナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 70% 焼 良 片、石、砂粒 ㊤ 雲、角 ㊨
5	壺	ko 16.3 t 7.7 h 27.6	口端部は面状を呈する。 口唇部は大きく外反する。 口縁部中位は凹線を巡らせ稜をつくりだしている。 胴部中位はやや下に最大径をもつ。	外側は口端部は木口状工具によるヨコナデ、口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部は木口状工具による斜位のナデ。	㊦㊧ 淡橙褐色	残 80% 焼 良 砂粒、Fe ㊤ 片、石、雲 ㊨
6	壺	ko 14.7 t 7.1 h 25.7	口端部は外側に面をもち凹線が施されている。 口縁部中位は稜状を呈する。 胴部上位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデのち凹線を施している。 口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部はナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、底部はナデ。	㊦ 暗橙褐色 ㊧ 暗橙褐色 淡褐色	残 90% 焼 普 砂粒、Fe ㊤ 片、石、角 ㊨
7	壺	ko (20.0) t — h <42.5>	口端部は丸い。 口縁部は中位でゆるやかに外反する。 頸部は粘土紐を貼り付け補強している。 胴部上半は器表面の剥落がやや顕著である。 胴部中位に最大径をもつ。 胴部下位は器表面が乱れる。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部は指頭によるヨコナデ、胴部上位から中位はヘラケズリ、胴部下位はヘラナデか。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による不規則な斜位のナデのち軽いナデ。	㊦ 橙褐色 淡褐色 ㊧ 暗橙褐色	残 80% 焼 良 砂粒 ㊤ 片、石、Fe ㊨
8	壺	ko 23.0 t — h <31.2>	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内傾する。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部中位はやや上に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部はヨコナデのち木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部は斜位のナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのち軽いナデ。	㊦㊧ 淡暗橙褐色	残 70% 焼 普 片、石、砂粒 ㊨ 雲、角、Fe ㊤

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
9	壺	ko 14.1 t (8.0) h <18.7>	口端部は丸く、口唇部は内傾し受け口状を呈する。 胴部は中位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は縦位のヘラナデ、頸部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部はナデ、胴部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	㊦㊧ 淡暗橙褐色	残 60% 焼 普 片、石、砂粒 ⊕ 角、Fe ②
10	壺	ko 9.8 t 5.2 h 19.8	口端部は丸く、口唇部は内傾気味にわずかに立ち上がる。 肩部に器外面側からの打突による穿孔あり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は縦位のヘラナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部はナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	㊦ 橙褐色 ㊧ 淡褐色	残 95% 焼 普 片、石、砂粒 ⊕ 角、Fe ②
11	壺	ko 11.4 t — h <16.2>	口端部は丸く、口唇部は内傾し受け口状を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色 淡暗褐色	残 40% 焼 普 片、石、砂粒 ⊕ 角、Fe ②
12	壺	ko 20.0 t (7.6) h <38.8>	口端部は丸い。 口唇部は大きく外反する。 口縁部中位は凹線を巡らし稜状を呈する。 頸部に粘土を張り付け補強を行っている。 胴部上位に最大径をもつ。 器外面胴部下位に縦位の直線「u」字状、[o]のヘラ描あり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部は指頭によるヨコナデ、胴部上位から中位やや下はヘラケズリ、胴部下位はヘラナデに近いヘラケズリのちナデか。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による不規則なナデのち軽いナデ。	㊦㊧ 橙褐色 淡褐色	残 70% 焼 普 片、石、砂粒 ⊕ 雲、角、Fe ②
13	壺	ko 21.5 t 7.4 h 32.1	口端部は丸い。 口唇部は大きく外反する。	外側は口唇部はヨコナデ、口唇部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位から底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は木口状工具による斜位のナデのちナデ、胴部下半から底部は丁寧なナデ。	㊦ 淡橙褐色 ㊧ 淡褐色	残 80% 焼 良 砂粒、Fe ⊕ 片、石、雲 ②
14	壺	ko (13.5) t (8.3) h <24.8>	口端部はやや丸い。 胴部中位やや上に最大径をもつ。 胴部下位器外面に棒状工具に	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具に	㊦㊧ 暗橙褐色	残 60% 焼 良 片、石、Fe ⊕ 雲、角 ②

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
			よると思われる記号あり。	よるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデか。		
15	壺	ko (13.8) t 8.8 h 20.7	口端部はやや尖る。 口唇部は外反する。 胴部中位に最大径をもつ。 底部に木葉痕あり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデか、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による横位のナデのちナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦ 淡褐色 暗褐色 ㊩ 淡褐色	残 70% 焼 普 片、石、Fe ㊤ チャ ㊨
16	壺	ko (21.1) t (7.7) h 29.1	口端部は丸い。 口縁部は直線的に開く。 胴部中位やや上に最大径をもつ。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦㊩ 暗橙褐色	残 70% 焼 普 片、石、砂粒、 Fe ㊤ 雲 ㊳
17	壺	ko 18.0 t (6.2) h 27.9	口端部は丸い。 胴部上位に最大径をもつ。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は木口状工具による斜位のナデのち軽いナデ、胴部下半は木口状工具による左斜位のナデのち丁寧なナデ、底部は木口状工具による縦位のナデのち丁寧なナデ。	㊦㊩ 暗橙褐色	残 50% 焼 良 片、石、砂粒 角、Fe ㊳
18	壺	ko 19.1 t - h <15.2>	口端部は丸く、口唇部は外側に肥厚する。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのち丁寧なナデ。	㊦㊩ 淡橙褐色 淡暗褐色	残 30% 焼 普 砂粒、Fe ㊤ 片、石 ㊳
19	壺	ko 17.9 t - h <10.2>	口端部はやや丸い。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による横位のナデのち軽いナデ。	㊦ 橙褐色 ㊩ 橙褐色 淡橙褐色 暗褐色	残 20% 焼 普 砂粒 ㊤ 片、石、Fe ㊳
20	壺	ko (13.1) t 7.0 h 23.2	口端部は外側に面をもつ。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口	㊦㊩ 淡褐色	残 80% 焼 普 片、石、砂粒 ㊤

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
				状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのち軽いナデ、底部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。		角、Fe ㉔
2 1	壺	ko 11.6 t 6.0 h 19.9	口端部は丸い。 胴部は強く張り、中位に最大径をもつ。 外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリのち一部ナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は弧状ヘラによるヨコナデのちナデ、胴部下半は弧状ヘラによる強いナデ、底中央はナデ。	㉔ 褐色 橙褐色 ㉕ 褐色 橙褐色	残 80% 焼 普 片、石 ㊥ 雲、角、Fe ㉔
2 2	甕	ko (21.1) t - h <28.8>	口端部は丸く外側に肥厚する。 胴部中位やや上に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は刷毛状工具によるタテナデのちナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	㉔㉕ 暗褐色 褐色	残 50% 焼 普 片、石 ㊥ 雲、角、Fe ㉔
2 3	甕	ko 20.5 t 7.6 h 28.9	口端部外側は面状をなす。 胴部は大きく張り、中位やや下に最大径をもつ。	外側は口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	㉔ 淡褐色 暗橙褐色 ㉕ 暗橙褐色	残 80% 焼 普 片、石、砂粒、 Fe ㊥ 角 ㉔
2 4	鉢	ko 14.4 t 6.2 h 16.6	器形やや歪む。 口縁部は内傾する。 体部上位に輪積痕顕著。 壺製作途中で口縁部にまとめたものか。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部上半はナデ、体部中位は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	㉔㉕ 暗橙褐色	残 80% 焼 普 片、石、砂粒 ㊥ 雲、角、Fe ㉔
2 5	壺	ko 13.9 t (7.2) h 18.1	口端部は丸い。 胴部下位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	㉔㉕ 淡暗橙褐色	残 60% 焼 普 砂粒 ㊥ 片、石、雲、 Fe ㉔
2 6	甕	ko (14.8) t 8.2	口端部は丸い。 口縁部は外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はヘラケズリ、下位はナ	㉔ 淡橙褐色	残 90% 焼 普

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
		h 14.5	胴部中位に最大径をもつ。 外面黒斑あり。 内面スス付着。 内面胴部下端に粘土貼付による補修の痕跡あり。	デ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は横位のナデのち縦位のナデ。	④ 淡黄褐色	石片、雲、黒粒 ④ ⑤
27	甕	ko 13.2 t 6.2 h 15.2	口端部はやや尖り気味である。 口縁部は直線的に外反する。 胴部中位やや上に最大径をもつ。 口縁部に焼成前と思われるひび割れあり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、頸部から胴部上端は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナナメナデのちナデ、底部はナデ。	④ 暗橙褐色 褐色 ④ 暗褐色	残焼片、石、Fe、白粒、チャ角 90% 普 ④ ⑤
28	甕	ko 12.6 t 5.4 h 13.0	口端部は丸い。 口縁部はわずかに外反する。 胴部中位やや上に最大径をもつ。 器外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部から胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	④ 橙褐色 淡褐色 ④ 橙褐色	残焼片、石、雲、白粒、Fe 90% 良 ④ ⑤
29	壺	ko 3.3 t 6.7 h 13.4	口端部外側は面状をなし、一部に木口状工具による刻目が施されている。 底部は丸底。	外側は口端部は木口状工具によるヨコナデのち一部に木口状工具による刻目が施されている。口縁部から胴部上位は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は指頭によるナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	④⑤ 暗橙褐色	残焼砂粒、Fe片、石、雲 90% 普 ④ ⑤
30	埴	ko 11.2 h 14.4	口端部はやや丸みをおびる。 口縁部は直線的に開く。 胴部は扁平であり丸底。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部上位は木口状工具によるヨコナデ、口縁部中位から頸部は縦位のヘラナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部は木口状工具によるナデのち軽いナデ。	④⑤ 暗橙褐色	残焼片、石、砂粒、角、Fe 90% 良 ④ ⑤
31	壺	ko 9.6 t 6.8 h 11.9	口端部はやや丸みをおびる。 口縁部は直立気味に立ち上がる。 胴部上位に最大径をもつ。 丸底。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリのちナデか。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部上半は木口状工具によるヨコナデ、口縁部下半はヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	④⑤ 淡橙褐色	残焼砂粒、Fe 80% 普 ④

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
32	土師器 横瓶	ko 4.7 h 11.8 w 11.7 w' 10.3	体部は輪積により成形し、最終的に締り込んで閉塞している。 体部成形後、口頸部接合。	外側は口頸部はヨコナデ、体部はヘラケズリ、体側端部はヘラケズリのちなデ。 内側は口頸部はヨコナデ、体部は工具によるナデ。	㊸ 暗褐色 明橙褐色 ㊹ 暗褐色	残 完 焼 良 片、石、砂粒 雲、角、Fe ㊺
33	甕	ko (24.9) t 7.0 h 27.6	口端部は外側に面をもち凹線が巡る。 体部中位やや下に最大径をもつ。 凹底状を呈する。	外側は口端部はヨコナデのち工具による凹線を巡らす。口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部上端はヨコナデ、体部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	㊸ 明橙褐色 暗橙褐色 ㊹ 淡橙褐色	残 80% 焼 良 片、石、砂粒、 雲 ㊻ 角 ㊼
34	甕	ko 24.6 t 8.7 h 27.8	口端部は丸く外側に肥厚する。 体部中位やや下に最大径をもつ。 凹底状を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部は木口状工具による斜位のナデのち丁寧なナデ。	㊸ 明橙褐色 橙褐色 暗褐色 ㊹ 暗橙褐色 暗褐色	残 90% 焼 良 片、石、砂粒、 雲 ㊻ 角 ㊼
35	鉢	ko (17.9) t (8.8) h 14.5	口端部は丸い。 体部上位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部上半はやや斜位の板ナデ、体部下半はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から体部上位は木口状工具によるヨコナデ、体部中位は木口状工具による斜位のナデのちなデ、体部下位は木口状工具による横位のナデのちなデ、底部はナデ。	㊸ 褐色 橙褐色 ㊹ 褐色	残 60% 焼 普 片、石 ㊻ 角、Fe ㊼
36	甕	ko 18.0 t 6.7 h 15.0	口端部はやや尖り気味である。 口唇部は内傾し立ち上がる。 体部中位に最大径をもつ。 底部はやや丸底気味である。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部は木口状工具による斜位のナデのちなデ。	㊸ 橙褐色 淡褐色 ㊹ 淡褐色	残 60% 焼 普 片、石、砂粒、 雲 ㊻ Fe ㊼
37	鉢	ko 15.3 t 6.5 h 12.8	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内傾する。 丸底状を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、頸部はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具によるナデのちなデ、底部はナデ。	㊸㊹ 淡褐色	残 80% 焼 普 片、石、砂粒 角、Fe ㊼

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
38	甕	ko 13.2 t 6.9 h 13.0	口唇部は外側にやや肥厚する。 口縁部はわずかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、底部はナデ。	㊶ 橙褐色 淡褐色 ㊷ 淡暗褐色	残 90% 焼 普 片、石 ㊸ 雲 ㊹ 角、チャ ㊺
39	甕	ko 14.4 t 7.2 h 14.6	口端部は外側にわずかに肥厚する。 外側頸部に指頭の痕跡を残す。 胴部上位に最大径をもつ。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのち指頭によるナデ、胴部から底部にかけてヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部にかけて工具によるナデ。	㊶㊷ 暗橙褐色	残 90% 焼 良 雲、白粒 ㊹ 石、角、Mn ㊺
40	甕	ko 11.9 t 5.3 h 11.0	口端部は丸い。 口縁部中位で外反する。 胴部上位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による横位のナデのちナデ、底部はナデ。	㊶ 暗橙褐色 ㊷ 暗褐色	残 70% 焼 普 片、石、雲 ㊸ 角、Fe ㊹
41	甕	ko 11.6 t 5.6 h 9.6	口端部上部は一部に平坦な形状を呈する箇所があり乾燥時に逆さに置いた痕跡を示すと思われる。 胴部中位やや上に最大径をもつ。 底部に焼成前あるいは焼成時に生じたと思われる亀裂がありまた補修の痕跡も観察されないため液体の貯蔵は不適切である。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部上位は木口状工具によるヨコナデ、ナナメナデ、胴部下位から底部にかけては工具によるナデ。	㊶ 橙褐色 ㊷ 黒色	残 完 焼 良 片、石、雲、 Mn、角 ㊺
42	甕	ko 12.1 t - h <8.3>	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊶㊷ 淡暗橙褐色	残 40% 焼 普 片、石、砂粒 ㊸ 角 ㊹
43	甕	ko 17.0 t 7.7 h 13.7	器形の歪みが著しい。 器外面及び器内面口縁部の剥落顕著。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ、胴部下位はヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるナナメナデのちナデ、底部はヘラケズリ。	㊶ 淡橙褐色 ㊷ 淡褐色	残 90% 焼 普 片、石、砂粒、 チャ ㊸

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
						雲、Fe、Mn ㉔
44	鉢	ko (16.3) t - h <11.0	口端部の一部は半乾燥時に逆に置かれたものと思われ、面状をなす。 底部欠損。 (甌の可能性もあり)	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から体部上半は木口状工具によるヨコナデ、体部上半下半は木口状工具による横位のナデのちナデ、体部中位は木口状工具による縦位のナデのちナデ、体部下位は木口状工具による斜位のナデのちナデ。	㉔ 淡橙褐色 ㉕ 暗橙褐色	残 60% 焼 普 片、石、雲、 Fe ㊥ チャ ㉔
45	甕	ko 12.5 t 4.9 h 12.0	口端部は丸い。 口縁部は直線的に開く。 器形がやや歪む。 底部はやや丸味をもち不安定。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㉔ 淡橙褐色 淡褐色 ㉕ 淡褐色	残 90% 焼 良 片、石、砂粒 ㊥ 雲、白粒、Fe、 Mn ㉔
46	鉢	ko 14.0 t (8.1) h 7.0	口端部は丸い。 小形甕型土器製作途中のものの上端部を口縁部に仕上げたものか。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具による斜位のナデのちナデ。	㉔㉕ 淡暗褐色	残 80% 焼 普 片、石 ㊥
47	甕	ko 19.1 t 6.9 h 30.0	口唇部は大きく外反する。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	㉔ 暗褐色 暗橙褐色 ㉕ 暗褐色	残 70% 焼 良 片、石、Fe ㊥ 雲、砂粒 ㉔
48	甕	ko 17.7 t 8.2 h 31.7	口端部は丸い。 口縁部は直線的に開く。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデか、胴部下半はヘラケズリ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	㉔㉕ 暗橙褐色	残 90% 焼 良 砂粒 ㊥ 片、石、Fe ㉔
49	甕	ko 19.3 t 5.4 h 34.8	口端部はやや尖り気味である。 器形の歪みが著しい。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。	㉔ 橙褐色 淡褐色	残 50% 焼 良 片、石、砂粒

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
				内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦ 淡暗褐色	㊤ Fe ㊩
50	甕	ko 18.9 t 7.2 h 34.3	口端部外側は面状をなす。胴部中位に最大径をもつ。凹底状を呈する。	外側は口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位から中位はヘラケズリ、胴部下位はヘラケズリのちナデ、底部はナデ。 内側は口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	㊦ 淡褐色 暗褐色 ㊦ 暗橙褐色 暗褐色	残 80% 焼 普 片、石、砂粒 角、チャ ㊤ ㊩
51	甕	ko 17.4 t 6.6 h 35.6	口端部は外側に面をもつ。胴部中位に最大径をもつ。胴部下位の器外面は荒れている。	外側は口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	㊦ 淡褐色 暗褐色 ㊦ 暗褐色	残 95% 焼 普 片、石、砂粒 Fe、チャ ㊤ ㊩
52	甕	ko 17.0 t 5.9 h 32.0	口縁部外側は面状をなし、わずかに下方へ肥厚する。胴部中位やや下に最大径をもつ。器外面の器表面は荒れている。	外側は口端部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	㊦ 暗橙褐色 ㊦ 暗褐色	残 80% 焼 普 片、石、砂粒 Fe、チャ ㊤ ㊩
53	甕	ko 18.0 t 4.8 h 33.6	口端部は丸い。口縁部は大きく外反する。胴部下位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部は木口状工具による横位のナデのちナデ、胴部は木口状工具によるナデのち軽いナデ、底部はナデ。	㊦ 暗褐色 暗橙褐色 ㊦ 淡褐色	残 70% 焼 良 片、石、砂粒 雲、Fe ㊤ ㊩
54	甕	ko 16.1 t — h <29.2)	口端部は丸くわずかに外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部は木口状工具による横位のナデ、胴部上半は木口状工具による縦位のナデのちナデ、胴部下半は木口状工具による横位のナデのちナデ。	㊦ 淡橙褐色 暗橙褐色 ㊦ 橙褐色 暗褐色	残 70% 焼 良 片、石、砂粒 Fe ㊤ ㊩
55	甕	ko 18.3 t —	器形の歪みが著しい。口端部は丸い。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	㊦㊦ 暗橙褐色	残 60% 焼 普

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
		h 28.2	口縁部は大きく外反する。 胴部下半器表面の剥落顕著。	内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は木口状工具による横位のナデのちナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。		片、石、砂粒 ④ 雲、角 ⑤
56	甕	ko 17.2 t - h <30.6>	口端部は丸い。 口唇部は大きく外反する。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は木口状工具による横位のナデのち軽いナデ、胴部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	④ 暗褐色 淡暗褐色 ⑤ 淡暗橙褐色	残 30% 焼 普 片、石、砂粒、Fe ④ 雲、角 ⑤
57	甕	ko 19.0 t - h <32.7>	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 胴部下半器表面の剥落顕著。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	④⑤ 淡暗橙褐色	残 80% 焼 良 片、石、砂粒 ④ 雲、Fe ⑤ 角 ⑥
58	甕	ko 19.1 t - h <23.8>	口端部は丸い。 頸部は直線的に立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部から胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	④ 淡灰褐色 暗橙褐色 ⑤ 淡暗褐色 暗橙褐色	残 40% 焼 普 片、中 ④ 砂粒、雲 ⑤
59	甕	ko 16.9 t - h <28.7>	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は木口状工具による縦位のナデのちナデ、胴部下位は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	④⑤ 淡暗橙褐色	残 60% 焼 普 片、石、砂粒 ④ 雲、Fe ⑤
60	甕	ko 16.2 t - h <22.1>	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのち軽いナデ。	④⑤ 淡褐色	残 20% 焼 普 片、石、砂粒 ④ 雲、Fe ⑤
61	甕	ko 18.0 t -	口端部は丸い。 胴部は円筒状を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	④⑤ 暗橙褐色	残 60% 焼 普

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
		h <26.9>		内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。		片、石、砂粒 ⑧ 雲、Fe ⑨
6 2	甕	ko 17.7 t - h <36.1>	口端部は丸い。 口唇部は大きく外反する。 口縁部は直立気味に開く。 胴部下位は被熱による剥落がやや顕著である。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は端面のやや荒い木口状工具によるナデのちナデ。	⑧ 淡橙褐色 ⑨ 暗橙褐色 ⑩ 橙褐色	残 40% 焼 普 片、石、砂粒 ⑨ Fe ⑩
6 3	甕	ko 17.3 t - h <26.4>	器形やや歪む。 口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	⑧⑨ 暗橙褐色	残 40% 焼 普 片、石、砂粒 ⑨ 角、Fe ⑩
6 4	甕	ko (16.0) t - h <26.2>	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	⑧⑨ 淡暗橙褐色	残 30% 焼 普 砂粒、Fe ⑨ 片、石、雲、 角 ⑩
6 5	甕	ko (16.4) t - h <17.8>	口縁部は丸い。 口縁部は外反する。 胴部上位器外面に黒斑あり。	外側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口縁部は工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口縁部は工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデ。	⑧⑨ 橙褐色	残 30% 焼 良 雲 ⑧ 片、石、Fe、 Mn ⑩
6 6	甕	ko (14.0) t - h <25.8>	器形やや歪む。 口端部は外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのち軽いナデ。	⑧ 淡暗褐色 淡暗橙褐色 ⑨ 淡暗橙褐色	残 40% 焼 良 片、石、砂粒 ⑨ 雲、角、Fe ⑩
6 7	甕	ko 13.1 t - h <20.8>	口端部は丸い。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのちナデ。	⑧⑨ 暗橙褐色	残 50% 焼 普 片、石、砂粒 ⑨ Fe、Mn ⑩

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
68	甕	ko 16.3 t — h <17.2>	器形やや歪む。 口端部は丸い。 肩部がやや張る。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、肩部から胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、肩部から胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊸ 暗橙褐色 ㊹ 暗褐色 暗橙褐色	残 30% 焼 普 片、石、砂粒 ⊕ 雲、Fe ⊖
69	甕	ko 16.1 t 6.1 h 22.4	口端部は丸い。 口唇部は大きく外反する。 胴部器外面中位から下位にかけての部分にミガキが施されている。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、一部ミガキ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 暗橙褐色	残 80% 焼 良 砂粒 ⊕ 片、石、Fe ⊖
70	甕	ko (12.9) t 6.0 h 15.2	口端部は丸くわずかに外側に肥厚する。 口縁部は直線的に開く。 胴部下位に最大径をもつ。 胴部外面に黒斑あり。 器内面胴部下位から底部に暗褐色のヨゴレ付着。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 淡褐色 淡橙褐色	残 60% 焼 普 片、石、Fe ⊕ 角 ⊖
71	甕	ko 22.8 t 7.9 h 30.2	口端部は直立気味に立ち上がりやや尖る。 口唇部外側は面状をなし凹線が巡る。	外側は口唇部はヨコナデのち凹線を巡らしている。 口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部から体部上位は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、体部下位は木口状工具による縦位のナデのちナデ、下端部はヘラケズリ。	㊸㊹ 橙褐色 淡暗褐色	残 90% 焼 普 片、石、砂粒 ⊕ Fe、雲、角 ⊖ チャ ⊖
72	甕	ko (25.2) t — h 31.7	口端部は外側に面をなしわずかに肥厚する。 口縁部は外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は横位のケズリのものちナデ。	㊸㊹ 橙褐色	残 70% 焼 良 雲 ⊕ Fe、Mn ⊕ 石 ⊖
73	甕	ko — t 8.9 h 29.9	体部上位に最大径をもつ。	外側は頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ、下端部はヘラケズリ。 内側は頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ、下端部はヘラケズリ。	㊸ 淡暗橙褐色 淡暗褐色 ㊹ 暗褐色 淡暗褐色	残 70% 焼 良 片、石、砂粒 ⊕ Fe ⊖

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
74	甌	ko 22.1 t 8.4 h 29.1	口端部は丸く外側に肥厚する。肩部がわずかに張る。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、肩部から胴部はヘラケズリ、下端部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、肩部から胴部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデのちタテミガキ、下端部はヘラケズリ。	㊦㊧ 淡暗橙褐色	残 90% 焼 普 片、石、砂粒 雲 ㊤ 貯蔵穴内出土 ㊨
75	甌	ko (21.3) t 8.9 h 26.6	器形の歪みが著しい。口端部は丸い。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部及び下端部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部上位は木口状工具による横位のナデのち丁寧なナデ、体部は木口状工具による縦位のナデのち丁寧なナデ、体部下位は木口状工具による斜位のナデのち丁寧なナデ、下端部はヘラケズリ。	㊦㊧ 暗橙褐色 淡褐色	残 60% 焼 良 片、石、砂粒 Fe、Mn、雲、角 ㊤ ㊨
76	甌	ko (19.1) t (7.4) h 16.2	口端部は丸い。口唇部は大きく外反する。体部下半は丸みをもつ。体部内側下部に指頭圧痕あり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部上位は横位のナデのち斜位のナデ、下位はナデ、下端部は一部ヘラケズリ。	㊦ 橙褐色 ㊧ 暗赤褐色	残 60% 焼 良 片、石 ㊤ Fe ㊨ 角、チャ ㊩
77	甌	ko (15.2) t 5.4 h 13.3	口端部は丸い。口縁部は直線的に開く。器内面口縁部下位から体部中位の剥落顕著。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、体部下位はヘラケズリ。	㊦㊧ 暗橙褐色 褐色	残 70% 焼 良 片、石、チャ ㊤ Fe、Mn、角、雲 ㊨
78	甌	ko 17.4 t 4.1 h 14.8	口端部は丸い。口唇部はわずかに内傾し、内側が窪む。口縁部はゆるやかに外反する。胴部下位はわずかに張る。胴部下位器内面にヨグレ付着。下端部は指頭による押捺ナデによりやや下方へ突出する。胴部器外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、下端部は指頭による押捺ナデ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は木口状工具によるナメナデのち丁寧なナデ、胴部下半は丁寧なナデ、下端部は指頭による押捺ナデ。	㊦ 橙褐色 淡褐色 ㊧ 橙褐色	残 95% 焼 良 白粒、砂粒、雲 ㊤ Fe、片、石、チャ ㊨
79	甌	ko 15.8 t 2.7 h 14.7	口端部は丸い。口縁部はゆるやかに外反する。胴部中位がやや張る。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、底部はヘラケズリのち丁寧なナデ。	㊦㊧ 淡橙褐色	残 完 焼 良 片、石、白粒

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
			単孔。	内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリのち丁寧なナデ。		⊕ Fe、角 Mn ⊙
80	甌	ko <15.9> t 4.0 h <11.2>	口唇部は大きく外反する。器内面体部にヨゴレ付着。	外側は口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具による斜位のナデのちナデ、底部はナデ、下端部はヘラケズリ。	ⒶⒸ 暗橙褐色	残 80% 焼 普 片、石 ⊕ 角、Mn ⊙
81	高坏	ko — t 15.9 h <16.3>	脚体部は比較的直線的に開く。脚裾部は大きく直線的に開く。	外側は脚体部はハケとケズリの併用。脚裾部は木口状工具によるヨコナデ。 内側は脚体部は横位のヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	Ⓐ 橙褐色 Ⓒ 暗褐色	残 60% 焼 良 雲 ⊕ Fe、白粒 ⊙ 白針 ⊙
82	高坏	ko (17.7) t (15.2) h (15.7)	口端部は外側に肥厚する。口辺部は大きく外反する。脚体部は大きく直線的に開く。脚裾部下端は丸い。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はヘラケズリ、脚体部はヘラナデのちナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデか、底部はナデ、脚体部はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	ⒶⒸ 淡暗橙褐色	残 70% 焼 良 片、石、Fe、 雲 ⊕ Mn ⊙ 角 ⊙
83	高坏	ko (16.2) t 10.3 h 13.0	口唇部は内斜し立ち上がる。口縁部は直線的に開く。脚体部はわずかに張りをもつて開く。脚裾部は大きく開く。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はヘラケズリ、脚体部上半はヘラケズリ、脚体部下半は木口状工具によるヨコナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から坏底部上位は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はナデ、脚体部上半はナデ、脚体部下半はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	ⒶⒸ 暗橙褐色	残 70% 焼 普 砂粒 ⊕ 片、石、Fe、 Mn ⊙
84	高坏	ko (15.1) t 10.7 h 10.5	口端部は肥厚する。口辺部は直線的に開く。脚体部はわずかに張りをもつ。脚裾部下端は反り上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ、脚体部は工具によるナデのちナデ、脚裾部上位は工具によるヨコナデのちナデ、脚裾部下位は指頭によるヨコナデ。 内側は口辺部は工具によるヨコナデ、底部はナデ、脚体部上位は指頭によるナデ、脚体部中～下位はヘラケズリのちナデ、脚裾部は工具によるヨコナデのちナデ。	Ⓐ 暗橙褐色 Ⓒ 暗褐色	残 80% 焼 良 片、雲 ⊙ Mn、石 ⊕ 角、Fe ⊙

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
85	高坏	ko 16.5 t — h <9.9	口端部は内斜し立ち上がる。 口唇部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はヘラケズリ、脚体部はヘラナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はナデ、脚体部上位はナデ、脚体部中位はヘラケズリ。	㊤㊦ 淡暗橙褐色	残 60% 焼 普 砂粒、片、石、 Fe、Mn、雲 ㊧
86	高坏	ko (16.8) t — h <10.2	口端部は丸い。 口唇部は大きく外反する。 脚体部は大きく開く。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はヘラケズリ、脚体部はヘラナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ、脚体部上位はナデ、脚体部中位はヘラケズリ。	㊤㊦ 淡暗橙褐色	残 30% 焼 普 片、石、砂粒 ㊧ Mn、雲 ㊧
87	高坏	ko 13.4 t 9.0 h 11.3	口端部はやや尖る。 口縁部はゆるやかに外反し、 底部はわずかに内湾する。 脚体部は直線的に開き、脚裾部下端はわずかに肥厚する。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口縁部は工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ、脚体部は工具によるナデのちナデ、脚裾部は工具によるヨコナデ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口縁部は工具によるヨコナデ、底部はナデ、脚体部上位はナデ、脚下位～裾部は工具によるヨコナデのちナデ。	㊤㊦ 暗橙褐色	残 70% 焼 良 片 ㊧ Mn ㊧ 雲、Fe ㊧ 石 ㊧
88	高坏	ko (13.5) t 9.1 h 8.6	口唇部は大きく外反する。 脚体部は大きく開く。 脚裾部下端は凹線が巡る。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はヘラケズリ、脚部はヨコナデ、脚下端部は工具をあて凹線を巡らしている。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はナデ、脚体部上位はナデ、脚体部から脚裾部はヨコナデ。	㊤㊦ 淡橙褐色	残 70% 焼 普 片、石、Fe、 微砂粒、雲 ㊧
89	高坏	ko (12.8) t (8.8) h 9.6	口端部はやや尖る。 器形の歪みが著しい。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はヘラケズリ、脚部はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はナデ、脚体部はナデ、脚裾部はヨコナデ。	㊤㊦ 淡橙褐色	残 60% 焼 普 微砂粒、Fe ㊧ 片、石 ㊧
90	高坏	ko 12.9 t 8.5 h 7.8	口端部は丸く、口唇部は大きく外反する。 脚裾部は大きく開く。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部から脚体部はヘラケズリのちナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位はヨコナデ、底部はナデ、脚裾部上位はナデ、脚裾部中位から下端はヨコナデ。	㊤㊦ 橙褐色	残 50% 焼 普 片 ㊧ 石、雲 ㊧ チャ ㊧ Fe、角 ㊧

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
9 1	高 坏	ko (13.1) t 8.2 h 8.4	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はヘラケズリ、脚体部はヘラナデのちナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデか、坏底部はナデ、脚部上位はナデ、脚裾部はヨコナデ。	㊦㊧ 淡暗橙褐色	残 60% 焼 普 片、微砂粒、 雲、Fe ㊩
9 2	高 坏	ko 11.2 t 7.0 h 8.0	口端部は丸い。 口縁部は外反する。 底部は丸みをもつ。 脚体部は外反し、脚裾部下端はわずかに反り上がる。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口縁部は工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ、脚体部は工具によるナデのちナデ、脚裾部は工具によるヨコナデ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口縁部は工具によるヨコナデ、底部はナデ、脚体部上位はヘラケズリのちナデ、脚体部中位から脚裾部は工具によるヨコナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 60% 焼 良 片 ㊭ 雲、石 ㊰ チャ、Mn ㊱ Fe、角 ㊲
9 3	高 坏	ko — t <9.8> h <7.8>	脚体部下位に外側からの穿孔あり。	外側は脚体部はヘラケズリのちヘラナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は脚体部はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 30% 焼 良 片、石、砂粒 ㊱
9 4	坏	ko 12.0 h 5.7	口端部は丸い。 口辺部はやや直線的に外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦㊧ 淡褐色	残 60% 焼 普 Fe ㊰ 白粒、片、雲 ㊲
9 5	坏	ko (12.9) h <3.5>	口端部は内側に面をもち凹線が巡る。 口辺部は直立気味に立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデか、底部はヘラケズリ。 内側は口端部は木口状工具によるヨコナデのち工具により凹線を巡らす。口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデか。	㊦ 淡暗橙褐色 ㊧ 淡暗橙褐色 淡褐色	残 20% 焼 良 微砂粒、片、 雲、石 ㊱
9 6	坏	ko 12.8 h 5.2	口端部はやや外反気味に開く。 体部から底部側面に黒斑あり。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部から底部にかけてヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部から底部にかけてナデ。	㊦㊧ 橙褐色	残 90% 焼 良 雲 ㊰ 白粒、片 ㊱ 角 ㊲
9 7	坏	ko (13.5)	口端部は内側に面をもち凹線	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具に	㊦㊧	残 50%

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
		h <5.0>	が巡る。 口唇部は内傾する。	よるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部は木口状工具によるヨコナデのち工具により凹線を巡らす。口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	淡暗橙褐色	焼 良 微砂粒、片、 Fe、雲、石 ㊟
98	坏	ko 12.5 h 4.6	口端部は外側に肥厚する。 口辺部は直線的に開く。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊟ 淡褐色 ㊤ 明橙褐色	残 80% 焼 普 Fe、白粒 ㊤ 片、石、角 ㊟
99	坏	ko 12.7 h 5.2	口端部は面状をなし、内側にわずかに肥厚する。 口唇部はやや内傾する。 口辺部と底部の境目は面をなす。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、口辺部と底部の境目は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊟ 橙褐色 ㊤ 暗橙褐色	残 完 焼 良 砂粒、白粒、 雲 ㊟ 片、角 ㊟
100	坏	ko 13.1 h 5.2	口端部は丸い。 口辺部は直線的に開く。 器表面の剥落が著しい。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊟㊤ 橙褐色	残 80% 焼 普 白粒、砂粒、 雲 ㊟ 片、石、角 ㊟
101	坏	ko 13.0 h 4.5	口端部は凹線を巡らし、外側にやや肥厚する。	外側は口端部はヨコナデのち凹線を巡らしている。 口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部から底部下位は木口状工具によるヨコナデ、底中央部はナデ。	㊟㊤ 暗橙褐色	残 80% 焼 良 片、石、Fe ㊤ 角、Mn、 ㊟
102	坏	ko 13.4 h 4.8	口端部は外側に尖り、内側に面をなす。 口唇部はわずかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊟ 橙褐色 淡褐色 ㊤ 橙褐色	残 90% 焼 良 片、石、白粒、 砂粒、Fe ㊟ 角 ㊟
103	坏	ko 13.0 h 4.9	口端部は内側に面をなす。 口唇部はわずかに内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊟ 橙褐色 淡褐色 ㊤ 橙褐色	残 80% 焼 良 白粒 ㊤ Fe、片、雲 ㊟ 角 ㊟

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
104	坏	ko 12.6 h 5.3	口端部は内側に面をもち尖る。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部中位から底央部はナデ。	㊦㊧ 淡暗橙褐色	残 60% 焼 良 片、石、Fe ㊤ 雲 ㊦ 角 ㊨
105	坏	ko 13.4 h 5.0	口端部は内側に面をもち凹線状に窪む。 口唇部はやや内湾する。 器表面の剥落が著しい。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部は木口状工具によるヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 橙褐色	残 90% 焼 悪 Fe、雲、白粒 ㊤
106	坏	ko 12.2 h 4.9	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部上半は木口状工具によるヨコナデ、体部下半から底部はナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 完 焼 普 白粒、砂粒 ㊤ 片、石、角 ㊨
107	坏	ko 13.0 h 5.1	口端部はやや外側に肥厚する。 口辺部中位やや上でわずかに屈曲する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 完 焼 良 白粒、砂粒、雲 ㊦ 片、Fe、角 ㊨
108	坏	ko (13.2) h (4.6)	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内湾する。 口辺部はやや外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 淡橙褐色	残 50% 焼 良 片、石 ㊦ 雲、角 ㊨
109	坏	ko (13.0) h 4.2	口端部は丸い。 器表面の剥落顕著。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部中位から底央部はナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 60% 焼 普 片、石、Fe ㊦ 角、雲、Mn ㊨
110	坏	ko 13.8 h 5.0	口端部は丸い。 口辺部は直線的に外反する。 口辺部下位には二条の凹線が巡る。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 淡褐色	残 70% 焼 普 白粒、砂粒、雲 ㊤ 片、Fe ㊦ 角 ㊨

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
111	坏	ko 13.9 h 4.4	口端部はやや尖り気味である。 口唇部はわずかに内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦㊧ 淡橙褐色	残 60% 焼 良 片、石、白粒 ⊕ Fe、雲 ⊙
112	坏	ko 14.2 h <3.7>	口端部は丸い。 口辺部はやや直線的に外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部中位から下位はナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 70% 焼 普 砂粒、雲 ⊙ 角 ⊕
113	坏	ko 13.5 h <5.2>	口端部は丸く、外側に肥厚する。 口辺部中位がわずかに張り出す。 器厚がやや厚い。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 40% 焼 普 片、石 ⊕ 雲、Fe ⊙ 角 ⊕
114	坏	ko 13.2 h 5.8	口端部は丸い。 口唇部はやや内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 80% 焼 良 片、石、白粒 ⊕ 角、Fe、雲 ⊙
115	坏	ko (14.8) h <5.5>	口端部は内側に面をもち凹線が巡る。 口辺部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部は木口状工具によるヨコナデのち工具により凹線を巡らしている。口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 淡暗橙褐色	残 40% 焼 良 微砂粒、片、 Fe、雲、石 ⊙
116	坏	ko 16.7 h 6.5	口端部は面をなし、凹線状に窪む。 口唇部はやや内湾する。 底部器外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデのち工具による凹線を施す。口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 橙褐色	残 90% 焼 良 白粒、砂粒、 Fe ⊕ 片、石、雲 ⊙
117	坏	ko 13.2 h 4.3	口端部は丸い。 口辺部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 完 焼 良 片、砂粒、 雲、白粒 ⊕ Fe、角 ⊙

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
118	坏	ko 14.6 h 4.6	口端部は凹線状に窪む。 口唇部は外側に肥厚する。	外側は口端部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦ 橙褐色 淡褐色 ㊧ 淡橙褐色	残 70% 焼 良 片、砂粒 ㊨ Mn ㊩
119	坏	ko (16.3) h <4.9	口端部は外側に面をもつ。 口辺部はゆるやかに外反する。	外側は口端部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 淡暗橙褐色	残 30% 焼 良 微砂粒、片、 Fe、石 ㊨
120	坏	ko (17.9) h 4.6	口端部はやや尖り、口唇部は内傾する。 器外面底部にはやや荒いミガキが施されている。 器外面口辺部及び器内面には赤彩が施されている。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリのちやや荒いミガキ。 内側は口辺部はヨコナデ、口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 橙褐色	残 40% 焼 良 片、石、チャ、 微砂粒、Fe ㊨
121	坏	ko 18.5 h 5.9	口端部はやや尖り気味である。 口唇部はわずかに内傾し、器外面は工具のアタリにより凹線状の窪みが巡る。 体部から底部はヘラケズリの後ヘラナデに近い簡単なミガキを施している。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリのちヘラナデに近い簡単なミガキ。 内側は口辺部から体部上半は木口状工具によるヨコナデ、体部下半から底部はナデ。	㊦ 淡褐色 暗橙褐色 ㊧ 暗橙褐色	残 70% 焼 良 Fe、白粒、 砂粒 ㊨ 片、Mn、角、 雲 ㊩
122	坏	ko 14.4 h 5.4	口端部は外側に肥厚する。 口辺部は大きく外反する。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 80% 焼 良 白粒、雲 ㊨ 片、Fe、チャ ㊩
123	坏	ko 15.0 h 6.0	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口辺部は緩やかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦ 橙褐色 淡橙褐色 ㊧ 淡橙褐色	残 70% 焼 良 Fe ㊨ 白粒、片、雲 ㊩ Mn ㊩
124	埴	ko (13.6) h 6.4	口端部は丸く、わずかに外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。	㊦㊧ 淡暗橙褐色	残 60% 焼 普

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
			口唇部は外反する。	内側は口端部はヨコナデ、口縁部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。		片、石、Fe、 雲 ㊤ 角 ㊦
125	坏	ko (13.3) h 4.4	器形の歪みが著しい。 口端部は丸い。 木口状工具の止めあと顕著。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊤ 淡橙褐色 橙褐色 ㊦ 橙褐色	残 60% 焼 良 片、石、雲 ㊤ Fe ㊤ 角 ㊦
126	坏	ko (13.6) h 4.7	口端部は外側に面をもち凹線状に窪む。	外側は口端部は工具によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部は工具によるナデのちナデ。	㊤㊦ 橙褐色	残 70% 焼 良 微砂粒、Fe ㊤ 角、雲 ㊤
127	坏	ko 13.1 h 4.9	口端部は外側にやや肥厚する。 口辺部は中位からやや屈曲気味に外反する。 器外・内面の一部に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊤ 淡橙褐色 淡褐色 ㊦ 橙褐色 暗褐色	残 完 焼 良 砂粒、白粒、 雲 ㊤ 片、Fe、角 ㊦
128	坏	ko 13.0 h 4.5	口端部は外側にやや肥厚し、 内側に面をもつ。 口辺部は外反気味に立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は工具によるナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部は工具によるヨコナデ、口辺部から体部は工具によるヨコナデ、底部は工具によるナデ。	㊤㊦ 橙褐色	残 完 焼 良 片、Fe ㊤ 石、Mn、白粒 ㊤ 雲、角、白針 ㊦
129	坏	ko 12.3 h 5.0	口端部はやや丸く、外側にわずかに肥厚する。 内側口辺部から底部の境目に木口状工具による稜線を有する。	外側は口端部は指頭によるナデ、口辺部は木口状工具によるナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口唇部は指頭によるナデ、口辺部は木口状工具によるナデ、体部から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊤㊦ 橙褐色	残 80% 焼 良 Mn ㊤ 石、雲 ㊤ 角 ㊦
130	坏	ko 12.0 h 4.6	口端部はやや丸く、やや外反気味に開く。 体部から底部にかけての調整痕は荒い。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部にかけてヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部から	㊤㊦ 淡橙褐色	残 完 焼 普 雲 ㊤ Mn、石、角、

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
			器形は全体的に歪みが激しい。	体部にかけて木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。		白粒 ㊦
131	坏	ko 12.1 h 5.0	口端部は外側に肥厚する。 口辺部はやや直立気味に立ち上がり口唇部でゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、口辺部下位から体部上端はヨコナデ、体部上位から中位は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦ 橙褐色 褐色 ㊧ 橙褐色	残 70% 焼 良 砂粒、白粒 ㊩ 片、Mn、角 ㊦
132	坏	ko 12.2 h 5.6	口端部は丸いが一部外側に肥厚する部分あり。 口辺部はわずかに外側に開きながら立ち上がり口唇部でさらに大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口唇部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、口辺部中位から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデ。	㊦㊧ 淡橙褐色	残 80% 焼 良 砂粒、白粒、 雲 ㊨ 片、石 ㊩
133	坏	ko (10.9) h 5.5	口端部は丸い。 口唇部は内側にわずかに肥厚する。 口辺部はやや外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部中位まで木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊦㊧ 赤褐色	残 60% 焼 良 片、石、Fe ㊨ 角、雲 ㊦
134	坏	ko 10.8 h 4.8	口端部は丸い。 口辺部は緩やかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦ 淡褐色 褐色 ㊧ 黒色	残 完 焼 良 片、砂粒 ㊨ 雲、角 ㊩
135	坏	ko 9.5 h 4.0	口端部はやや尖り気味である。 口辺部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部は木口状工具によるヨコナデ。	㊦㊧ 淡茶褐色	残 95% 焼 良 Mn、白粒 ㊨ 片、石、角、 雲 ㊩ Fe ㊦
136	坏	ko 11.6 h 4.6	口端部は外側に肥厚し、内側に面をもつ。 器内面体部から底部に放射状暗文を施す。 器内外面黒色処理。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ、体部から底部は放射状暗文を施す。	㊦㊧ 黒褐色 暗橙褐色	残 95% 焼 良 片、白粒、雲 ㊨ チャ、石、角 ㊩

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
137	坏	ko 11.8 h <4.9>	口端部は内側に面をもち凹線が巡る。 口縁部は内傾する。 体部は内湾気味に立ち上がる。 底部器内面に簡単なミガキを施している。	外側は口端部は工具によるヨコナデ、底部上位は指頭によるヨコナデ、底部中位から下位はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデのち凹線を巡らす。口端部から底部上半は工具によるヨコナデ、底部下半はナデ、底部中位から下位に簡単なミガキを施す。	㊸㊹ 暗橙褐色	残 70% 焼 良 片、雲 ㊸ Mn ㊹ 角、Fe ㊺
138	坏	ko 11.7 h 4.4	口端部は丸い。 口唇部は内側に面をなし凹線状に窪む。 口辺部は内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口唇部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 橙褐色 暗褐色	残 50% 焼 良 白粒、砂粒 ㊹ 片、石 ㊺ 角 ㊻
139	坏	ko 13.0 h 3.7	口端部は丸い。 口辺部中位に段を有する。 器内外面黒色処理。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部は木口状工具によるヨコナデ。	㊸ 暗褐色 褐色 ㊹ 暗褐色 茶褐色	残 60% 焼 良 白粒、角、石、片 ㊺
140	坏	ko 13.9 h 4.7	口端部は丸い。 口唇部は外側にわずかに肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部上半は木口状工具によるヨコナデ、体部下半から底部はナデ。	㊸ 橙褐色 淡褐色 ㊹ 橙褐色	残 70% 焼 普 白粒、砂粒 ㊹ 片、Fe、雲 ㊺ 角 ㊻
141	坏	ko (15.6) h 4.1	口端部は丸い。 口辺部上位に段を有する。 器内外面黒色処理か。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 暗褐色	残 40% 焼 普 砂粒、雲 ㊺
142	坏	ko 15.9 h 4.5	口端部はやや尖り気味である。 口辺部中位は稜状をなす。 器外面底部には丁寧なミガキが施されている。 器内外面黒色処理。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリのち丁寧なミガキ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 黒褐色	残 60% 焼 普 片、石、Fe、微砂粒、雲 ㊺
143	坏	ko 16.0 h 4.5	口端部は丸い。 口辺部中位に段をもつ。 器内外面黒色処理。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリのち丁寧なミガキ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は	㊸㊹ 黒褐色 暗褐色	残 60% 焼 良 片、石、Fe ㊹ 角、雲 ㊺

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
				木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。		
144	坏	ko (16.6) h 3.5	口端部は内側に面をなし、凹線状に窪む。 口辺部は直線的に外反する。 口辺部中位やや上に段を有する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ、底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部は木口状工具によるヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊸㊹ 橙褐色	残 60% 焼 良 白粒、石 ㊸ チャ、Mn、角 ㊹
145	坏	ko (11.9) h 6.0	口端部は丸い。 口唇部は外反し、口辺部下半は内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部下位は木口状工具によるヨコナデ、底央部はナデ。	㊸㊹ 暗茶褐色	残 70% 焼 良 片、石、Fe、 角、Mn、雲 ㊹
146	埴	ko 11.7 h 5.2	口端部は丸い。 口辺部は内傾し、口唇部はやや直立気味に立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部上位は木口状工具によるヨコナデ、体部中位から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 橙褐色	残 80% 焼 良 砂粒、白粒、 雲 ㊹ 片、Mn ㊸
147	埴	ko (9.8) h 5.8	口端部は丸くわずかに外側に肥厚する。 最大径を体部上位やや上にもつ。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口縁部から体部上位やや上は木口状工具によるヨコナデ、体部上位やや下はナデ、体部中位から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部は指頭によるヨコナデ、体部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部中位から底部は木口状工具によるヨコナデ、ナデのちナデ。	㊸㊹ 暗橙褐色	残 40% 焼 普 片、石 ㊸ 角、雲、チャ ㊹
148	鉢	ko 9.3 h 5.0	口唇部はやや立ち上がる。 体部中位が張る。 丸底を呈する。	外側は口辺部はヨコナデ、体部上位はヨコナデのちナデ、体部中位から底部はヘラケズリ。 内側は口端部から体部はヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊸ 橙褐色 淡褐色 ㊹ 淡褐色	残 95% 焼 良 片、石 ㊸ 雲 ㊹ Fe、角 ㊸
149	鉢	ko 11.2 t 4.4 h 5.6	口端部は尖り気味である。 口辺部は直立気味に立ち上がる。 体部上位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部上半はヘラケズリ、体部下半から底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口辺部はヨコナデ、体部上位は木口状工具によるヨコナデ、体部中位から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊸ 明橙褐色 灰褐色 ㊹ 灰褐色	残 70% 焼 普 片、石、白粒、 砂粒 ㊸ 雲 ㊹

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
150	碗	ko 12.8 h 4.8	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内傾する。 器形の歪みが著しい。	外側は口辺部はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部はヨコナデ、体部は木口状工具によるナメナデ、底部はナデ。	⑨⑩ 暗橙褐色	残 90% 焼 良 片、石、Fe、 白粒 ②
151	鉢	ko 5.3 t 5.5 h 4.0	口端部は丸い。 口縁部は内傾する。 体部下位が張る。	外側は口縁部はヨコナデ、体部上半はナデ、体部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部から底部は指頭によるナデ。	⑨⑩ 淡褐色	残 95% 焼 良 片、石、白粒 雲 ④ ②
152	須恵器 蓋	kt <15.5> h 4.7	天井部は偏平気味である。 天井部と口縁部の境界の稜はにぶい。 下端部内側は面状をなす。 天井部内面には同心円文が残り、またその外側には粘土紐のまきあげ痕が一部観察される。	粘土ひもまきあげ、ロクロナデ。 天井部外面は逆時計まわりの回転ヘラケズリ。	⑨⑩ 暗青灰色	残 30% 焼 良 白粒 ②
153	甕	ko 21.4 t — h <18.5>	口端部は丸く、口唇部は直立気味に立ち上がる。 肩部が張る。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、肩部から胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、肩部上位は木口状工具による横位のナデのちナデ、肩部下位は木口状工具による斜位のナデのちナデ、胴部は木口状工具による横位のナデのちナデ。	⑨⑩ 橙褐色	残 60% 焼 良 砂粒 ④ 片、石、Fe ②
154	須恵器 高台付 坏	ko — kd 7.8 h <3.4>	高台部は「ハ」の字に開く。	外内ロクロ水挽成形。 底部回転糸切り後、高台部貼り付け。	⑨⑩ 暗灰褐色	残 40% 焼 普 片、石、砂粒 Mn ② ④
155	坏	ko 11.3 h 4.0	口端部は上方にわずかに尖る。 口辺部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	⑨ 淡褐色 ⑩ 淡橙褐色	残 80% 焼 良 片、石、白粒、 雲 ② 角、Fe ④

表一18 第35b号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分類	大きさ (cm)	残存率	特徴
156	鉄製鎌	長 (6.3) 幅 3.0 厚 0.8	30%	着柄部基部及び先端部欠損。 着柄部の折り返しは基部上端隅を折り返しているものと思われる。 全体に錆化が進み遺存状態は悪い。 カマド内出土。
157	石製白玉	径 0.7 厚 <0.6> 孔 0.1	完	滑石製。 淡緑白色を呈する。 側面中位はわずかに稜状をなす。
158	石製模造品	径 4.8 厚 0.8 孔 0.2	完	鏡形石製模造品。 滑石製。 淡緑色を呈する。 表裏面は端部にくらべ入念に研磨されているが、擦痕が顕著に認められる。 穿孔は双孔とも一方向から。
159	石製紡垂車	大径 4.0 厚 2.6 孔 0.6	完	滑石製。 暗青灰色を呈する。 大円端部は研磨により滑らかな面を呈する。 小円端部は研磨により平端に整えているが周円部はやや荒い研磨が残る。 側面は刃物状の工具により整えている。
160	有孔磨製石鎌	長 4.4 幅 <2.3> 厚 0.3 孔 0.1	完	珪質準片岩か。 青灰色と暗青灰色の縞状を呈する。 全体を研磨により整えている。 調整剥離痕は認められない。 先端部は尖く突出し、両側縁の刃部は鋭い。 袂り部はゆるやかな弧状を呈する。 穿孔は両方向より行われている。 弥生時代後期に帰属するものと思われるが該当する遺構は検出されていない。

表一19 第36号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko (18.2) t - h <9.7>	口端部は内側に面を持ち外側は肥厚する。 酸化焰焼成。	ロクロナデ調整。	㊸㊹ 暗橙褐色	残 10% 焼 不良 砂粒、片、石、 Fe ㊺

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
2	須恵器 甕	ko (21.0) t — h <4.7>	口端部は下方に突出し尖る。 口縁部はゆるやかに外反する。	外内ロクロナデ調整。	㊸ 灰白色 暗灰色 ㊹ 淡黄灰白色	残 5% 焼 良 片、Mn、石 ㊸

表-20 第37a号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko (22.6) t — h <10.7>	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	㊸㊹ 淡橙褐色	残 10% 焼 良 砂粒 ㊸ 片、石、Fe ㊹
2	坏	ko 11.2 h 3.8	口端部は丸い。 口辺部は内湾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 淡褐色	残 完 焼 良 片、石 ㊸ 角、雲 ㊹

表-21 第37b号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	鉢	ko 20.3 h <12.0>	口端部は鈍く丸い。 口縁部は大きく外反し、頸部は直立する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	㊸㊹ 赤橙褐色	残 70% 焼 良 片、石、砂粒 ㊸ 雲、角 ㊹
2	坏	ko (14.9) h <4.0>	口端部は内側に面をもち尖る。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 褐色	残 10% 焼 普 片、石、Fe、 微砂粒、雲 ㊸

表-22 第38a号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	坏	ko 14.7 h 3.0	口端部は丸く、口唇部はわずかに外反する。	外側は口縁部から体部上半はヨコナデ、体部下半はナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部から底部中位はヨコナデ、底中央部はナデ。	㊦㊧ 明橙褐色	残 80% 焼 良 微砂粒、雲 ㊤
2	坏	ko 10.9 h <3.8>	口端部は丸く、外側にわずかに肥厚する。 口辺部はやや外傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部上半は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部下半はナデ。	㊦ 淡褐色 暗橙褐色 ㊧ 暗橙褐色	残 70% 焼 良 片、石 ㊤ Mn、角、雲 ㊦
3	坏	ko 11.0 h 3.5	口端部は丸く、外側に肥厚する。 口辺部はやや内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部上半は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部下半はナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 完 焼 良 片、石、Fe ㊤ 雲 ㊦
4	坏	ko 10.8 h 3.1	口端部は外側に肥厚する。 口辺部はわずかに外傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部上半は木口状工具によるヨコナデ、体部下半はナデ。	㊦㊧ 淡暗褐色	残 50% 焼 良 片、石、雲 ㊤ 角 ㊦
5	坏	ko 11.6 h 4.1	口端部は丸く、外側にわずかに肥厚する。 口辺部は内湾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部上半は木口状工具によるヨコナデ、体部下半はナデ。	㊦㊧ 暗橙褐色	残 完 焼 良 片、石、Fe ㊤ 雲 ㊤ 角 ㊦

表-23 第38b号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko 18.1 t - h <17.8>	口端部は丸い。 口唇部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部は木口状工具による横位のナデのちナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦ 暗橙褐色 ㊧ 淡褐色 暗橙褐色	残 30% 焼 普 片、石、Fe ㊤ 砂粒、角 ㊤

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
2	坏	ko (12.8) h 4.5	口端部は丸い。 口辺部中位に凹線を巡らしわずかに稜をつくりだしている。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊸㊹ 暗褐色	残 70% 焼 普 片、石 ㊺ Fe、角、雲 ㊻ カマド内出土

表-24 第39号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	坏	ko (13.8) h 4.7	口端部は外側は面状をなし、凹線を巡らしている。	外側は口端部はヨコナデのち凹線を巡らしている。 口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部中位から底尖部はナデ。	㊸㊹ 淡暗橙褐色	残 60% 焼 普 Fe、Mn ㊻ 片、石、角 ㊺
2	坏	ko 14.1 h 4.7	口端部は外側に肥厚する。 口辺部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 淡褐色	残 70% 焼 良 片、石、Fe、雲 ㊺
3	坏	ko 14.3 h 3.9	口端部は凹線を巡らしている。 口辺部は大きく開く。	外側は口端部はヨコナデのち工具により凹線を巡らしている。口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部下位は木口状工具によるヨコナデ、底部中央はナデ。	㊸㊹ 暗橙褐色	残 90% 焼 良 片、石、Fe ㊻ 角 ㊺
4	坏	ko (14.7) h <4.0>	口端部内側は面状をなし、凹線を巡らしている。 口辺部中位に凹線を巡らし稜をつくりだしている。 器内外面黒色処理。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデのち凹線を巡らしている。 口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊸㊹ 黒褐色 暗橙褐色	残 30% 焼 良 砂粒、Fe ㊻ 角 ㊺
5	坏	ko 13.1 h 4.4	口端部は尖り気味である。 口唇器内面に凹線を巡らしている。 口辺部中位に凹線を巡らし、稜をつくりだしている。 器内外面黒色処理。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊸㊹ 黒褐色 暗褐色	残 80% 焼 普 砂粒、角 ㊺

表一25 第41a号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko 17.0 t — h (15.1)	口端部は面をなす。 口辺部はやや強く外反する。	外側は口端部は工具による面トリののちヨコナデ、口辺部は工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口辺部は工具によるヨコナデ、胴部は横位のナデののち縦位のナデ。	⑨⑩ 橙褐色	残 40% 焼 普 片、石、Fe ④

表一26 第41b号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko 18.3 t 5.9 h 35.4	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 胴部中位やや下に最大径をもつ。 器外面荒れ顕著。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	⑨ 暗褐色 淡褐色 ⑩ 暗褐色	残 70% 焼 普 片、石、砂粒 ④ Fe、角、雲 ⑤
2	甗	ko 24.4 t 9.2 h 28.8	口端部はやや尖り気味である。 口縁部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	⑨ 淡橙褐色 淡褐色 ⑩ 暗褐色 褐色	残 80% 焼 良 片、石 ④ 砂粒、Fe、角、雲 ⑤
3	埴	ko 10.8 h 13.7	口端部はやや尖り気味である。 器内面口唇部に一条の凹線が巡る。 体部は偏平。 丸底。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部はタテミガキ、頸部はヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部はナナメミガキ、体部上端は指頭によるナデツケ、体部は横位のナデ、底部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	⑨⑩ 暗橙褐色	残 50% 焼 普 微砂粒、片、Fe、石 ⑤
4	坏	ko 13.9 h 4.6	口端部は凹線を巡らし、外側にやや肥厚する。	外側は口端部はヨコナデのち凹線を巡らしている。 口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	⑨ 橙褐色 淡褐色 ⑩ 橙褐色	残 95% 焼 良 片、石 ④ 角、チャ、雲 ⑥
5	坏	ko 14.0 h 4.9	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内湾する。 口辺部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	⑨⑩ 淡暗橙褐色	残 90% 焼 良 片、石、Fe ④ 雲、角 ⑤

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
6	坏	ko 12.5 h 5.1	口端部は丸く、外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデか、底部下半はナデ。	㊦㊧ 淡暗橙褐色	残 80% 焼 普 片、石、Fe ㊤ 角、雲 ㊦
7	坏	ko (10.8) h <4.6>	口端部は丸い。 口辺部は内傾する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部中位から下位はナデ。	㊦ 淡褐色 ㊧ 暗橙褐色	残 10% 焼 普 片、石 ㊤ Fe、角、雲 ㊦
8	坏	ko 12.1 h 4.6	口端部は内側に面をもち尖る。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊦㊧ 橙褐色	残 90% 焼 良 片、石、Fe ㊤ 雲、角 ㊦ チャ ㊧

表-27 第42a号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	須恵器 坏	ko (12.2) t 6.4 h 3.3	口端部は外側に肥厚する。 体部下位がやや張る。	外内ロクろ水挽き成形。 底部回転糸切り。	㊦㊧ 灰色	残 80% 焼 良 片、石 ㊤ Mn ㊦
2	須恵器 坏	ko (12.3) t 5.6 h 3.3	口端部は丸い。 口唇部はやや外反する。 体部はやや張る。	外内ロクろ水挽き成形。 底部回転糸切り。	㊦㊧ 灰褐色	残 90% 焼 良 片、石 ㊦ 角 ㊧
3	須恵器 坏	ko (11.8) t 6.4 h 3.3	口端部は丸い。 口唇部はやや強く外反する。 体部はやや張りをもって開く。 末野産。	外内ロクろ水挽き成形。 底部回転糸切り。	㊦㊧ 灰白色	残 95% 焼 普 片、石、Mn ㊤
4	須恵器 高台付 皿	ko (13.2) t 7.6 h 3.1	底部回転糸切りの後つまみを 接続。	外内・つまみロクろ水挽き成形。	㊦㊧ 灰褐色	残 90% 焼 やや不良 石、白粒 ㊧

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
5	須恵器 蓋	ko (13.1) h <1.9>	天井部は偏平である。 口縁部は直線的である。 口縁部内面のかえりは下端部より突出しない。	ロクロナデ成形のち器内面かえり。 貼付けのちロクロナデ。	㊸㊹ 暗灰色	残 50% 焼 普 片、石 ㊱ Mn ㊲
6	坏	ko 13.0 h 3.7	器形やや歪む。 口端部は丸い。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部はナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 橙褐色	残 完 焼 良 微砂粒 ㊲ 片、石、Fe ㊳

表一28 第42a号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分類	大きさ (cm)	残存率	特徴
1	鉄製刀子	長 (16.4) 身幅 1.6 棟幅 0.4	60%	切先を欠損。 刃部は擦り減って先端に向かって幅が狭くなる。 平造平棟で両関である。 錆化が進行しつつも遺存状態は比較的良好である。

表一29 第42b号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	須恵器 蓋	ko (15.6) h <4.3>	天井部と口縁部の境い目の稜は鈍く、直下の凹線は明瞭である。 口縁端部内側は凹線を巡らせている。	ロクロ水挽き成形。	㊸㊹ 灰褐色	残 30% 焼 良 片、石、砂粒 ㊲

表一30 第43号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	坏	ko (11.9) h 3.2	口端部は丸い。 口唇部は直線的に外反する。 口辺部は直立気味に立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデか、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㊸㊹ 褐色	残 40% 焼 普 微砂粒、片、石 ㊲ Mn、雲、角 ㊳

表-31 遺構外出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	坏	ko 13.2 h 3.5	口端部は丸い。 口辺部はゆるやかに内湾する。	外側は口辺部はヨコナデ、体部はナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から体部はヨコナデ、底部はナデ。	⑨⑩ 橙褐色	残 60% 焼 普 微砂粒、Fe ④ 片、石、角、 雲 ②

凡 例

- 1.観察表における番号は各遺物図版中の番号・写真図版中の番号に対応している。
- 2.表中における大きさの略号は、ko は口径、t は底径、h は器高、g は鏝部径、kd は高台部径、W は幅を表わしている。また、() は推定値、< > は残存値を示している。
- 3.色調欄における ⑨ は器外面を、⑩ は器内面を表わしている。
- 4.胎土・備考欄の鉱物等の略号は以下のとおりであり、その含有量については多量、中量、少量、微量をそれぞれ ③、④、⑤、⑥ で表わしている。片：片岩粒 石：石英粒 チャ：チャート
白粒：白色粒子 黒粒：黒色粒子 角：角閃石 雲：雲母粒 Fe：鉄斑粒 Mn：マンガン粒
白針：白色針状物質
- 5.遺物実測図の縮尺はそれぞれ図に示してあるが原則として土器は1/4、その他は2/3である。

第Ⅳ章 まとめ

本遺跡が占地している沖積地に浮かぶような島状の微高地は、その範囲が東西約400m南北約300m位を測ると推定され、現在では集落と墓域及び畑地となっている。この微高地に付いて本調査を合わせ隣接地に於いても調査が行われており、ある程度の遺跡の様相が明らかにされつつある。さて本章では、既に調査報告済みの調査地点の結果を踏まえて本調査の成果と問題点及び今後の見通しに付いて簡単ではあるが調査の成果としてまとめにかえたい。

本遺跡は、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての竪穴式住居址が33軒検出されている。既に調査報告がされている金佐奈遺跡A 1地点（徳山他、1997）や金佐奈遺跡B地点（1992調査）の隣地に当たり竪穴式住居址の件数を総合計すると数百軒にも上る。更に、同じ微高地の西側を神川町が調査しており（反り町遺跡 金子他1995）やはり、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての竪穴式住居址を十数件検出している。これらの事から、児玉町金佐奈遺跡と神川町反り町遺跡で検出された集落址は同一の集落址であり常に反り町遺跡の集落は、金佐奈遺跡の該期の集落の西端に位置していたと指摘されている。（金子、1995）これらの事から金佐奈遺跡が占地している微高地状の集落のあり方がやや復元でき、遺構は東へ行くほど密集しているようである。

そのほか、各住居址カマドの設置されている方向に特徴がみられ、金佐奈遺跡では主に北東側壁にカマドは設置されており希に北側壁にカマドが設置されている。これに比べ、反り町遺跡では西側壁にカマドが設置されている例が多く希に北側にカマドが設置されている。これらの事象は方向に相反するものがあるが、遺跡が占地している微高地の低い方にカマドが設置されているという共通点があることが解る。

更に、本遺跡付近の堆積土の状態に付いては各遺構共に複雑に切り合っており、特に遺構の覆土同士が切り合うことによって余計に複雑な状況を示している。また、遺構の確認面であるハードローム層直上の層は焼土粒・炭化物・土師器などの小片を多く含んだ層であった。この事はこの層が畑の耕作土層であることが想定される。さらにこの層は、浅間山系B軽石を含んでいるが浅間山系A軽石は含んでいない。この事からこの土層は中世前後に形成された耕作土層であると推定でき当時の開墾がかなり大規模であったか深部に影響を与えるものであったが窺える。特に、掘り込みが浅い平安時代の竪穴住居址に到っては殆ど原形を保っていないかった。

本章では、ただばくぜんに事象だけを取り上げたが資料が増えたおりに稿を改めて時期差などにも触れ分析を試みたい。（徳山寿樹）

引用・参考文献

- 赤熊浩一他(1988)『将監塚・古井戸遺跡・歴史時代編Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第71集
- 井上尚明 (1986)『将監塚・古井戸遺跡・歴史時代編Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第64集
- 金子彰男他(1994)『庚申塚遺跡・愛染遺跡・安保氏館後・諏訪ノ木古墳』神川町教育委員会文化財発掘調査報告書
- 恋河内昭彦(1990)『塩谷下大塚遺跡』児玉町文化財調査報告書第11集
- 恋河内昭彦(1991)『真鏡寺後遺跡Ⅲ－C・F・D地点の調査－』児玉町文化財調査報告書第14集
- 坂本和俊他(1976)『大御堂松下・女堀遺跡発掘調査報告』埼玉県遺跡調査会報告書第28集
- 坂本和俊他(1986)『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県県史編さん室
- 鈴木徳雄 (1989)『九郷用水関係資料集』児玉町史料調査報告第12集
- 鈴木徳雄 (1989)『真下境東遺跡』児玉町文化財調査報告書第9集
- 鈴木徳雄他(1991)『辻ノ内・中下田・塚畠・内手・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第15集
- 篠崎潔・田村誠・金子彰男(1995)『真下境西・反り町・八荒神北・八荒神南遺跡』神川町教育委員会文化財調査報告書第12集
- 篠崎 潔 (1990)『皂樹原・松下遺跡Ⅱ奈良・平安時代編1』皂樹原・松下遺跡調査文化財調査報告書第2集
- 篠崎 潔 (1991)『皂樹原・松下遺跡Ⅲ奈良・平安時代編2』皂樹原・松下遺跡調査文化財調査報告書第3集
- 篠崎 潔 (1992)『皂樹原・松下遺跡Ⅳ奈良・平安時代編3』皂樹原・松下遺跡調査文化財調査報告書第4集
- 徳山寿樹他(1996)『東鹿沼・藤塚B1・児玉条里遺跡』児玉文化財調査報告書第21集
- 徳山寿樹他(1997)『金佐奈遺跡－A1地点の調査－』児玉町文化財調査報告書第24集
- 徳山寿樹他(1997)『金佐奈C・児玉条里遺跡上田地区』児玉町文化財調査報告書第25集
- 富田和夫他(1981)『立野南・八幡大神南・熊野大神南・今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第46集
- 増田一裕 (1992)『女堀川条里今井地区・前田甲遺跡発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告書第20集

圖 版

図版 1

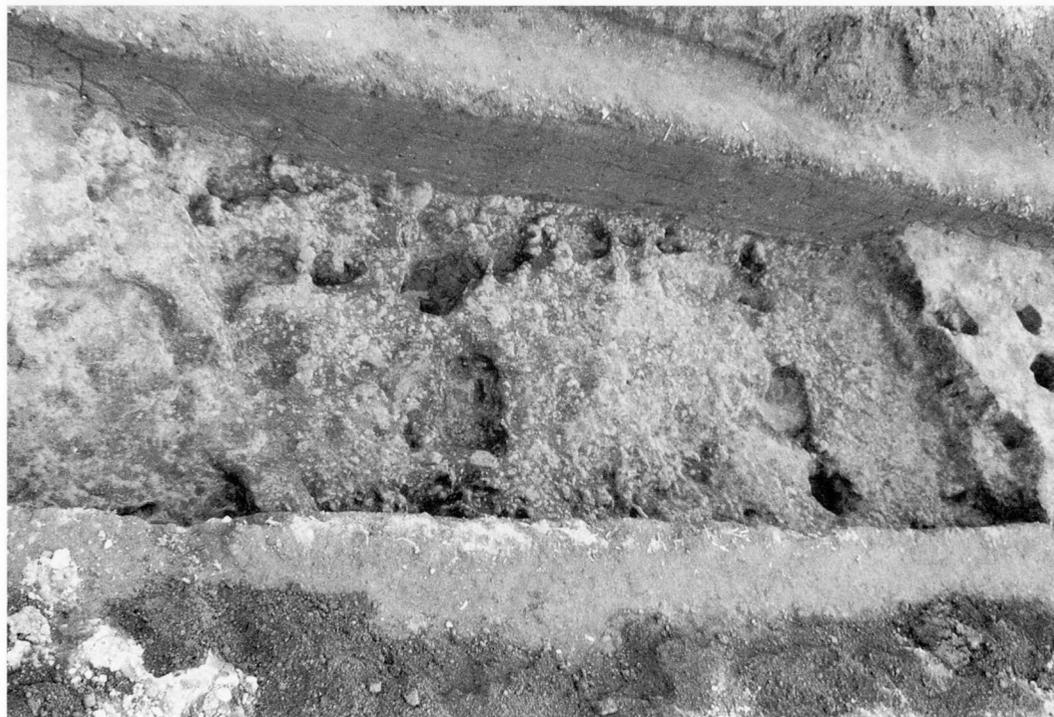


1. 金佐奈遺跡A-2地点 第13号住居址(北より)



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第13号住居址カマド(西より)

図版2



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第27a・b号住居址（北東より）

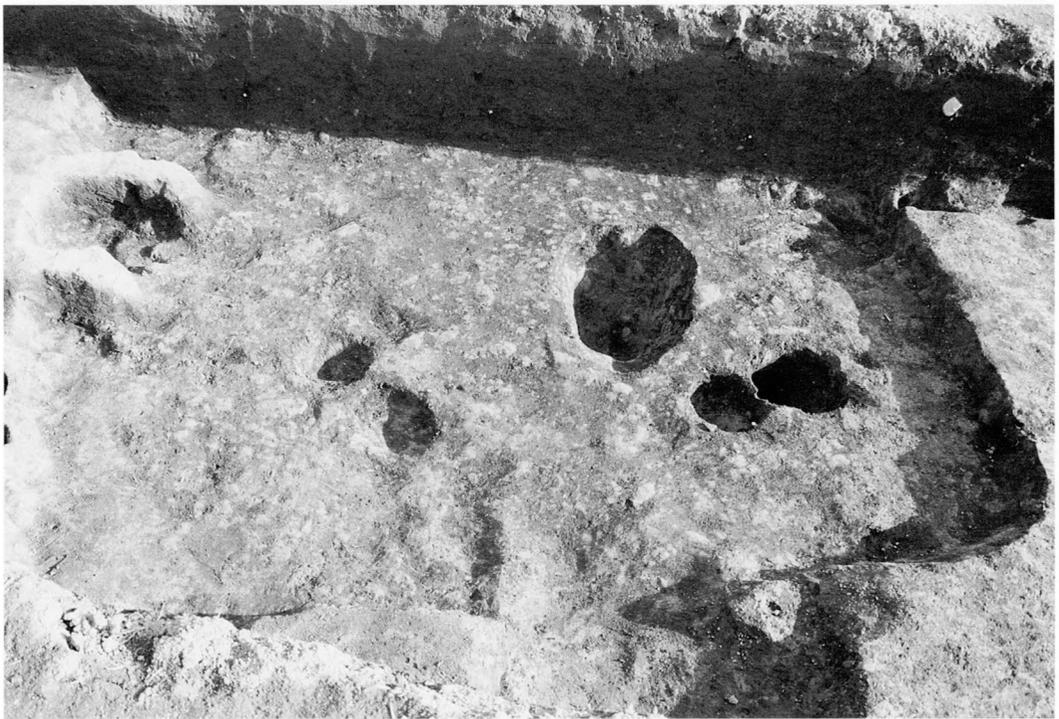


2. 金佐奈遺跡A-2地点 第27a・b住居址（西より）

図版3



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第27a号住居址カマド（南より）

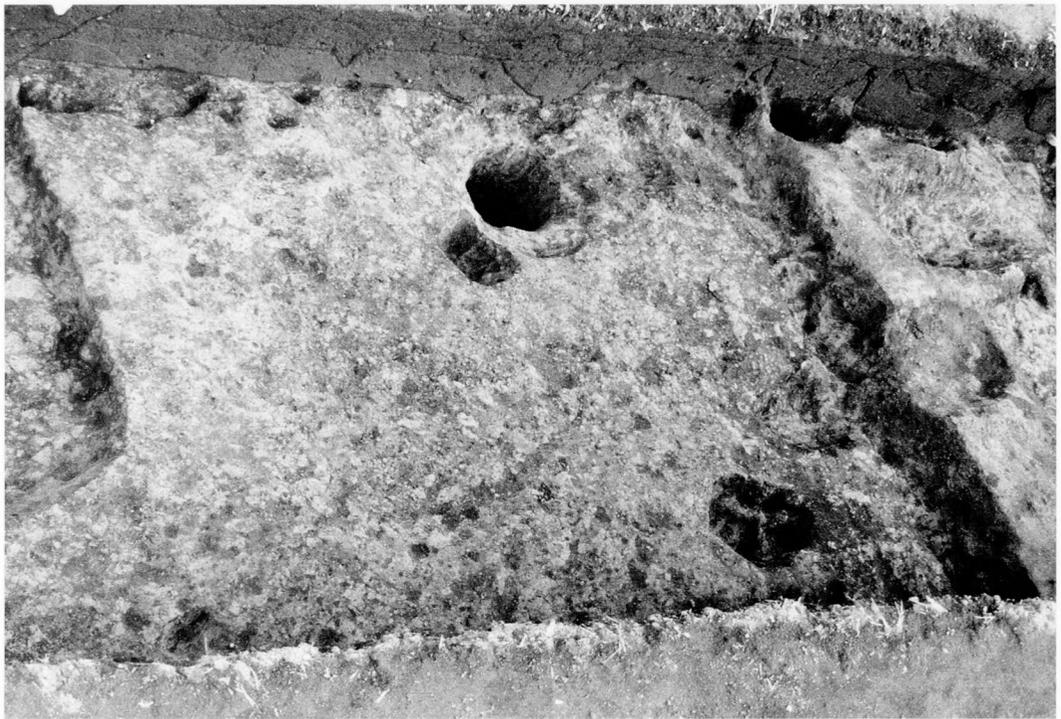


2. 金佐奈遺跡A-2地点 第28a号住居址（北より）

図版4



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第28a号住居址カマド (西より)



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第28b号住居址カマド (北より)

図版5



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第29a・b・c・d号住居址（北より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第29a号住居址（南東より）

図版6



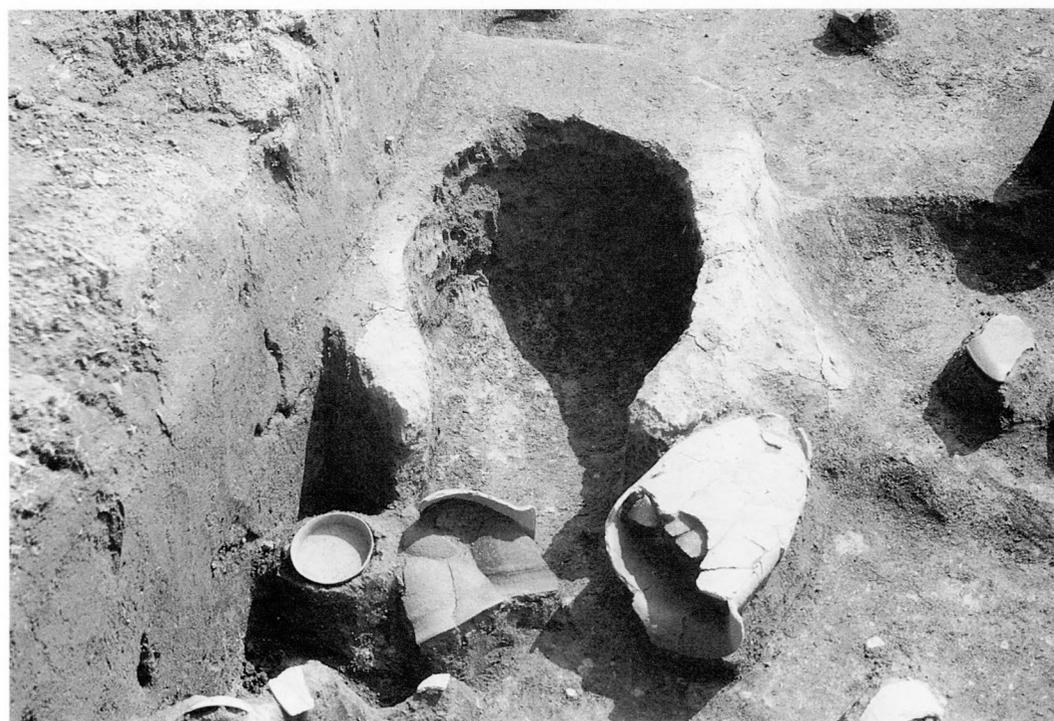
1. 金佐奈遺跡A-2地点 第29a号住居址カマド（南東より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第29b号住居址（西より）

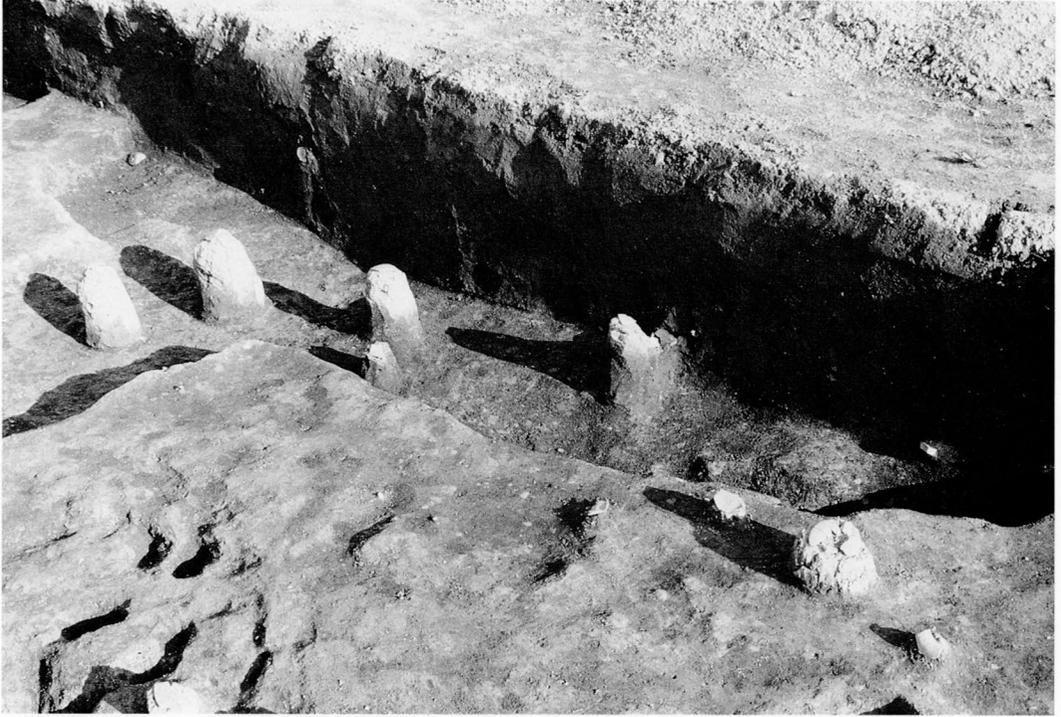


1. 金佐奈遺跡A-2地点 第29c号住居址（南西より）

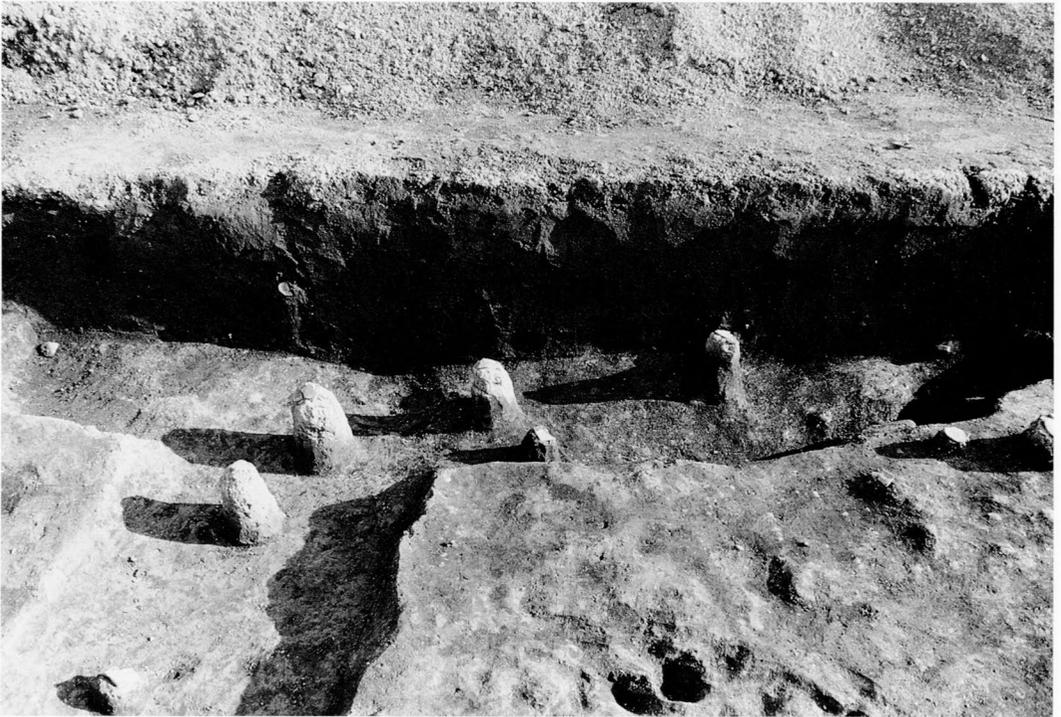


2. 金佐奈遺跡A-2地点 第29c号住居址カマド（西より）

図版8



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第30号住居址（北西より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第30号住居址及び1号溝（北より）

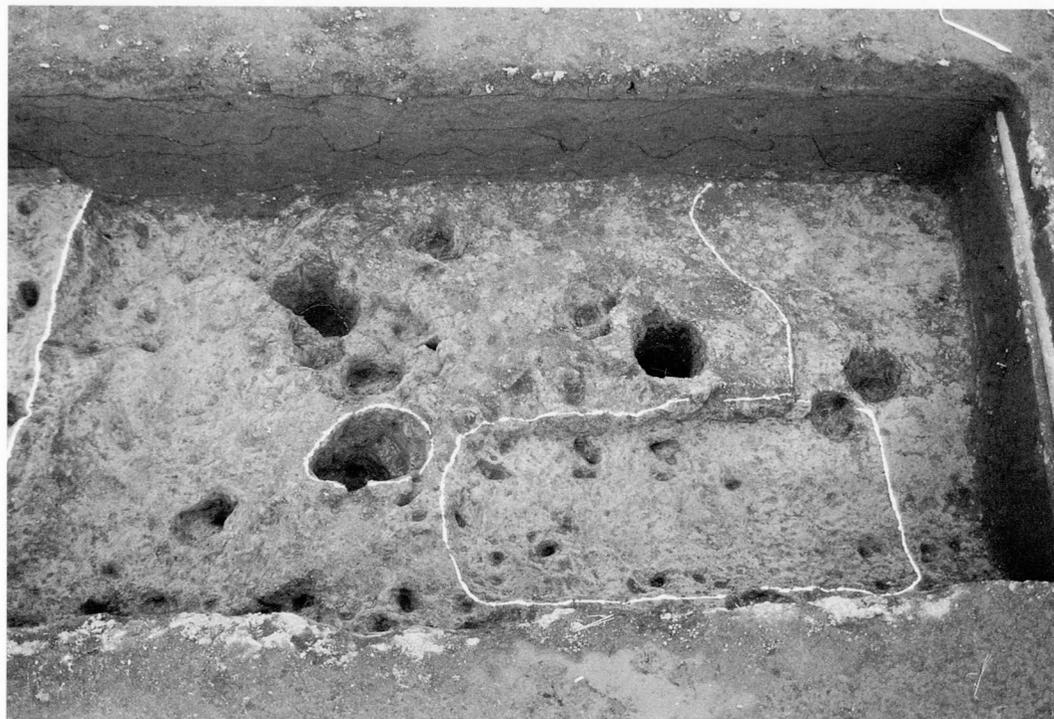


1. 金佐奈遺跡A-2地点 第31号住居址（東より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第31号住居址及び1号土壙（北より）

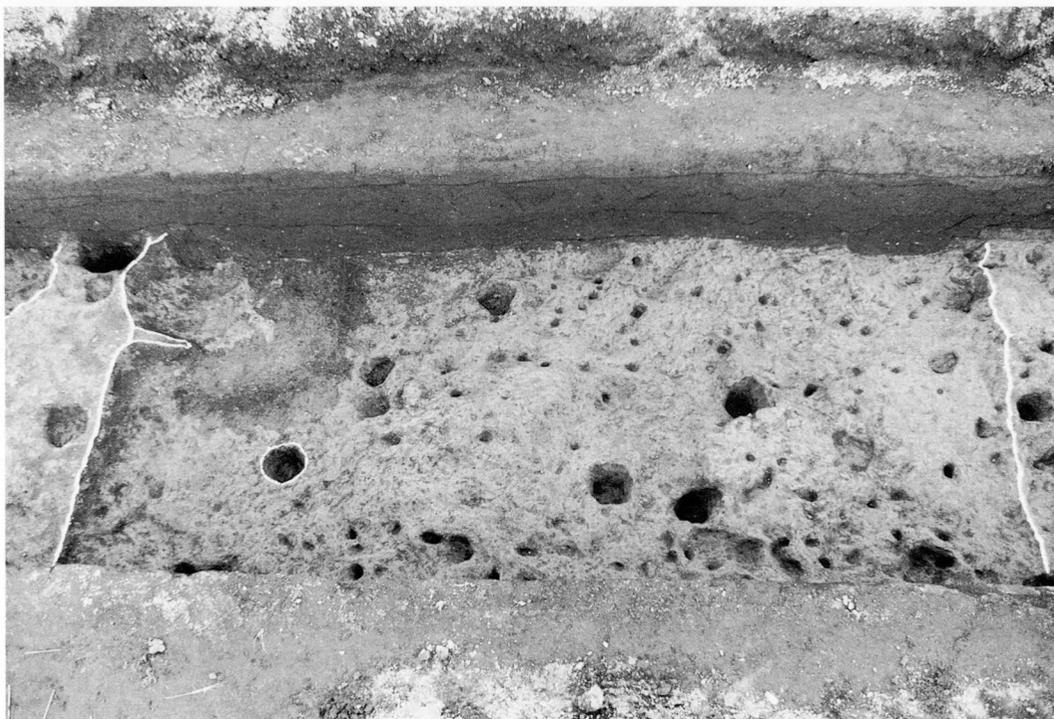
図版10



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第32a・b号住居址及び3号土壙（北より）



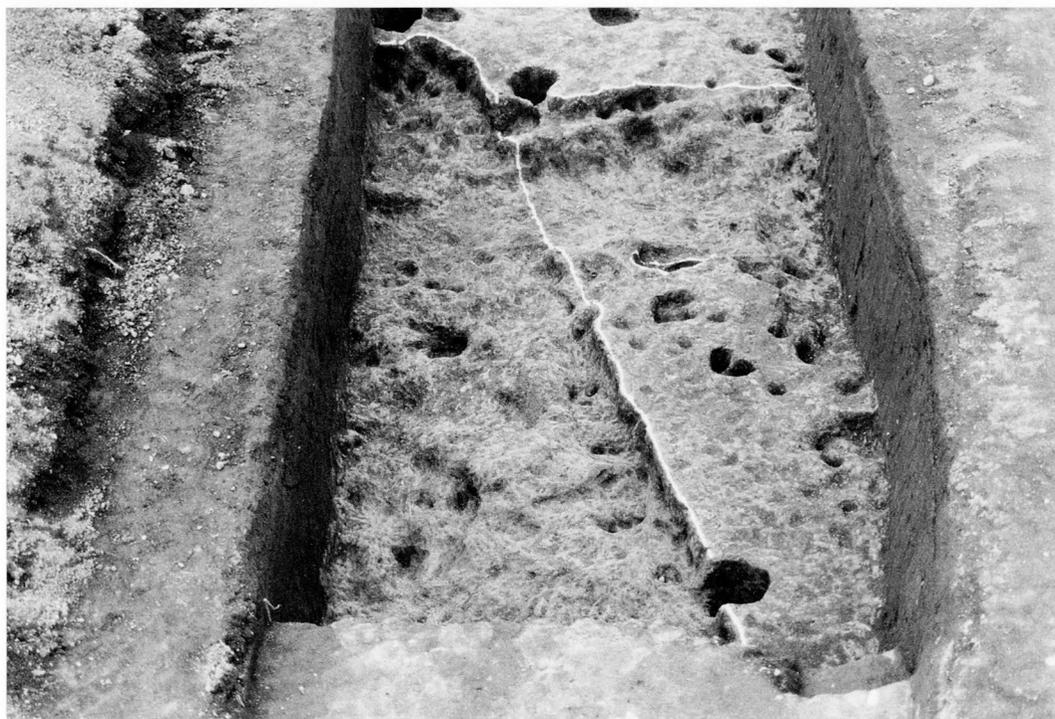
2. 金佐奈遺跡A-2地点 第32a・b号住居址西側（北東より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第33a・b号住居址（北より）



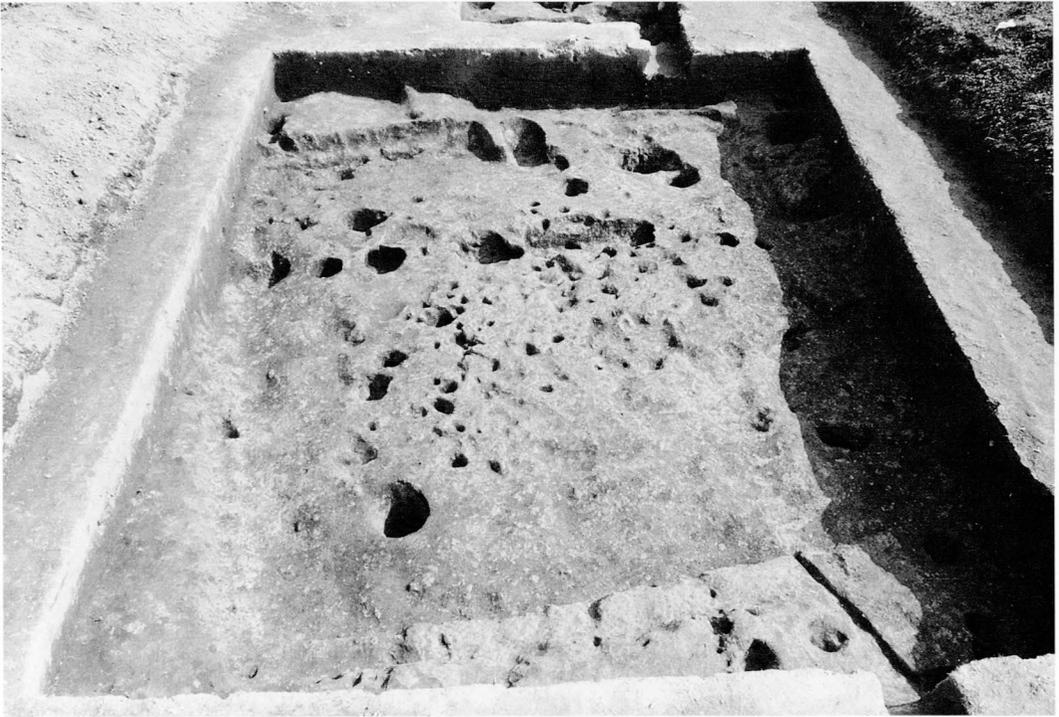
2. 金佐奈遺跡A-2地点 第33a号住居址カマド（西より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第34a・b号住居址（東より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第IV区（第35b号住居址）拡張前（西より）



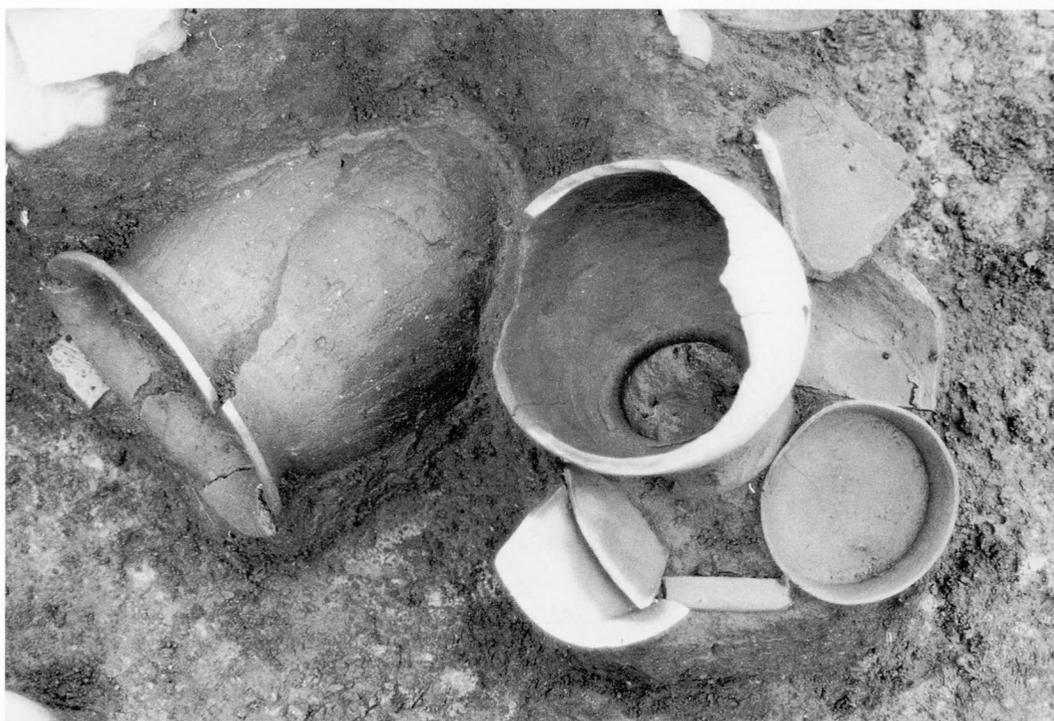
1. 金佐奈遺跡A-2地点 第35a・b号住居址（西より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第35b号住居址カマド（西より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第35b号住居址遺物出土状態



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第35b号住居址遺物出土状態



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第35b号住居址遺物出土状態



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第35b号住居址遺物出土状態



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第35b号住居址遺物出土状態



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第35b号住居址鉄製品出土状態

図版17



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第36号住居址（北より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第37a・b号住居址（南西より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第38号住居址（西より）



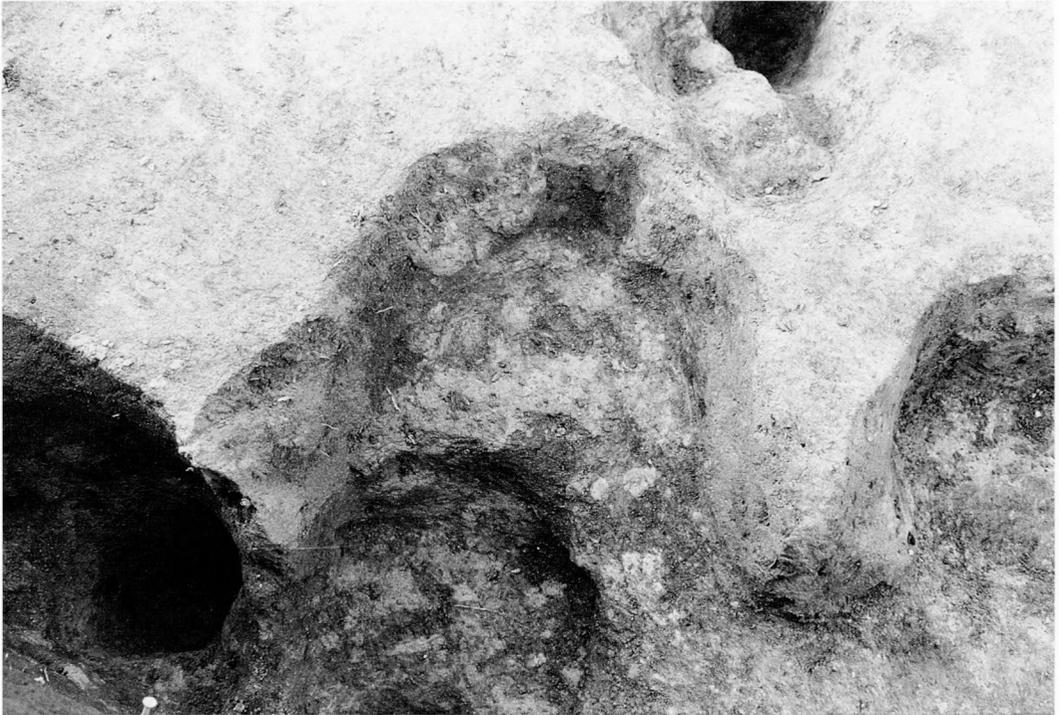
2. 金佐奈遺跡A-2地点 第37b号住居址遺物出土状態



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第38a号住居址（北東より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第38b号住居址（北より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第38b号住居址カマド（南より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第39号住居址（北西より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第39号住居址カマド（北東より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第40号住居址カマド（北西より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第40号住居址カマド（南西より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第41a号住居址カマド（北西より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第41a・b号住居址遺物出土状態



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第41a号住居址カマド（北より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第41b号住居址遺物出土状態



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第42a号住居址鉄製品出土状態



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第42a・b号住居址（西より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第42a号住居址カマド（北より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第42b・c号住居址（東より）



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第42b・c号住居址（西より）



1. 金佐奈遺跡A-2地点 第42b号住居址(東より)



2. 金佐奈遺跡A-2地点 第42c号住居址(北より)



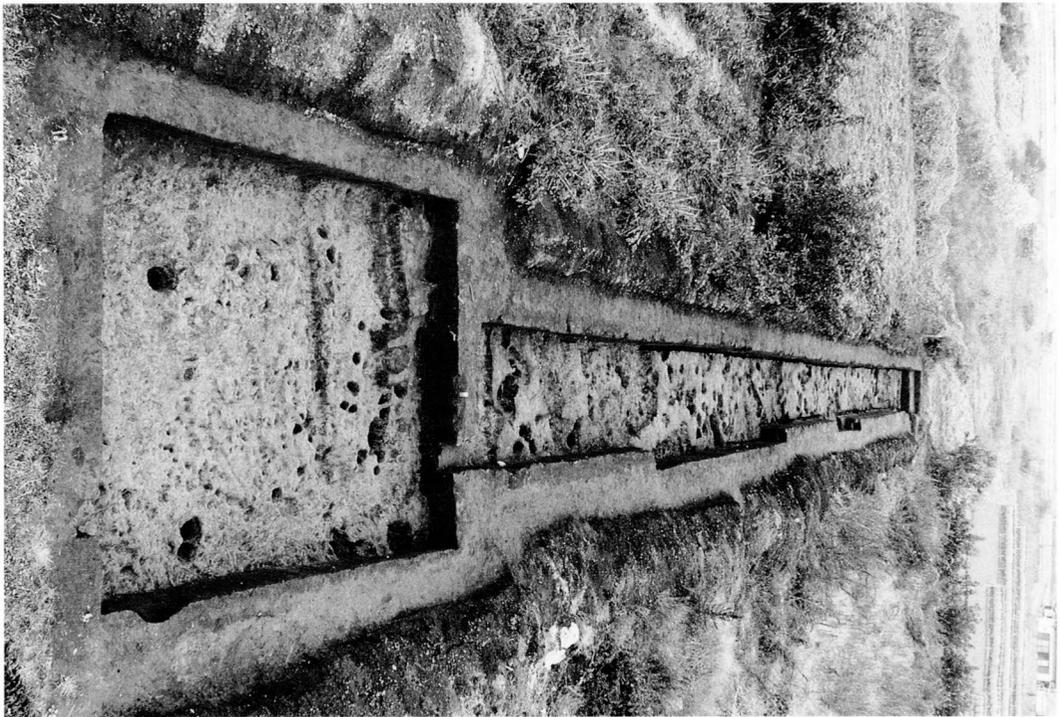
1. 金佐奈遺跡A-2地点 I区全景(北東より)



2. 金佐奈遺跡A-2地点 II区全景(北東より)



1. 金佐奈遺跡A-2地点 III区全景(東より)



2. 金佐奈遺跡A-2地点 IV・V区全景(西より)



1. 金佐奈遺跡A-2地点 西側全景



2. 金佐奈遺跡A-2地点 東側全景

图版31





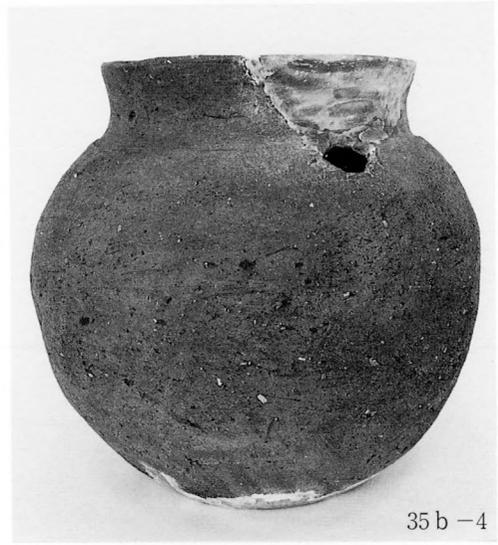
图版33



图版34



图版35



图版36



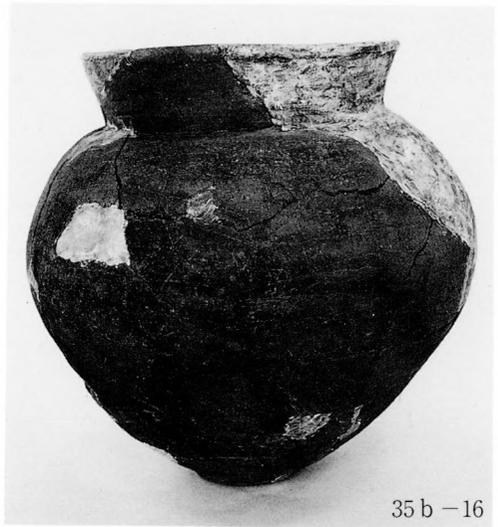
图版37



图版38



35 b - 15



35 b - 16



35 b - 17



35 b - 20



35 b - 46



35 b - 44

图版39



图版40



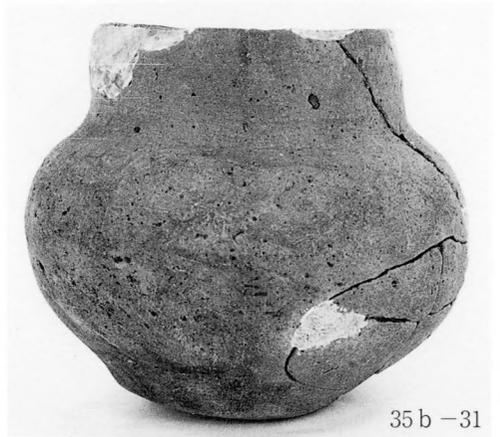
35 b - 27



35 b - 30



35 b - 28



35 b - 31



35 b - 29



35 b - 32

图版41



35 b - 33



35 b - 38



35 b - 34



35 b - 39



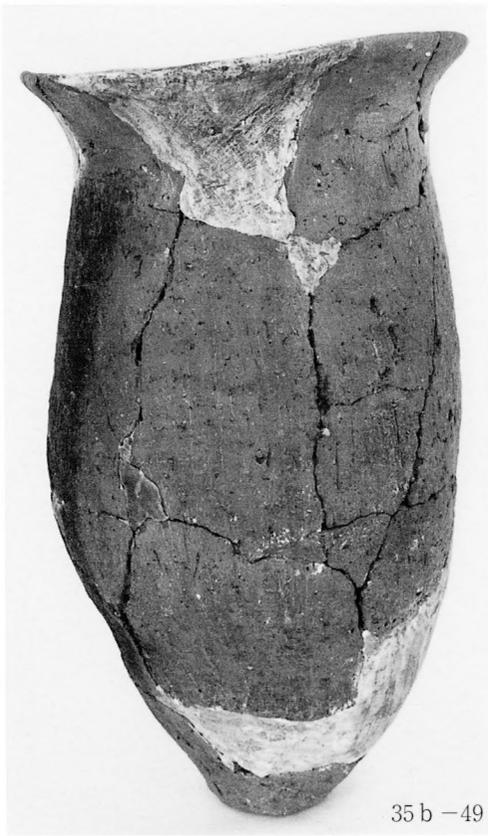
35 b - 37

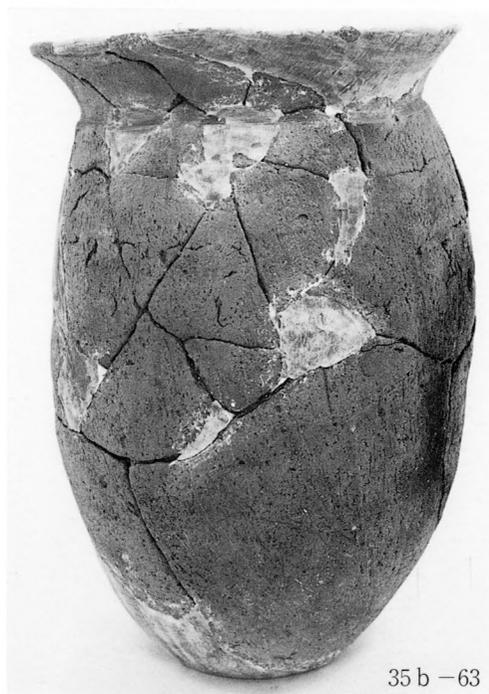


35 b - 40

图版42







图版45



35 b - 53



35 b - 54



35 b - 55



35 b - 64









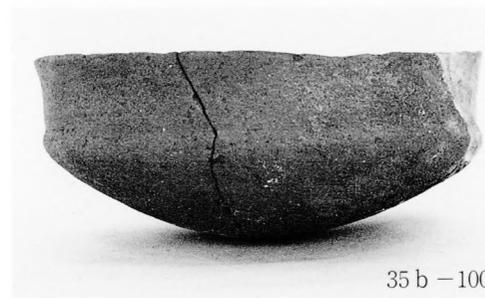
图版50



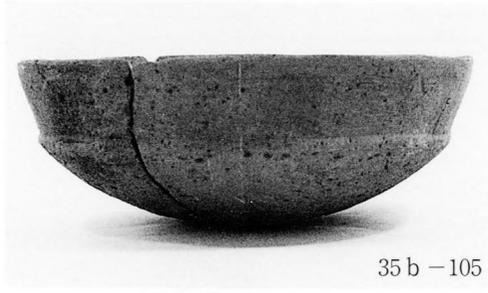
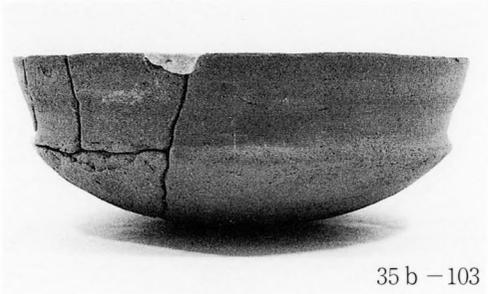
图版51



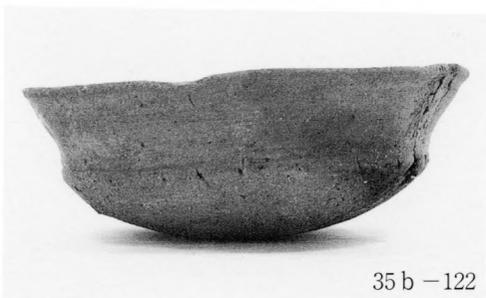
图版52



图版53



图版54



图版55



图版56



35 b - 134



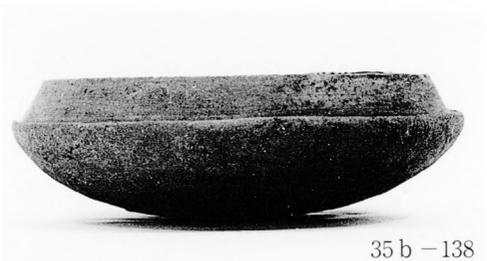
35 b - 135



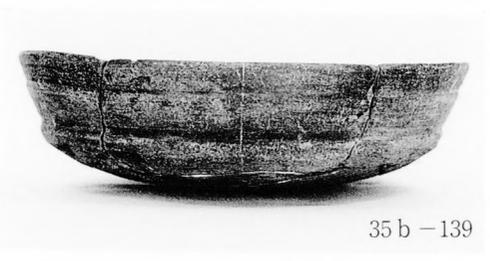
35 b - 136



35 b - 137



35 b - 138



35 b - 139



35 b - 140



35 b - 141



35 b - 142



35 b - 143

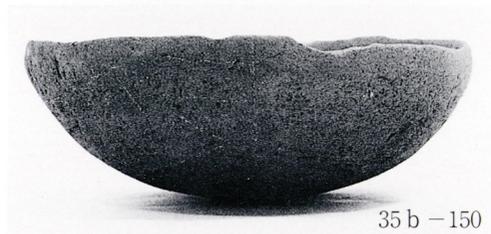
图版57



35 b - 144



35 b - 146



35 b - 150



35 b - 153



35 b - 154



35 b - 145



35 b - 147



35 b - 149

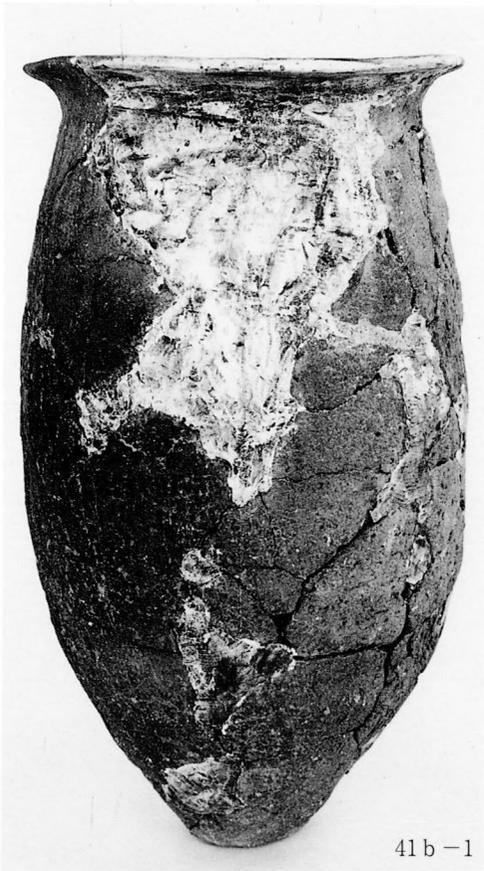


35 b - 151

图版58



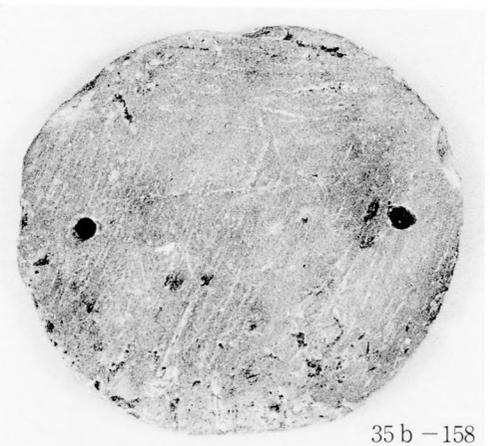
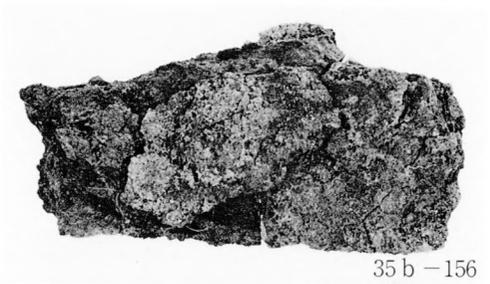
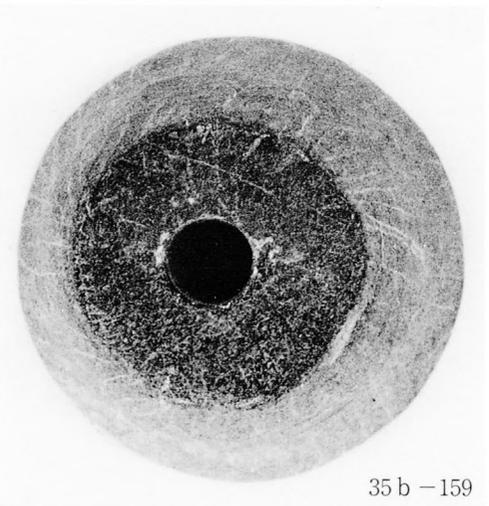
图版59



图版60



图版61



報告書抄録

フリガナ	カナサナイセキA2チテン							
書名	金佐奈遺跡A2地点							
副書名	町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書	巻次	24					
シリーズ	児玉町文化財調査報告書	巻次	第29集					
編集者	徳山 寿樹・大熊 季広							
編集機関	児玉町教育委員会							
所在地	〒367-0298 埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368番地 TEL 0495 (72) 1331							
発行日	1998 (平成10) 年3月20日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
カナサナイセキ 金佐奈遺跡 (A2地点)	コダマダンコダママチ 児玉郡児玉町 オホアサガミマシミアガ 大字上真下字 カナサナイ 金佐奈他	113824	298	36°12'5"	139°8'0"	19910613 ＼ 19920207	300	県営かん 排事業 (九郷地区)
所収遺跡	種別	主な年代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
金佐奈遺跡 (A2地点)	集落	古墳後期	竪穴住居20			土器		
		奈良	竪穴住居 3			土器		
		平安	竪穴住居 5			土器		
			竪穴住居5・土壙				詳細な時 期不明	

児玉町文化財調査報告書第29集

金 佐 奈 遺 跡

— A 2 地点の調査 —

町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書

平成10年3月13日印刷

平成10年3月20日発行

発行者 児玉町教育委員会
埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368

印刷所 たつみ印刷株式会社
埼玉県深谷市東大沼356

